



大正五年十月印刷

慶應義塾總覽



始



282-15

慶應義塾總覽

目次

第一章 沿革概略	一頁
第二章 目的、組織	二頁
第三章 規約	四頁
第四章 學則及特典	四頁
一 通則	四頁
其一 學年、學期及休日	一五頁
其二 學生心得及罰則	一六頁
二 大學部規則	一八頁
三 普通部規則	四六頁
四 幼稚舍規則	六四頁
五 商工學校規則	七四頁

目次

塾寄贈本

大正 5.10.21 寄贈

六 商業學校規則……………九四

七 特典……………一〇一

第五章 寄宿舎規則……………一〇二

第六章 圖書館規則……………一〇六

第七章 體育會規則……………一〇七

第八章 幹事及主任……………一〇七

第九章 學事評議會規則……………一一四

第十章 教員會議……………一一四

第十一章 學資保管及學資……………一一六

第十二章 三田演說會大講堂及諸學會、俱樂部 附「雜誌の刊行」……………一一九

第十三章 海外留學生……………一二一

第十四章 基本金募集及維持會附「三田評論」……………一二三

第十五章 中上川獎學資金……………一二六

第十六章 慶應義塾出版局……………一二六

第十七章 寄宿舎消費組合……………一二七

第十八章 同窓會規約……………一二九

第十九章 修身要領……………一三〇

第二十章 塾長及教職員……………一三五

第二十一章 體育會役員及職員……………一四八

第二十二章 慶應義塾役員及維持會相談役……………一四八

第二十三章 卒業生……………一五二

第二十四章 大學部本科學生……………二一三

附 錄

自安政五年創立
至明治二十一年 慶應義塾記事……………二三〇

慶應義塾之記……………二三七

中元祝酒之記……………二三八

慶應義塾新年發會之記……………二三九

日本演說ノ由來……………二四〇

三田演說會第百回之記……………二四四

慶應義塾ノ學風……………二四六

本塾統計一斑……………二五一

本塾土地建物備品調及本塾總資産調……………二五四

本塾土地建物平面圖(二葉)

慶應義塾總覽

第一章 沿革概略

本塾は安政五年の冬、江戸鐵砲洲奥平藩邸内に創立したるものにして初は蘭書を講授したりしが文久二三年の頃より専ら英書を教授することとなせり、慶應四年即ち明治元年、奥平邸は外國人の居留地と爲れるを以て芝新錢座に塾舎を新築して之に移轉し其時の年號を取りて慶應義塾と名づけり、當時は内國變亂の最中にして生徒中國事に奔走する者多く生徒の總數僅に十八名に減じたることあれども本塾は一日も業を廢せず維新の風雲漸く收まりて生徒大に増加し新錢座の地所建物も狹隘を感ずるに至れるを以て更に明治四年の春、舊島原藩邸に移轉せり即ち現今の東京市芝區三田二丁目二番地の慶應義塾是れなり、爾來來學する者益々夥しく既に多數の人材を養成せしは世人の知る所なり、創立以來、學制は次第に改良進歩の運に向ひ明治二十三年には大學部を新設して理財、法律、文學の三科を置き明治三十年更に政治科を加へたり、而して大學部の新設と共に學事系統の方針を確定し之を遂行せり即ち従前の正科は明治二十九年七月に、別科は明治三十一年四月に孰れも之を廢止し又正

科廢止の際に設けたる高等科は明治三十年四月に之を廢止して遂に現今の普通部を設置し斯くて幼稚舎、普通部、大學部の聯絡を整へ大學部を以て本塾の主腦と爲したり、幼稚舎は明治七年の創立にして一種の特色ある小學校なり、又明治二十三年、本塾内に簡易なる商業夜學校を設置し尙ほ別に甲種程度の商工學校を明治三十八年四月より開設せり、本塾現今の學制を往時と比較すれば實に異常の變化なれども去りとして一朝一夕の間に過激なる變革を爲したるに非ずして時運に應じ漸次改良を加へ來れるなり、回顧すれば創立以來茲に五十九年、此間本塾は獨立の經營を以て獨立の人物を養成し國運の進歩に多大の貢獻を爲したり

第二章 目的、組織

目的

本塾は單に一所の學塾として自から甘んずるを得ず其目的は我日本國中に於ける氣品の泉源、智徳の模範たらんことを期し之れを實際にしては居家處世立國の本旨を明にして之を口に言ふのみならず躬行實踐以て全社會の先覺者たらんことを欲するものなり

組織

本塾には小學程度の幼稚舎あり、中學程度の普通部あり、高等の學術を教授する大學部ありて、小學より大學にいたるまで、相連絡して學生をして中途方向に迷ふの憂なからしむ、外に甲種程度の商工學校あり、簡易なる商業夜學校あり

幼稚舎 (尋常小學)

幼稚舎は小學科の程度に據り、幼年子弟の身心を健全ならしむるの目的を以て教育を施す所にして、其修業年限は六箇年なり、入學者は滿六歳以上の男子に限り、卒業者は無試験にて本塾普通部第一學年又は商工學校豫科第一學年に編入す、幼稚舎の普通小學校と異なる所は、第一寄宿舎を備ふることなり、寄宿舎内には數名の監督數名の保母を置いて、起居、眠食、衣服、調度、沐浴、洗濯その他一切の細事に至るまで懇切に世話せしめ、恰も我家に在るの感あらしむ、殊に體育の點には注意を加へ、起居眠食等亦自ら規律正しきが爲め、之を從來の成績に徴するも、幼稚舎生の體格は概して發育著しきが如し、次に幼稚舎にては特に外國教師を雇ひ、生徒をして始めより英語を練習せしむ、將來大學

に入て高等の學問を修むるにも、將た學校を出て、世務に當るにも、英語は最も必要にして、又外國語の發音は幼少の時より練磨するを肝要となせばなり、加ふるに明治四十三年九月よりは我國の小學教育界に殆ど絶無とも云ふべき理科實驗室を新たに設け兒童をして自ら理科の實驗をなさしめ木工科をも加へて構成工夫の興味を惹起せしむるの設備を整へたり、世間普通の小學校を見れば、授業料をも全廢し如何なる貧子弟をも悉く就學せしめんとするの方針にして教育普及の爲めには至極結構のことなれども、高尚なる氣品を養成するには幼稚舎の如き特種の小學校を要するなり

普通部 (中學部)

普通部の課程は中學校と同一の程度にして、修業年限は五箇年なり、本塾幼稚舎卒業生及尋常小學校卒業生は無試験にて第一學年に入學せしめ、卒業せば大學部豫科一年級へ進級せしむ、英語の學習は普通部に於ても重きを置く所にして内外國人をしてその教授に當らしむ、智徳の養成と共に體育を重んずるは、本塾多年來の特色にして其設備整然たり

補習科 (普通部附屬)

補習科は官公私立の中學校卒業生にして、本塾大學部に入らんとするも學期中途にして入ること能はざる者又はその入學試験に合格せざりし者の爲めに、英語を始めとして、數學、國文、漢文、理化學を教授し、學年試験に及第したるものを大學部豫科一學年に編入す

大學部

大學部は本塾の主腦にして、幼稚舎と普通部とはその階梯なり、而して單に高尚の學理を講ずるのみならず、最も徳性の涵養に努む、大學部を分ちて、豫科二年、本科三年とす、本科は理財科、法律科、政治科、文學科の四科あり、其中文學科は更に文學、哲學、史學の三部に分る、豫科にては文學科志望のもの外は未だ専門に入らず、本科第一學年よりして各々志す所の學科を專攻せしむ、大學教育に不便を感ずるは、適任の教授を得るの一部にして、本塾の如きも始めは世間の學者に依頼して用を辨じたれども、何時までも斯る有様に満足するを得ず、明治三十二年始めて數名の留學生を英米佛獨の諸國に派遣し、爾來年々數名を派遣しつつあり、其の多數は既に業を終りて歸來し、大學部の教授たり、其効果は著々として現はれ、我大學教育に一新面目を開きたり

大學部に大學院あり、大學院は、大學部本科卒業生にして既修學科につき更に其蘊奥を研めんと欲す

る者の攻究を補翼する所なり、本塾は大學院學生のため其攻究に關し種々の特別なる便宜を與ふ、大學部本科を卒業したる者は、慶應義塾理財學士、同法律學士、同政治學士、同文學士と稱するを得

商工學校

商工學校は甲種程度の實業學校にして、修業年限は豫科二箇年、本科四箇年なり、豫科には尋常小學卒業者を無試験にて入學せしめ本科には中學二學年修了の學力ある者を入學せしむ、世の實業學校は商事教育若しくは技術教育の一方に偏するの常なれども本校の目的は珠算、記帳、英語等商事上日用必須の學課を始めとし實際的の學問を授け兼ねて理科、圖畫等の學課に依つて礦物化學の實習、發動機の構造、材料の性質等に關する工業上の一般知識をも與へ精確と秩序とを重んじて職業を樂しむの氣風を涵養し専ら商工界の實務に適應すべき人物を養成せん事を期するに在り

商業夜學校

商業夜學校は簡易にして實用に適切なる商業學科を教授する所にして、高等小學卒業又は年齢十五年以上の者は無試験にて初級へ入學せしめ、然らざる者は簡易なる算術及び讀方の二科目を試験す、修

業年限は二箇年なり、規定の學課を授くる外、時々科學に關する通俗講話を試み、力めて知識の一方に偏するの弊を防ぐ、種々の事情に依り専ら勉學を爲すこと能はざる者若しくは商家の徒弟にして餘暇を利用し商業上有用の學科を一通り習得せんとするものには至極適當なり
又一昨年より中等教育若しくは高等教育を受けて實業界に入る者の爲めに專修科を設け簿記珠算商用英語の内隨意選擇して一科を專攻し若しくは二科或は三科を兼修せしむることとせり

寄宿舎

本塾には幼稚生寄宿舎の外に普通部商工學校及大學部學生の寄宿舎あり、約四百人を容るるに足る、室を自修室と寢室とに區別し自修室には椅子、テーブルを用ひ、寢室には寢臺を用ひ、電燈あり蒸氣管あり諸般の設備殆ど全し、下宿屋生活は起居眠食自ら不規律となり易き處あるが故に、普通部及商工學校生徒は父兄又は親戚知人等の家より通學する者の外總て寄宿舎に入らしむるの趣意なり
寄宿舎には數名の舎監ありて、全寄宿生の品行、起居、眠食、學課自修等の監督を爲す、又一年に數回舎監自ら率先して遠足若しくは茶話會を催し、或は塾長以下教職員を招待して晚餐會を開くことあり教師生徒打ち雜りて談笑を交ふる様、宛然一大家庭を見るが如し、殊に四月二十三日の義塾記念日

の如き日には、學生各自種々の造り物を考案して父兄知人等を招きて觀覽に供し、或は夜間に餘興を催ふして平素修學のみに鬱屈せる氣を散ずる等の趣向もあり、舍監の下に寮長あり、室長あり、學術品行共に優良の學生を之に選任す

舍内に消費組合の設けあり、教科用書籍を始め、シャツ、帽子、シャボン、筆、紙、墨其他學生の日用品を原價同様にて購求するを得るの仕組なり、又新聞俱樂部、洗濯俱樂部等あり、何れも寄宿生をして實利と快樂を享けしむるものにあらざるはなし

年齢幼稚なるか、若しくは其他の故を以て寄宿舎に入るを冀はざる學生には、本塾教職員の家を寄宿するの便あり、其家の主人は寄宿生をば家族として待遇し、金錢上の世話を初め、起居眠食その他百般の事に付き忠告し差圖すべし、費用は寄宿舎に在ると左したる差異なかるべし

圖書館

高等教育に最も缺く可らざるは圖書館の設備なり、近世の大學教育は大宇圖書館に依て授けらるると云ふも決して失當の言に非るべし、目下本塾の圖書館は和漢洋の書籍約八萬冊を藏め法律、經濟、政治、文學等に關する著譯書及び辭書類は殆んど整備せり、故小幡篤次郎氏記念圖書故正金銀行倫敦支

店長中井芳楠氏記念圖書故日原昌造氏記念圖書其他故星亨氏遺愛の藏書約二萬冊及佐々木哲太郎氏藏書八千冊伯爵德川達孝氏藏書二千冊亞細亞協會文庫四千冊等何れも本館内にあり館は三田山上最も風光明媚なる所に屹立して建築の美麗なる設備の完全なる日本國中匹敵すべきものなすと云ふも過言にあらず中に數個の讀書室雜誌室新聞室及研究室等ありて學生をして其自己の室に在るよりも却て愉快に書籍上の研究をなさしむ猶ほ侯爵德川賴倫氏根津嘉一郎氏小寺謙吉氏其他篤志家の寄附より成る約十萬圓の基本金ありて年々義塾より支出する經常費の外其利子を以て有益なる書籍雜誌等を購入しつ

體育會

體育は本塾の特に重んずる所にして兵式體操の如き學科の一部と爲し、普通部及商工學校生徒は總て生徒隊の中に編入し、毎週三回體操を爲さしむ、又春秋の好時節を選び、東京附近若しくは近縣の郊野に行軍して、發火大演習及び機動演習を行ふ、其狀恰も實戰の如し、又修學旅行を試み異なりたる山川風土に接し著はれたる名所舊蹟を訪ひ、實地の見聞に依りて活きたる知識を得せしむると共に體力の練磨に資せしむ、別に體育會と云ふものあり、全塾の學生みな會員にして部門を別ちて各々好む

所の遊戯を爲さしむ、端艇部、野球部、庭球部、柔道部、剣道部、弓術部、水泳部、機械體操部、フットボール部等あり、各部とも其の設備の完全なること世間に比類なし、又毎年陸上大運動會を本塾運動場に、端艇競漕大會を隅田川に催すの例にして殊に本塾の運動會は都下第一の壯觀と稱せらる、從來本塾の學生には病人極めて少く性來虛弱多病の者も、入學後次第に壯健になりて父兄を喜ばしめたる實例多し

第三章 規約

財團 法人慶應義塾規約

第一 名 稱

第一條 本財團ハ慶應義塾ト稱ス

第二 目 的

第二條 慶應義塾ハ教育ヲ目的トス

第三 事 務 所

第三條 慶應義塾ノ事務所ハ東京市芝區三田二丁目二番地ニ置ク

第四 資 産

第四條 慶應義塾ノ資産ハ評議員會ノ決議ニ基キ理事之ヲ管理處分ス

第五條 慶應義塾ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條 慶應義塾解散ノ場合ニハ殘餘財産中左記ノ土地ハ其寄附者ノ家督相續人ニ歸屬ス

東京市芝區三田二丁目二番地

市街宅地壹萬千百貳拾坪四合九勺
墓地壹千九百拾五坪四合五勺

東京市芝區三田四丁目二十六番地

市街宅地九百七拾坪七合參勺

東京市芝區三田四丁目三十一番地

市街宅地百九拾八坪七合五勺

其他ノ財産ハ類似ノ目的ノ爲メニ之ヲ處分ス

第五 塾 員

第七條 慶應義塾大學部卒業生ト社頭ノ特選セル者トヲ以テ慶應義塾々員トス

第六 評議員

第八條 慶應義塾ニ三十名ノ評議員ヲ置ク

第九條 評議員ハ塾員中ヨリ塾員之ヲ選舉ス

塾長及教員職員ハ評議員タラザルモノトス

評議員缺員ヲ生ジタルトキハ次點者ヨリ得票數ノ順序ニ依リ之ヲ補充ス

第十條 評議員ノ任期ハ四年トス補充ニ依リ評議員タル者ノ任期ハ前任者ノ任期ヲ通算スルモノトス

第十一條 評議員會ハ塾務及財産ニ關シテ議決ヲ爲ス

第十二條 評議員ハ毎月一回理事之ヲ招集ス

第十三條 理事ハ必要アリト認ムルトキハ臨時會ヲ招集スルコトヲ得

評議員全員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時會ヲ

招集スルコトヲ要ス

第十四條 評議員會ノ議長ハ評議員中ヨリ之ヲ互選ス

第十五條 評議員會ハ七名以上出席スルニアラザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ
評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

第七 理事

第十六條 理事ハ五名以内トス内一名ハ現任塾長トシ其他ノ理事ハ評議員中ヨリ之ヲ互選ス

第十七條 互選ノ理事ハ評議員ノ改選毎ニ之ヲ改選ス

任期中ニ於ケル理事ノ退任ハ評議員會ノ決議ニ依ル

互選ノ理事ニ缺員ヲ生ジタルトキハ評議員會ノ決議ニ依リ補缺選舉ヲ行フ

第十八條 理事ハ評議員會ノ決議ニ基キ一切ノ塾務ヲ處理ス

第十九條 理事ハ每會計年度ノ末ニ其翌年度ノ會計豫算書ヲ作り評議員會ノ協贊ヲ經ルコトヲ要ス

第二十條 理事ハ每會計年度ノ初ニ其前年度ノ會計決算書ヲ作り評議員會ノ承認ヲ求ムルコトヲ要ス

第八 塾長

第二十一條 塾長ハ評議員之ヲ選舉シ其任期ハ四年トス

第二十二條 塾長ハ教員職員ヲ統率シ評議員會ノ決議ニヨリテ之ヲ進退ス

第九 社 頭

第二十三條 社頭一名ヲ置ク

第二十四條 社頭ハ塾員中ヨリ塾員之ヲ推薦ス

第二十五條 社頭ハ塾員ヲ特選ス

社頭ニ空位ヲ生ジタルトキハ塾員ノ特選ハ評議員會ノ議決ニ依ル

第十 規約變更

第二十六條 此規約ハ評議員會ニ於テ全員ノ三分ノ二以上ノ同意ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得
以 上

第四章 學則及特典

一 通 則

(大學部、普通部、商工學校)

其一 學年、學期及休日

第一條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 學年ヲ分テ三學期トス第一學期ハ四月十六日ヨリ七月十五日ニ至リ第二學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十五日ニ至リ第三學期ハ一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

但シ普通部及商工學校ハ第一學期ヲ四月十一日ヨリ七月二十日マデトス

第三條 休日ハ左ノ如シ

- 一日 曜日
- 一 福澤先生記念日 一月十日
- 一 紀元節 二月十一日
- 一 春季皇靈祭 春分日
- 一 神武天皇祭 四月三日
- 一 開校記念日 四月二十三日
- 一 明治天皇祭 七月三十日

- 一天長節 八月三十一日
- 一秋季皇靈祭 秋分日
- 一神嘗祭 十月十七日
- 一天長節祝日 十月三十一日
- 一新嘗祭 十一月二十三日
- 一春期休業 四月一日ヨリ四月十五日(普通部及商工學校ハ四月十日)ニ至ル
- 一夏期休業 七月十六日(普通部及商工學校ハ七月二十一日)ヨリ九月十日ニ至ル
- 一冬期休業 十二月二十六日ヨリ一月七日ニ至ル

其二 學生心得及罰則

第一節 學生心得

- 一 學生ハ自ら其身ヲ修メ本塾學生タルノ體面ヲ汚スガ如キ行爲アルベカラズ
- 一 學生ハ常ニ衣食ニ注意シ衛生ヲ怠ルベカラズ
- 一 學生ハ登校ノ際必ず制服ヲ着用スベシ

但シ大學部本科生ニ限り制服外ノ洋服ヲ着用スルヲ得

- 一 喫烟ハ一切之ヲ禁ス但シ大學部學生ニ限り教場内ノ喫煙ノミヲ禁ズ
- 一 病氣其他止ムヲ得ザル事故アリテ缺席スル時ハ其旨教務係へ届出ツベシ
- 一 正當ノ事由ナクシテ缺席一箇月以上ニ及ブ時ハ除名ス
- 一 事情ノ如何ヲ問ハズ缺席一學期ニ及ブ時ハ除名ス
- 一 一學期總授業時數ノ三分ノ二以上出席セザルモノハ該學期末ノ試験ヲ受クルコトヲ得ズ(大學豫科)
- 一 病氣其他止ムヲ得ザル事故アリテ學期試験ニ缺席セントスル者ハ前以テ保證人ノ證明書ヲ添へ教務係へ届出ツベシ
- 一 但シ病氣ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添フルヲ要ス
- 一 氏名ヲ改メ本籍ヲ移シタルトキハ其趣ヲ直ニ庶務係ニ届出ツベシ
- 一 通學生ハ其宿所ヲ庶務係へ届置キ轉宿ノトキハ直ニ届出ツベシ
- 一 通學生ハ本塾ヨリ寄宿ヲ差止メタル下宿屋ニ宿泊スルヲ得ズ
- 一 普通部及商工學校生徒ハ父兄又ハ親戚知人等ノ家ヨリ通學スル者ノ外凡テ本塾寄宿舎ニ寄宿スベシ但シ寄宿舎ニテ收容シ得ザルトキハ此限ニアラズ

- 一 普通部及商工學校生徒ニシテ止ムヲ得ズ普通下宿ヨリ通學セントスル者ハ父兄又ハ代人ノ連署ヲ以テ其旨ヲ塾監局ヘ願出ヅベシ
- 一 本塾ノ器具ヲ汚損シ又ハ紛失シタルトキハ直ニ其趣ヲ教務係ヘ届出デ處置ヲ受クベシ
- 一 大學部學生ハ各學年ノ始ニ其選擇スベキ學科ヲ教務係ヘ届出ヅベシ

第二節 罰 則

- 一 左ノ各項ノ一ヲ犯スモノハ其情狀ニヨリ相當ノ罰ニ處スベシ但シ罰ハ譴責、減點、停學、退學ノ四種トス
 - 一 本塾ノ秩序ヲ亂ス者
 - 一 教職員ノ命令ニ逆ヒ又ハ器具ヲ汚損シ暴行ヲナシタル者
 - 一 不品行ニシテ本塾ノ體面ヲ汚ス者
 - 一 怠惰ニシテ學業ヲ勉メザル者

二 大學部規則

第一節 目的及修業年限

- 第一條 本大學部ハ理財學、法律學、政治學、文學ニ關スル學術ヲ教授シ及其蘊奧ヲ攻究スルヲ以テ目的トス
- 第二條 本大學部ハ豫科、本科、大學院ヲ以テ構成ス、豫科ハ本科ニ入ルニ必要ナル學術ヲ教授シ、本科ハ學術ノ理論及應用ヲ教授シ、大學院ハ學術ノ蘊奧ヲ攻究スル所トス
- 第三條 本科ヲ分チテ理財科、法律科、政治科、文學科トス、本科ヲ卒業シタル者ニハ本大學部卒業證書ヲ授與ス
- 第四條 修業年限ハ五箇年ニシテ豫科二年、本科三年トス、大學院ハ修業年限ヲ定メズ

第二節 課 程

- 第一條 大學部豫科課程左ノ如シ

(一) 豫科課程 (理財科、法律科、政治科)

學科目	學年	第一學年每週授業時數	第二學年每週授業時數
倫理		一	一
英語		一〇	一〇
獨語或佛語		四	三
歷史		三	二
地理		二	
論理		二	
漢文		二	
數學		二	
經濟學原理			三
法學通論			三
心理又數學			二
簿記			二
		(選擇科目)	

日本文作	(隔週一回)	
計		二六

(二) 豫科課程 (文學科)

學科目	學年	第一學年每週授業時數	第二學年每週授業時數
倫理		一	一
英語		一〇	一〇
英文學	(文學及哲學志望者ニ限ル)	二	二
獨語或佛語		四	六
國文	(文學志望者ニ限ル)	二	二
漢文		二	二
論理		二	
心理			二

學科 學年	理 財 科		計	日 本 作 文 (隔週一回)	數 學 (哲學志望者ニ限ル)	法 學 通 論 (哲學志望者ニ限ル)	地 理 (史學志望者ニ限ル)	歷 史 (史學志望者ニ限ル)
	第一學年每週授業時數	第二學年每週授業時數						
經濟原論	三	二	二二二 六六八		二		二	三
			史文哲 學學學	(隔週一回)	(哲學志望者ニ限ル 但シ本科目ト心理トノヲ選ブコトヲ得)	(史學志望者ニ限ル)	(史學志望者ニ限ル)	
			二二二 九七七		二	三	三	二

本科課程

理財科

經濟學說研究			(D)	二
經濟學史			(C)	二
中古代經濟史			(B)	二
近世經濟史		二		
日本經濟史			(B)	二
貨幣論及銀行論		二		
經濟政策		三		
商業政策			(C)	二
工業政策			(B)	二
最近社會問題			(B)	二
會計學		一	(C)	二
會計學			(C)	二
商工事情			(D)	二
商業實習			(A)	三

獨語或ハ佛語	二	(隨意)	一
日本作文	(每月一回)	(每月一回)	
卒業論文		(和文英文何レニテモ可)	
計	二四	二四	二三

備考 (A)(B)ノ符號アルハ選擇科目ニシテ同符號中ノ一科目ヲ必修スルモノトス

文學科、文學

學科目	學年	第一學年每週授業時數	第二學年每週授業時數	第三學年每週授業時數
外國英語、英文學		一一	一一	一一
佛語、佛文學或ハ獨語、獨文學		四	四	五
國文學		二	二	
支那文學		四	二	二
近代文學評論			二	二

藝術史	二			
美學				二
哲學概論及史	二	二	二	
心理學	(A)			
教育學		(A)	二	
教授法及演習				三
卒業論文			(和文英文何レニテモ可)	
計	二五又ハ二七	二三又ハ二五	二二又ハ二五	

備考 (A)ハ教員志望者ニ限リ必修科目トス

文學科、哲學

哲學概論	二		
學科目	學年	第一學年每週授業時數	第二學年每週授業時數
		二	二
			第三學年每週授業時數

第七條 入學試驗評點ハ各科目一百點ヲ滿點トシ各科目評點五割以上若クハ全科目ノ合計六割以上ヲ得タル者ヲ合格トス

但シ全科目ノ合計六割以上ナルモ四割以下ノ科目アルトキハ不合格トス

第八條 入學志願者ハ第一號書式ニ據リ四月十五日(第二學期ハ九月上旬)迄ニ入學志願書ヲ塾監局ヘ差出スベシ

第九條 入學志願書ニハ中學校卒業證明書(又ハ檢定證書)中學校卒業試驗成績表及履歷書ヲ添フベシ

第十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ入學金ヲ會計部ヘ納ムベシ

但シ再入學ノ者又普通部、商工學校又ハ幼稚舎ニ在學セシ者ハ入學金ヲ納ムルニ及バズ

第十一條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ第二號書式ニ據リ在學證書ヲ塾監局ヘ差出スベシ

第十二條 保證人ハ父兄若クハ近親タルベシ

但シ遠隔若クハ交通不便ノ地ニアル人ハ別ニ東京近傍ニテ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ

本塾ノ通知ニ接シ直ニ登校シ得ベキ代人ヲ設ケ置クベシ

第十三條 保證人姓名ヲ改メ又ハ轉居シタルトキハ直チニ其趣ヲ届出デ死亡其他ノ事由ニ依リ保證人ヲ改メタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スベシ

第十四條 退學者再ビ入學セントスルトキハ特ニ詮衡ノ上、原級ニ編入スルコトアルベシ

第十五條 退學者再ビ入學ノ許可ヲ得タルトキハ更ニ第十一條ノ手續ヲナスベシ

第十六條 缺席者ハ保證人ノ證明書ヲ添ヘ塾監局ニ届出ヅベシ若シ正當ノ事由ナクシテ一箇月以上引續キ缺席スルトキハ除名ス

但シ一學期以上引續キ缺席スルトキハ事故ノ如何ニ拘ラズ除名ス

第十七條 退學セントスル者ハ保證人連署ノ上塾監局ヘ願出ヅベシ

第十八條 左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ズベシ

- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

(第一號書式)

入學志願書(用紙ハ半紙)

大學部何科(理財法律政治文學)豫科第何學年へ入學志願ニ付御許可被成下度別紙履歷書相添へ此段相願候也

何縣何市區 何町何番地華、士族、平民

年月日

戸主又ハ何誰何男、弟
何 某

宿所東京市何區何町何番地何某方
何年何月何日生

慶應義塾長鎌田榮吉殿

(第二號書式)

在學證書(用級ハ本塾ヨリ交付ス)

何府何市區何町何番地華、士族、平民

戸主又ハ何誰何男、弟

何 某

何年何月何日生

右ノ者慶應義塾へ入學御許可相成候ニ付テハ御塾諸規則ヲ遵守セシムルハ勿論若シ本人ニ關シ事
故アルトキハ何事ニ限ラズ拙者引受ケ速ニ處理可致候也

何府何市區何町何番地職業

右父若クハ兄等

年月日

保證人 何 某印

何府何市區何町何番地

右代人 何 某印

慶應義塾長鎌田榮吉殿

第四節 試験、進級及卒業規則

第一條 各學期末ニ其學期間ニ履修セル學科ノ試験ヲ行フ

但シ文學科ニアリテハ第三年級ノ學年末ニ於テ該學年間ニ履修セル學科ニツキ卒業試験ヲ行フ此
場合ニハ第三學期試験ヲ行ハズ

第二條 本科ニアリテハ語學試験ニ限リ各學期末ニ必ズ之ヲ施行スルモノトス但シ他ノ科目ハ受持教
員ノ任意ニシテ二回施行ノ場合ニハ前半年分ヲ十二月中旬ニ又後半年分ヲ三月下旬ニ施行スルヲ要
ス

第三條 試験ハ總テ左ノ期日前ニ施行セザルモノトス

第一學期ハ七月十日

第二學期ハ十二月十五日

第三學期ハ三月二十日

第四條 本科第三年級ノ終ニハ卒業論文ヲ提出セシム

但シ法律科ニ於テハ卒業論文ニ代ヘ卒業試問ヲ行フ

第五條 各學科ノ日課成績及學期末試験ノ成績ニ據リテ學期評點ヲ定ム

第六條 教員ノ必要ト認メ執行シタル臨時試験ノ評點ハ前條ノ評點中ヘ算入スルモノトス

第七條 各學科ノ學期評點ヲ平均シテ其學年評點ヲ定ム

但シ全學年ニ通ゼザル學科ハ學修セル學期ノ評點ヲ平均スルモノトス

第八條 第二學期以後新ニ入學シタル者ノ學年評點ハ入學後ノ學期ヲ平均シテ之ヲ定ム

第九條 各學科ノ學年評點滿點ノ六割以上ニシテ且五割以下ニ科目ナキモノヲ進級又ハ卒業トス

但シ點數ハ公示セザルモノトス

第十條 各學科ノ評點ハ一百點ヲ以テ滿點トス

但シ本科卒業論文卒業試問及豫科譯解ノ評點ハ二百點ヲ以テ滿點トス

第十一條 豫科追加試験ハ左ノ通り施行ス

一、病氣又ハ正當ノ事故ノ爲メ學期試験ニ缺席シタルモノニシテ其届出アルモノニ限り左記ノ如ク追加試験ヲ施行ス但シ試験料ハ金五圓トス

第一學期缺席者ニハ十月中

第二學期缺席者ニハ翌年二月中

第三學期缺席者ニハ五月中

一、右追加試験ニ缺席シタルモノハ零點トシテ之ヲ取扱フ又第三學期缺席者ハ及落未定ノ儘原級ニ留ムルモノトス

第十二條 本科追加試験ハ左ノ通り施行ス

一、病氣又ハ正當ノ事故ニ由リ第一學期又ハ第二學期試験ニ缺席シタルトキハ第一學期試験缺席者ハ同年九月ニ第二學期試験缺席者ハ翌年一月ニ又學年末(第三學期)試験缺席者ハ次學年五月ニ追加試験ヲ請求スルヲ得

二、前號追加試験ニ缺席シタル者ハ零點トシテ之ヲ取扱フ又第三學期缺席者ハ及落未定ノ儘原級ニ留ムルモノトス

三、追加試験ヲ受ケントスル者ハ一科目毎ニ受験料金參圓、四科目以上金拾圓ヲ納ムベシ

第十三條 落第者ハ原級ニ留メ次學年ノ始メヨリ其級ノ全學科ヲ再修セシムルモノトス

第十四條 同一學級ニ於テ引續キ二回落第シタル者ハ退學ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條 本科ヲ卒業シタル者ハ慶應義塾理財學士、同法律學士、同政治學士、同文學士ト稱スルヲ得

第十六條 學事ノ成績ハ豫科ニアリテハ各學期末又本科ニアリテハ學年末ニ於テ本塾ヨリ保證人ニ報告スベシ

第五節 優待生規則

第一條 學業優等ニシテ品行方正ナル者ヲ選デ優待生ト爲ス

第二條 優待生ハ一學年間ノ授業料及體育會費ヲ免ズ

第三條 優待生ハ其學業及品行ノ如何ニ依リ其待遇ヲ失フコトアルベシ

第六節 入學金、授業料及其他ノ費用

第一條 入學試驗料ヲ金壹圓トス

第二條 入學金ヲ金五圓トス

第三條 一學年ノ授業料ヲ金四給八圓トシ之ヲ三期ニ分チ每學期ノ始メニ之ヲ前納セシム

第四條 一學期ノ體育會費ヲ金壹圓トシ每學期ノ始メニ之ヲ前納セシム

第五條 一學期ノ中途ニ於テ休學又ハ退學スルコトアルモ授業料及體育會費ハ一切返却セザルモノトス

第六條 休學中ト雖モ授業料及體育會費ハ之ヲ納ムルモノトス

第七節 傍聽生規則

第一條 本科ニ限リ傍聽ヲ許スコトアルベシ

第二條 傍聽ノ許可ヲ得タル者ハ本節末ニ掲グル書式ニ據リ證書ヲ塾監局ヘ差出スベシ

第三條 傍聽生ハ正科生ト同額ノ授業料及體育會費ヲ納ムベシ

第四條 傍聽生ハ授業中質問スルヲ得ズ

第五條 傍聽生ハ學期試驗ヲ受クルコトヲ得ズ

第六條 傍聽生ハ正科生ト同ジク本塾一般ノ規則ヲ遵守スベキモノトス

(書式)

證 書

何府何市何町何番地華、士族、平民

戶主又ハ何誰何男、弟

何 某

何年何月何日生

右ノ者御塾大學部何科傍聽御許可相成候ニ付テハ御塾諸規則ヲ遵守セシムルハ勿論若シ本人ニ關シ
事故アルトキハ何事ニ限ラズ拙者引受ケ速ニ處理可致候也

任 所

保 證 人 何

某 印

年 月 日

慶應義塾長鎌田榮吉殿

第八節 大學院規則

第一條 大學院ハ大學部本科卒業生ニシテ既修學科ニツキ更ニ其蘊奧ヲ究メント欲スル者ノ攻究ヲ補
翼スル所トス

第二條 大學院ハ修業年限ヲ定メズ

第三條 大學部本科卒業生ニシテ大學院ニ入學ヲ志望スル者ハ攻究セント欲スル科目ヲ具シ書面ヲ以
テ其旨願出ヅベシ

但シ大學部本科在學中成績操行共ニ良好ナル者ニ限り入學ヲ許ス

第四條 大學院ニハ常設ノ講義ヲ開カズ但シ必要ニ應ジ特ニ講座ヲ設クルコトアルベシ、又大學部本
科在學中、本塾ノ都合ニ依リ聽講スルコトヲ得ザリシ科目及外國語ニ付テハ學生ノ希望ニ應ジ特ニ
講座ヲ設クルコトアルベシ

第五條 大學院學生ハ其攻究科目ニ付キ大學部本科ニ於テ該科目ヲ擔當スル教授ノ指導ヲ受クルコト
ヲ得

第六條 大學院學生ハ大學部本科ノ講義ヲ傍聽スルコトヲ得

第七條 大學院學生ハ毎年一回以上其攻究科目ニ付キ攻究ノ結果ヲ塾長ニ報告スベシ著述又ハ雜誌ノ
論文ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第八條 大學院學生ノ爲メ研究室ヲ常設ス

第九條 大學院學生ハ授業料ヲ要セズ

- 第十條 大學院學生ハ本塾圖書館ノ書籍閱覽及借入ニ關シ本塾職員ト同一ノ待遇ヲ受クルコトヲ得
- 第十一條 本塾ハ大學院學生ノ爲メニ其攻究ニ關シ特別ノ便宜ヲ與フルコトアルベシ
- 第十二條 大學院學生ノ攻究良好ナラズ又ハ操行不良ナルトキハ退學ヲ命ズ
- 第十三條 大學院ニハ本塾一般ノ規則ヲ準用ス

三 普通部規則

第一節 修業年限、課程及教科用書

第一條 普通部修業年限ヲ五箇年トス

第二條 普通部學科課程左ノ如シ

普通部課程

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
國文	四	四	四	二	二
修身	(口授) 一	(口授) 一	(口授) 一	(口授) 一	(口授) 一
英語	八	八	九	九	九
日本地理	二	三			
外國地理					
日本歷史	二				
西洋歷史			二	二	
東洋歷史					
算術	四				
代數		四	三	三	二
幾何			三	二	
三角					三
植物		一			
動物			二		
生理				二	

學科目	學年				
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
國文	四	四	四	二	二
修身	(口授) 一	(口授) 一	(口授) 一	(口授) 一	(口授) 一
英語	八	八	九	九	九
日本地理	二	三			
外國地理					
日本歷史	二				
西洋歷史			二	二	
東洋歷史					
算術	四				
代數		四	三	三	二
幾何			三	二	
三角					三
植物		一			
動物			二		
生理				二	

計	體操	圖畫	習字	礦物	化學	物理	地文
二八	三	自在畫 一	一				
三〇	三	自在畫 用器畫 一	一				
三〇	三	用器畫(投影畫) 一					
三二	三	用器畫(透視畫) 一			一、二期 ハ化學ノ 二時間、 三期各 一時間	二	
三二	三				三	二	二

第三梓 普通部教科用書 (便宜變更スル事アルベシ)

第一學年

- 落合、森、萩野合著改訂中等國語讀本 第一、第二
- 市村瓊次郎著重修中學漢文讀本 第一
- 開成館發行ニュー、ランゲージ、リーダー 第一

國枝元治著中等教育數學教科書

算術之部

山崎直方著普通教育日本地理教科書

開成館發行模範日本地圖

藤田明著改訂中等日本史

藤田明著中等教科日本歴史地圖

日高秩父著中學新習字帖

圖畫教育研究会編訂正中等圖畫教科書

開成館發行ニュー、スクール、ペンマンシップ

第二學年

- 落合、森、萩野合著改訂中等國語讀本 第三、第四
- 新井無二郎著中等教科新日本文典 上
- 市村瓊次郎著重修中學漢文讀本 第二
- 開成館發行ニュー、ランゲージ、リーダー 第二
- 南日恒太郎著ニュー、イングリッシュ、グランマー 第一

- 上條辰藏著ブラクチカル、コンボジション
 - 小林房太郎著新地理
 - 開成館發行模範世界地圖
 - 藤田明著改訂中等日本史
 - 神谷、岡村共著新編植物學教科書
 - 三宅、野原、小南共著新編動物學教科書
 - 國枝元治著中等教育數學教科書
 - 日高秩父著中學新習字帖
 - 圖畫教育研究會編訂正中等圖畫教科書
 - 板倉贊治著中等圖法教本
 - 開成館發行ニュー、スクール、ペンマンシップ
 - 第三學年
 - 落合、森、萩野共著改訂中等國語讀本
 - 明治書院發行保元物語鈔
- 上
下
全
全
代數之部
第二
第四
（平面幾何畫）
第五、第六

- 新井無二郎著中等教科新日本文典
 - 市村瓊次郎著重修中學漢文讀本
 - 青木晦藏撰新編十八史略鈔
 - 開成館發行ニュー、ラングージ、リーダー
 - 南日恒太郎著ニュー、イングリッシュ、グランマー
 - 武信由太郎著ニュー、スクール、コンボジション改版本
 - 國枝元治著中等教育數學教科書
 - 國枝元治著中等教育數學教科書
 - 小林房太郎著新地理
 - 松井等著改訂東洋歷史
 - 同 東洋歷史附圖
 - 丘淺次郎著最新動物學教科書
 - 日高秩父著中學新習字帖
 - 圖畫教育研究會編訂正中等圖畫教科書
- 下
第三
第三
第二
第一
代數之部
平面幾何之部
下
全
第三
第五

板倉贊治著中等圖法教本

(投影畫)

第四學年

鐘美堂發行エセツクス、オブ、サクセス(修身用)

落合、森、萩野共著改訂中等國語讀本

第七、第八

明治書院發行藩翰譜抄

市村瓊次郎著重修中學漢文讀本

第四

明治書院發行史記鈔

丸善發行ゼ、インタナショナル、リーダー

南日恒太郎著ニユー、イングリッシュ、グラシマー

第三

武信由太郎著ニユー、スクール、コンボジション

第二

バーレー萬國史

理化研究會編中等生理衛生綱要

全

半田、小林、四野宮合著新編物理學教科書

全

近藤耕藏著化學教科書

全

寺尾、吉田共著中等教科代數

下

國枝元治著中等教育數字教科書

平面幾何之部

箕作元八著新訂西洋史教科書

全

圖畫教育研究會編訂正中等圖畫教科書

第六

板倉贊治著中等圖法教本

(透視畫)

第五學年

福澤先生著修業立志編(修身用)

福澤先生著英文修身要領(修身用)

落合、森、萩野共著改訂中等國語讀本

第九、第十

明治書院發行史記鈔

全

丸善發行ゼ、インタナショナル、リーダー

第五

武信由太郎著ニユー、スクール、コンボジション

第三

マイヤー十九世紀史

國枝元治著中等教育數學教科書

立體之部

遠藤又藏著平面三角法教科書
 寺尾、吉田共著中等教科代數
 橋本増吉著新撰東洋史教科書
 中村清二著最近物理學教科書
 小岩井兼輝著中等礦物教科書
 近藤耕藏著化學教科書
 今村、石川共著地文教科書

全 全 全 全 全 下 全

第二節 入學、休學及退學

第一條 入學ノ期ハ各學期ノ始メトス

第二條 普通部第一學年ニ入ルヲ得ル者ハ滿十二年以上ニシテ尋常小學ヲ卒ヘタル者若シクハ普通部入學試験ニ及第シタル者トス

但シ入學志願者ノ數定員ヲ超過スルトキハ尋常小學ヲ卒ヘタル時ト雖モ撰拔試験ヲ行フ
 第三條 入學試験科目左ノ如シ

一、日本地理

二、日本歴史

三、讀書

四、算術

五、作文

六、習字

第四條 入學試験科目ノ點數ハ各一百點ヲ以テ滿點トシ各科目ノ點數五割以上ナル者若シクハ全科目ノ點數合計六割以上ナルモノヲ及第トス

但シ全科目ノ點數六割以上ナルモ四割以下ノ科目アルトキハ落第トス
 第五條 入學試験ハ尋常小學修了ノ程度ニ據ル

第六條 第二學期若クハ第三學期ニ於テ第一學年ニ入學スル者ハ第三條ノ入學試験ノ外ニ該學級ノ既ニ履修セル學科目ノ試験ニ及第スルヲ要ス

但シ尋常小學ヲ卒ヘタル者ハ單ニ該學級ノ既ニ履修セル科目ノ試験ヲ受クベシ
 第七條 本塾幼稚舎ノ卒業生ハ第一學期ニ限り無試験ニテ第一學年ニ編入ス

第八條 普通部第二學年以上ニ編入ヲ望ム者ハ第一學年ヨリ志望ノ學級ニ至ル全學科ノ試験ヲ受クベシ

第九條 認可中學若クハ指定中學ヨリ第二學年以上ニ轉學ヲ望ム者ハ該中學在學中ニ於ケル成績、操行ヲ詮衡シ相當ノモノト認ムル時ハ無試験ニテ相當學年ニ編入スルコトアルベシ

第十條 中學卒業生ハ無試験ニテ第五學年若クハ補習科ニ編入ス

第十一條 退學者第一學期以内ニ再ビ入學セントスルトキハ原級ニ編入ス

第十二條 退學後一學期以上ヲ經過シタルモノハ新ニ編入試験ヲ受クルヲ要ス

但シ原級ニ限り詮衡ノ上特ニ無試験編入ヲ許スコトアルベシ

第十三條 入學志願者ハ第一號書式ニ據リ左ノ期日迄ニ入學志願書(用紙ハ塾監局ニテ交付ス)ヲ塾監局ヘ差出スベシ

第一學期入學申込期日 四月五日迄

第二學期入學申込期日 九月五日迄

第三學期入學申込期日 一月五日迄

但シ普通部第五學年ニ限り第一學期ノ外ハ入學ヲ許サズ

第十四條× 中學校卒業生又ハ尋常小學ヲ卒ヘタル者ハ其卒業證明書ヲ入學志願書ニ添ユベシ

第十五條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ入學金ヲ會計部ヘ納ムベシ

但シ再入學ノ者及商工學校又ハ幼稚舎ニ在學セシ者ハ入學金ヲ納ムルニ及バズ

第十六條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ在學證書(用紙ハ塾監局ニテ交付ス)ヲ塾監局ヘ差出スベシ

第十七條 保證人ハ父兄若クハ近親タルベシ

但シ遠隔若クハ交通不便ノ地ニ住スル者ハ別ニ東京若クハ其近傍ニテ一家計ヲ立テ本塾ノ通知ニ

接シ直ニ登校シ得ベキ代人ヲ設ケ置クベシ

第十八條 保證人姓名ヲ改メ又ハ轉居シタルトキハ直ニ其旨ヲ届出デ死亡其他ノ事故ニヨリテ保證人ヲ改メタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スベシ

第十九條 退學ノ生徒再ビ入學ノ許可ヲ得タルトキハ更ニ第十六條ノ手續ヲナスベシ

第二十條 缺席者ハ保證人ノ證明書ヲ添ヘ塾監局ヘ届出ヅベシ若シ正當ノ事由ナクシテ一箇月以上引續キ缺席スルトキハ除名ス

但シ一學期以上引續キ缺席スルトキハ事故ノ如何ニ拘ラズ除名ス

第二十一條 退學セントスル者ハ保證人連署ノ上塾監局ヘ願出ヅベシ

(第一號書式)

名氏人證保 人理代 兄 父		名氏人本		志望	
		明治 年 月 日生		慶應義塾普通部第 學年入學志望	
年 月 日 日生	年 月 日 日生	所現住	所現住	父兄族稱職業	本人通信ヲ受ク ベキ現在宿所
		職業稱	原籍		
學業履歷書		及類書區類諸中學在 際印ルニ用ニ簿信通		身本 分人 養男、弟 子業	
尋常小學校卒業	高等小學校卒業	學年		學年	
學年	學年	學年		學年	
學年	學年	學年		學年	
學年	學年	學年		學年	

年 月 日

學業成績操行證明書

學年學期	科目	及落席		
		第 番 中 人	第 番 中 人	第 番 中 人
ノ在學中	ノ在學中	ノ在學中	ノ在學中	ノ在學中
大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日	大正 年 月 日
在學證書				
右ノ者慶應義塾へ入學御許可相成候ニ付テハ御塾諸規則ヲ遵守セシムルハ勿論若シ本人ニ關シ 事故アルトキハ何事ニ限ラズ拙者引受ケ速ニ處理可致候也				
大正 年 月 日 保證人				

慶應義塾長 鎌田榮吉殿

保證人代理

第三節 試驗進級及卒業規則

- 第一條 各學科ノ日課成績ニ據テ其平常點ヲ定メ一百點ヲ以テ滿點トス
- 第二條 各學期末ニ其學期間ニ履修セル學科(習字及圖畫ヲ除ク)ノ試驗ヲナス
但シ數學期ニ互ル學科ハ教員ノ見込ニヨリ前一學期若クハ二學期間ノ試問ヲ加フル事アルベシ
期末試驗點ハ一百點ヲ以テ滿點トス
- 第三條 日課ニ缺席シ休學シタル者ハ事故ノ如何ヲ問ハズ缺課ノ度數ニ應ジテ平常點ヲ減ズルモノトス
- 第四條 各學科ノ平常點ヲ二ノ割合トシ期末試驗ヲ一ノ割合トス
- 第五條 各學科ノ各學期點ヲ平均シテ其學年點ヲ定ム
但シ全學年ニ通ゼザル學科ハ學修セル學期點ヲ平均スルモノトス
- 第六條 各學科學年成績ヲ參照シテ及落ヲ定ム

但シ點數ハ公示セザルモノトス

第七條 本章第二節第十一條ノ規定ニ據リテ入學シタル者ノ點數ハ退學ヨリ入學ニ至ルマデノ間ヲ休學ト看做シテ之ヲ定ム

第八條 第二學期以後新ニ入學シタル者ノ學年成績ハ入學後ノ學期點ヲ平均シテ之ヲ定ム

第九條 兵役ヲ畢リタルモノハ體操科出席ヲ隨意トス

但シ出席セザル場合ニハ其點數ハ他學科ノ平均點數ヲ以テ之ニ充ツ

第十條 兵式體操ニ堪ヘザル痼疾アル者ハ體操科缺席ヲ許シ其及落ハ他學科ノ成績ニヨリテ定ム

第十一條 疾病ニ依リ二週間以上體操科ニ缺席シタル者ハ學生心得規則ノ手續ヲ經タル場合ニ限り其學期間ノ日課點ノ出席度數ニ參照シテ其體操科平常點ヲ定ム

第十二條 落第者ハ原級ニ留メ次學年ノ始ヨリ其級ノ全學科ヲ再修セシムルモノトス

第十三條 同一學級ニ於テ引續キ二回落第シタル者ハ退學ヲ命ズルコトアルベシ

第十四條 學事ノ成績ハ各學期末及學年末ニ於テ本塾ヨリ保證人ニ報告スベシ

第四節 優待生規則

第一條 學業優等ニシテ品行方正ナル者ヲ選デ優待生トナス

第二條 優待生ハ其學年間ノ授業料及體育會費ヲ免ズ

第三條 優待生ハ其學業品行ノ如何ニ依リ其待遇ヲ失フコトアルベシ

第五節 入學金、授業料及其他ノ費用

第一條 入學金ヲ金五圓トス

第二條 一學年ノ授業料ヲ金參拾六圓トシ之ヲ三期ニ分チ每學期ノ始メ金拾貳圓ヲ前納セシム

第三條 一學期ノ體育會費ヲ壹圓トシ每學期ノ始メ之ヲ前納セシム

第四條 一學期ノ中途ニ於テ休學又ハ退學スルコトアルモ其授業料及體育會費ハ一切返却セザルモノトス

第五條 休學中ト雖モ授業料及體育會費ハ之ヲ納ムルモノトス

第六節 普通部補習科

第一條 普通部補習科ハ本塾普通部卒業生若クハ他ノ官公私立中學校卒業生ニシテ本塾大學部豫科第

一學年ニ入學センガ爲メ尙ホ補修ノ必要アル場合ニ於テ或學科ヲ限リ補修セシムルモノトス
第二條 補習科修業年限ハ一箇年ニシテ其課程ハ左ノ如シ

學科	英語	數學	國文	理化學	合計
	(譯解、會話、作文)				
	一〇	五	三	四	二二
	每週授業時數				

第三條 入學金、授業料、體育會費其他退學手續等總テ普通部規則ヲ準用ス

第四條 補習科教科書 (便宜變更スル事アルベシ)

英語 ゼ、ユース、アンド、ゼ、マン

數學 スミツス氏大代數學

(修業立志編)

國文 賴氏謝撰拾遺

第一、第二、第三

補習科用中等國語讀本

四 幼稚園規則

目的

當舎ハ小學科ノ程度ニ據リ幼年子弟ノ身心ヲ健全ニ發達セシムルノ目的ヲ以テ教育ヲ施シ併セテ英語ノ練習ヲカム

學年、學期及休業日

- 一、學年ハ四月ニ始リ翌年三月ニ終ル
- 一、學年ヲ分チ三學期トス第一學期ハ四月八日ヨリ七月廿日ニ至リ第二學期ハ九月八日ヨリ十二月二十五日ニ至リ第三學期ハ一月八日ヨリ三月二十五日ニ至ル
- 一、休業日ハ左ノ如シ
- 一日 曜日

一 福澤先生記念日	一月十日
一 紀元節	二月十一日
一 春季皇靈祭	春分日
一 神武天皇祭	四月三日
一 開校記念日	四月二十三日
一 地久節	六月二十五日
一 明治天皇祭	七月三十日
一 天長節	八月三十一日
一 秋季皇靈祭	秋分日
一 神嘗祭	十月十七日
一 天長節祝日	十月三十一日
一 新嘗祭	十一月廿三日
一 夏季休業	(自七月二十一日 至九月七日)
一 冬季休業	(自十二月二十六日 至一月十七日)

一學年末休日

(自三月二十六日
至四月十七日)

備考 紀元節、地久節、天長節及一月一日ニハ職員生徒學校ニ參集シテ式ヲ行フモノトス

修業年限及學科課程

一、修業年限ヲ六箇年トス

一、學科課程左ノ如シ

學年	科目	授每時間教
第一學年	修身 二 國語 九 英語 一 算術 五 日本歷史 及 日本地理 於ケル數ヘ方、書キ方、 加減乘除	二
第二學年	修身 二 國語 一〇 英語 二 算術 同 日本歷史 百以下ノ數ノ範圍内ニ於 日本地理 ケル數ヘ方、書キ方及加 減乘除	二
第三學年	修身 二 國語 一〇 英語 三 算術 同 日本歷史 通常ノ加減乘除 日本地理 同	二

學年	科目	授每時間教
第一學年	圖畫 一 唱歌 二 體操 三 合計 二三	一
第二學年	圖畫 一 唱歌 二 體操 三 合計 二五	一
第三學年	圖畫 一 唱歌 二 體操 三 合計 二七	一

學年	科目	授每時間教
第一學年	修身 二 國語 一〇 英語 三 算術 六 日本歷史 呼ビ方、書キ方及簡易ナ 日本地理 ル加減乘除	二
第二學年	修身 一 國語 九 英語 四 算術 四 日本歷史 日本歷史ノ大要 日本地理 日本地理ノ大要	二
第三學年	修身 一 國語 九 英語 四 算術 四 日本歷史 前學年ノ續キ 日本地理 韓國及滿洲其他外國地理 ノ大要	二

體操	三	遊藝	三	普通體操、遊藝	三
合計	二七	普通體操	二八	兵式體操	二八

備考

- 一、英語科ハ經驗アル外國婦人ナシテ教授セシム
- 一、幼稚園ヲ卒業シタル者ハ第一學期ニ限り無試験ニテ本塾普通部第一學年ニ編入セララルベシ

入學、休學及退學

- 一、入學志願者ハ二月末日マデニ申込ムベシ
- 一、入學者ハ年齢六歳以上ノ男子ニ限ル
- 一、二學年以上ニ缺員アル時ハ臨時入學ヲ許シ學歷ニ依リ相當ノ級ニ編入スルコトアルベシ
- 一、入學ヲ志願スルモノハ幼稚園事務所ヘ申出ヅベシ
- 一、入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ入學金ヲ納ムベシ
- 但シ再入學ノ者ハ之ヲ要セズ
- 一、入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ據リ在學證書ヲ差出スベシ

但シ保證人ハ東京又ハ横濱ニ於テ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ本舎ノ適當ト認ムル者ニ限ル

在學證書 (用紙ハ本舎ヨリ交付ス)

何府縣市郡町村番地身分

職業戶主又ハ何誰男、弟

氏 名

何年何月何日生

右之者慶應義塾へ入學御許可相成候ニ付テハ御塾諸規則ヲ遵守セシムルハ勿論若シ本人ニ關シ事故アルトキハ何事ニ限ラズ拙者引受速ニ處理可致候也

東京(横濱)市區町番地職業

保證人 何 某 印

年 月 日

慶應義塾長鎌田榮吉殿

- 一、退學ノ生徒再ビ入學ノ許可ヲ得タルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スベシ
- 一、保證人姓名ヲ改メ又ハ移轉シタルトキハ直チニ其趣ヲ届出デ死亡其他ノ事由ニヨリ保證人ヲ改メ

タルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スベシ

一、休學若クハ退學セントスル者ハ其旨保證人ヨリ當舎ヘ届出ヅベシ

進級及卒業

一、學年末ニ於テ平素ノ成績ニ依リ其學力ノ相當ナル者ハ進級セシメ全課程ヲ修了セリト認メタル者ハ卒業セシム

一、卒業シタル者ニハ慶應義塾幼稚園卒業證書ヲ授與ス

學費

一、入學金ヲ五圓トス

一、授業料左ノ如シ(既納ノ授業料ハ返附セズ)

一金拾貳圓也 第一學期分 四月十五日迄納入

一金拾貳圓也 第二學期分 九月十五日迄納入

一金拾貳圓也 第三學期分 一月十五日迄納入

一、寄宿料左ノ如シ (月々前納)

金拾參圓 食費、給與費及雜費

備考 給與費及雜費トハ、燃料、監督費、室料、菓子、硯、墨、筆、紙、ペン、インキ、鉛筆、石盤、石筆、畫紙、郵便切手、はがき、齒磨、楊枝、理髮、洗濯、入浴、暖爐、電燈等ノ諸費ヲ云フ
但シ牛乳及藥品ヲ要求スルトキハ別ニ其費用ヲ拂フベシ

一、規定ノ休業又ハ自己ノ都合ニヨリ缺席若クハ歸宅全月ニ及ブトキハ該月分ノ寄宿料ヲ納ムルニ及バズ

一、學期ノ始又ハ終ニ在ル規定ノ休業ニヨリ出席若クハ在舎日數全月ニ滿タザルコトアルモ學費ノ定額ヲ減ズルコトナシ

一、寄宿生事故アリテ引續キ五日間以上歸宅スルトキハ日割ヲ以テ食料ニ限り割戻ヲ爲スベシ

一、教科用書類ハ凡テ自辨タルベシ

寄宿

一、寄宿ハ滿七歳以上ノ者ニ限り之ヲ許ス

寄宿舎内ニハ監督員數名ヲ置キ生徒全部ヲ取締ラシメ且保母數名ヲ置キ起居、眠食、衣服、調度、沐浴、洗濯、其他ノ細事ニ至ルマデ親切ニ世話セシム

一、寄宿生ハ監督ノ許可ヲ得ズシテ門外ニ出ヅルコトヲ得ズ

一、寄宿生ハ隔週土曜日ノ正午ヨリ歸宅スルコトヲ得

但シ日曜日午後四時マデニ歸舎スベシ

- 一、寄宿生歸宅ノ節ハ出舍ノ時刻ヲ記シタル歸宅證ヲ渡シ置クガ故ニ歸舍ノ時ニモ出宅ノ時刻ヲ記シ保證人ノ印ヲ捺シテ持チ歸ラシムベシ
- 一、宿寄生ノ用品ハ季節ニ依リ同ジカラズト雖モ其携帯スベキ諸品ハ凡ソ左ノ如シ
 - 一、柳行李或ハ支那カバン類ノ衣服入 一個 一下着上下 三組ヅ、
 - 一、敷蒲團（長サ三尺九寸 尺幅一尺九寸） 一枚 一冬着外套 一枚
 - 一、毛布二枚續キ 三枚 一寢卷用日本服及ヘコ帶
 - 一、シート（上敷）（長五尺幅三尺四寸 尺長七尺幅三尺四寸） 二枚 一スリッパ（成ルベク革製ニシテ堅 固ナルモノヲ可トス） 一（上） 一靴、靴下、手拭、枕ノ類
 - 一、制服夏冬用（夏季用 白ズボン三本） 一組ヅ、
 - 一、運動服（夏季用） 二組
- 一、寄宿生ニハ前記諸品ノ外必要ナル用品ハ之ヲ給與スルヲ以テ金錢ハ勿論時計其他大切ノ物品并ニ食用品ヲ持參セシムベカラズ
- 一、月々ノ送金ヲ不便トスル者ハ數箇月ノ學資ヲ纏メテ預ケ置クモ妨ゲナシ
- 一、汽車賃、人力車賃其他必要ノ小遣錢ハ入用ノ都度之レヲ立替ヘ置クベシ
- 一、生徒ト父兄ノ通信ハ隨意タリト雖モ其他ノ通信ハ監督ノ檢閲ヲ受クルヲ要ス

- 一、寄宿舎内ニ病室ヲ設ケ生徒ノ病氣ハ鄭重ニ看護スルモ速治ノ見込ナキカ又ハ重症ノ徵候アルトキハ保證人ニ通知シ歸宅療養セシム
- 一、寄宿生ハ常ニ當舎制定ノ服裝ヲナスベシ
- 一、寄宿生在舎セザルコト引續キ一箇月ニ及ブ者ハ寄宿舎ヲ退キタル者ト看做スベシ

通 學

- 一、通學生ハ父兄若クハ保證人ノ宅ヨリ通學スベシ
- 一、通學生昇校シ得ザル事故アルトキハ保證人ヨリ書面ヲ以テ其旨届出ヅベシ
- 一、通學生ハ昇校中當舎制定ノ服裝ヲナスベシ

附 則

- 一、當舎内ニ在リテハ監督ノ許可ナクシテ教科書ノ外新聞雜誌等ヲ讀ムコトヲ禁ズ
- 一、寄宿生ト通學生トヲ問ハズ生徒ヲシテ授業料等ヲ持參セシムルトキハ之レヲ封金トナスベシ
- 一、生徒ニシテ不都合ノ行爲アルトキハ停學又ハ退學セシムルコトアルベシ

五 慶應義塾商工學校規則

第一節 本校ノ目的、學年學期及休業日

第一條 本校ハ明治三十二年文部省令第十號商業學校規定甲種ノ程度ニ依リ商工界ノ實務ニ從事セシムル者ヲ養成スルヲ以テ其目的トス

第二條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條 學年ヲ分チ三學期トス第一學期ハ四月十一日ヨリ七月二十日ニ至リ第二學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十五日ニ至リ第三學期ハ一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第四條 休業日ハ左ノ如シ

- 一日 曜日
- 一 福澤先生記念日 一月十日
- 一 紀元節 二月十一日
- 一 春季皇靈祭 春分日
- 一 神武天皇祭 四月三日

一 開校記念日 四月二十三日

一 明治天皇祭 七月三十日

一 天長節 八月三十一日

一 秋季皇靈祭 秋分日

一 神嘗祭 十月十七日

一 天長節祝日 十月三十一日

一 新嘗祭 十一月二十三日

一 春期休業 四月一日ヨリ同十日ニ至ル

一 夏期休業 七月二十一日ヨリ九月十日ニ至ル

一 冬期休業 十二月二十六日ヨリ一月七日ニ至ル

備考 紀元節、天長節、及一月一日ニ於テハ職員生徒學校ニ參集シテ式ヲ舉グルモノトス

第二節 修業年限、課程

第一條 修業年限ヲ豫科二箇年本科四箇年トス

第二條 學科課程左ノ如シ

豫科課程

學科目	學年	第一學年 每週授業時數		第二學年 每週授業時數	
		身	文	身	文
修		一	五	一	五
國					
習			二		二
英					五
算					五
理					二
地、地、歷史					四
圖					二
體					二
計					二八

本科課程

學科目	學年	第一學年 每週授業時數		第二學年 每週授業時數		第三學年 每週授業時數		第四學年 每週授業時數	
		身	文	身	文	身	文	身	文
修		一	五	一	五	一	三	一	一
國									
英									九
歷史、地理									
數									
簿									
理									
法									
商事要項									
經濟									
商業實踐									

第三條 商工學校教科書 (便宜變更スルコトアルベシ)

豫科第一學年

- 修身 吉田靜致著實業教育修身教科書
- 國語 上田、内海共編中等實業讀本
- 漢文 岡田正之著新定漢文讀本
- 英語 ジョーンズ、リーダー
- 英語 玉眞岩雄著ブライマリー、イングリッシニ、コース
- 算術 樺正董著新訂算術教科書

豫科用卷一

第一、二

卷一

第一

第一、二

入門及ビ第一、二、三

全

計	體操	圖畫 (用器)	(投影)	(見取リ)	商 品
三二	二	二	二	二	二
三二	二	二	二	二	二
三二	二	二	二	二	二
三二	二	二	二	二	二

- 地理 小林房太郎著實業學校用日本新地理
- 開成館發行模範日本地圖

全

- 歷史 藤田明著實業學校日本歷史

全

- 博物 安東伊三次郎著最近博物教科書

全

- 圖畫 圖畫教育研究會編實業學校圖畫教科書

卷一、二

- 習字 日高、内藤共著中等教科新式習字帖

第一、二、三

豫料第二學年

- 修身 吉田靜致著實業教育修身教科書
- 國語 上田、内海共編中等實業讀本
- 漢文 岡田正之著新定漢文讀本

豫科用第二

第三、四

第二

- 英語 ジョーンズ、リーダー

第二

- 英語 玉眞岩雄著ブライマリー、イングリッシニ、コース

(A組用)前年ヨリノ續キ第一、二

- 英語 神田乃武著改訂英文典

- 開成館編ニユーセンチュリー英習字

第四、五、六

算術	樺正董著新訂算術教科書	全
地理	脇水鐵五郎著提要實業世界地理	全
歷史	今井登志喜著世界歷史	全
生理	安東伊三次郎著中學生理衛生教科書	全
圖畫	圖畫教育研究會編實業學校圖畫教科書	卷三
習字	日高、內藤共著中等教科新式習字帖	第四、五、六
修身	吉田靜致著實業教育修身教科書	第一
英語	神田乃武著英文典	(口授)
國語	佐々政一著新撰實業讀本	第一、二、三
漢文	岡田正之著新定漢文讀本	第二、三
歷史	上田貞次郎著新商業史教科書	第三
		日本ノ部

幾何	波木井九十郎著中等教育幾何學教科書	全
代數	樺正董著代數學教科書	上
簿記	吉田良三著甲種商業簿記教科書	上
地理	實業學校地理教科書	日本ノ部
鑛物	安東伊三次郎著中學鑛物教科書	日本ノ部
習字	森、西脇共著新撰商業習字教本	第一、二、三
修身	本科第二學年	第一、二、三
英作文	英作文	第四(口授)
英文法	英文法	(口授、A組)
英語	齋藤秀三郎著世界英語讀本	(B組)第三
	神田乃武著中文典	第四
		(B組)全

國語	上田、内海共編中等實業讀本	第七、八
漢文	岡田正之著新定日本外史鈔本	全
歷史	松浦要、太田哲三著最新商業史	全
數學	樺正董著新訂代數學教科書	中
	波木井九十郎著中等教育幾何教科書	(平面)全
地理	見雪莊雪著最新商業地理	(外國ノ部)全
化學	口授	
簿記	吉田良三著甲種商業簿記教科書	中
習字	森、西脇共著新撰商業習字教本	第四、五
	本科第三學年	
修身		(口授)
英語	前田定之助著英文商業通信	(二學期ヨリ)第二
	ジョーンス、リーダー	第五
	齋藤秀三郎著世界英語讀本	(B組)第四

(英作文)

國語	上田、内海共編中等國語讀本	(A組用)上、下
漢文	宇野哲人著新撰十八史略鈔	全
數學	樺正董著新訂代數學教科書	下
	波木井九十郎著中等教育幾何學教科書	(平面)
化學	口授	
簿記	茂木英雄著銀行簿記教科書	全
要項	平井外記共著新訂商事要項	全
經濟	黒澤次久著商業學校經濟學教科書	前編
商法	青木徹二著商法教科書	全
	本科第四學年	
英語	スベシメンズ、オプ、イングリッシュ、ブローズ	全
	マアデン、ブッシング、ツ、ゼ、フロント	全
	前田定之助著英文商業通信	第二

〔英字新聞若クハ雜誌〕

- 數學 權正董著實用高等數學 全
- 經濟 黑澤次久著商業學校經濟學教科書 全
- 商法 青木徹二著商法教科書 後編 全
- 商品 全
- 物理 口授 (口授)全
- 簿記 田尻、古館共著三訂增補英文簿記教科書

第三節 入學、休學及退學

- 第一條 入學ノ期ハ各學期ノ始メトス
- 第二條 豫科第一學年入學資格ハ滿十二歳以上ニシテ尋常小學卒業者若クハ入學試驗及第者トス本科第一學年入學資格ハ滿十四歳以上ニシテ中學二年修了者若クハ入學試驗及第者トス
- 第三條 入學志願者ノ數定員ヲ超過スルトキハ選抜試驗ヲ行フ
- 第四條 入學試驗科目及選抜試驗科目左ノ如シ

豫科第一學年入學試驗科目

- 一 國文
- 一 算術(洋算、珠算トモ)
- 一 日本歴史、日本地理
- 一 習字

本科第一學年入學試驗科目

- 一 國語、漢文
- 一 英語
- 一 理科(生理衛生)
- 一 算術(洋算、珠算トモ)
- 一 外國歴史、外國地理
- 一 習字

第五條 入學試驗科目ノ評點ハ各一百點ヲ以テ滿點トシ各科目ノ評點五割以上ナル者若シクハ全科目ノ評點合計六割以上ナルモノヲ及第トス

但シ全科目ノ評點六割以上ナルモ四割以下ノ科目アルトキハ落第トス

第六條 第二學期若クハ第三學期ニ入學スル者ハ第二條ノ入學資格ヲ有シ且ツ該學級ニテ既ニ履修セ
ル學科目ノ試験ニ及第スルヲ要ス

第七條 豫科本科共第二學年へ編入ヲ望ムモノハ第二條ノ入學資格ヲ有シ且ツ第一學年ヨリ志望ノ學
級ニ至ル全科目ノ試験ニ及第スルヲ要ス

第八條 退學者一箇年以内ニ再ビ入學セントスルトキハ試験ノ上原級ニ編入ス

第九條 入學志願者ハ第一號書式ニ據リ左ノ期日迄ニ入學志願書ヲ塾監局ニ差出スベシ

第一學期入學申込期日 四月八日迄

第二學期入學申込期日 九月五日迄

第三學期入學申込期日 一月五日迄

第十條 尋常小學校及高等小學校卒業者又ハ中學二年修了者ハ其卒業證明書若シクハ修業證明書ヲ入
學志願書ニ添フベシ

第十一條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ規定ノ入學金ヲ會計部ニ納ムベシ

但シ再入學ノ者及普通部又ハ幼稚舎ニ在學セシモノハ入學金ヲ納ムルニ及バズ

第十二條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ在學證書ヲ塾監局へ差出スベシ

第十三條 保證人ハ父兄若クハ近親タルベシ

但シ遠隔若シクハ交通不便ノ地ニ住スル者ニハ別ニ東京市内又ハ其近傍ニテ一家計ヲ立ツル丁年

以上ノ男子ニシテ本塾ノ通知ニ接シ直ニ登校シ得ベキ代人ヲ設ケ置クベシ

第十四條 保證人姓名ヲ改メ又ハ轉居シタルトキハ直ニ其趣ヲ届出デ死亡其他ノ事由ニヨリ保證人ヲ
改メタルトキハ更ニ在學證書ヲ差出スベシ

第十五條 退學ノ生徒再ビ入學ノ許可ヲ得タル時ハ第二號書式ニ據リ在學證書ヲ塾監局へ差出スベシ

第十六條 缺席者ハ保證人ノ證明書ヲ添へ塾監局へ届出ヅベシ若シ正當ノ事由ナクシテ一箇月以上引
續キ缺席シタル者又ハ出席常ナラザル者ハ除名ス

但シ一學期以上引續キ缺席スルトキハ事故ノ如何ニ拘ラズ除名ス

第十七條 退學セントスルモノハ保證人連署ノ上塾監局へ願出ヅベシ

第十八條 左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ズベシ

- 一、操行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

大正 年 月 日

保證人

保證人代理

慶應義塾長 鎌田 榮 吉殿

注意

○成績ハ最近履修セル學年第二學期第二學期學年成績及席次ト又在學中ノ操行ニ就テハ可成詳細ニ記入シ校長ノ證明ヲ乞フベシ
○東京橫濱市内在住ノ父兄ハ保證人代理ヲ要セズ

(第二號書式)

在學證書 (用紙ハ本塾ヨリ交付ス)

何府何市區 何町何番地 華、士族、平民

職業戶主又ハ何誰何男、弟

何 某

何年何月何日生

右ノ者慶應義塾商工學校へ入學致候ニ付テハ御塾諸規則ヲ遵守セシムルハ勿論若シ本人ニ關シ事故アルトキハ何事ニ限ラズ拙者引受ケ速ニ處理可致候也

住所

年 月 日

保證人 何

某 印

慶應義塾長 鎌田 榮 吉殿

第四節 試驗、進級、卒業規則

第一條 各學科ノ日課成績ニ據テ其平常評點ヲ定メ一百點ヲ以テ滿點トス

第二條 各學期末ニ其學期間ニ履修セル學科ノ試驗ヲナス但シ數學期ニ亘ル學科ハ教員ノ見込ニヨリ

前一學期若クハ二學期ノ試問ヲ加フルコトアルベシ

期末試驗ノ評點ハ一百點ヲ以テ滿點トス

第三條 日課ニ缺席シ又ハ休學シタル者ハ事故ノ如何ヲ問ハズ缺課ノ度數ニ應ジテ平常評點ヲ減ズル

モノトス

第四條 各學科ノ平常評點及期末試驗ヲ平均シテ其學期評點ヲ定ム

第五條 各學科ノ各學期評點ヲ平均シテ其學年評點ヲ定ム

但シ全學年ニ通ゼザル學科ハ學修セル學期ノ評點ヲ平均スルモノトス

第六條 各學科學年評點ノ五割以上ナル者ヲ及第トス

第七條 全學科ノ學年評點合計ノ六割以上ナルモノヲ及第トス

但シ四割以下ノ科目アルトキハ落第トス

第八條 第二學期以後新ニ入學シタル者ノ學年評點ハ入學後ノ學期評點ヲ平均シテ之ヲ定ム

第九條 兵式體操ニ堪ヘザル痲疾アル者ハ體操科缺席ヲ許シ其ノ及第ハ他學科ノ成績ニヨリ之ヲ定ム

第十條 疾病ニヨリ二週間以上體操科ニ缺席シタル者ハ學生心得規則ノ手續ヲ經タル場合ニ限り其學

期間ノ日課評點ヲ出席日數ニ參照シテ其體操科平常評點ヲ定ム

第十一條 落第者ハ原級ニ留メ次學年ノ始ヨリ其級ノ全學科ヲ再修セシムルモノトス

第十二條 同一學級ニ於テ引續キ二回落第シタル者ハ退校ヲ命ズルコトアルベシ

第十三條 卒業生ニハ慶應義塾商工學校卒業證書ヲ授與ス

第十四條 學事成績ハ各學期末及學年末ニ於テ本塾ヨリ保證人ニ報告スベシ

第五節 優待生規則

第一條 學業優等品行方正ナル者ヲ選デ優待生トス

第二條 優待生ハ其學年間ノ授業料及體育會費ヲ免ズ

第三條 優待生ハ其學業及品行ノ如何ニ依リ其待遇ヲ失フコトアルベシ

第六節 入學金、授業料及其他ノ費用

第一條 入學金ヲ金五圓トス

第二條 一學年ノ授業料ヲ金參拾六圓トシ每學期ノ始メニ其ノ三分ノ一ヲ前納セシム

但シ一學期ノ中途ニ於テ退學スルコトアルモ其授業料及體育會費ハ返却セザルモノトス

第三條 一學期ノ體育會費ヲ金壹圓トシ每學期ノ始メニ之ヲ前納セシム

第四條 本科第二學年及第三學年ニ於テハ理化實驗費トシテ一學期五拾錢ヲ、第四學年ニ於テハ商業實踐費トシテ一學期五拾錢ヲ納ムルモノトス

第五條 三角定規(45°)T定規、インチ尺、烏口、コンパス、デグワイダー等ノ圖引用具(代價合計金六圓内外)ハ總テ自辨トス

第七節 附 則

舊高等小學校第二學年修了者ノ豫科第一學年入學ニ關シテハ尋常小學校卒業者ト同等ノ取扱ヲ爲シ

修業年限四箇年ノ舊高等小學校卒業者ノ本科第一學年入學ニ關シテハ高等小學校卒業者ト同等ノ取扱ヲ爲ス

六 商業學校規則

目的

一 商業學校ハ簡易ニシテ實用ニ適切ナル商業學科ヲ教授スルヲ以テ目的トス

修業年限及學期

一 修業年限ヲ二箇年トシ一箇年ヲ別チテ二期トス

一ハ自三月五日至七月三十一日

一ハ自九月十一日至翌年二月二十四日

授業時間及休業日

一 授業時間ハ毎日午後六時ヨリ九時迄トス

但シ日ノ長短ニヨリ時刻ヲ變更スルコトアルベシ

一日曜日、大祭祝日、一月十日、四月二十三日、冬期自十二月廿日及夏期自八月一日ヲ休業トス

課程

學科目	學級	四級	三級	二級	一級	級
簿記	一週間授業時間	四	三	三	三	三
算術	珠算	同	同	同	同	同
英語	讀本	同	同	同	同	同
商業	讀本	同	同	同	同	同
商業	讀本	同	同	同	同	同
商業	讀本	同	同	同	同	同
經濟	讀本	同	同	同	同	同
和習	讀本	同	同	同	同	同
商法	讀本	同	同	同	同	同
商地	讀本	同	同	同	同	同
實地	讀本	同	同	同	同	同

理科講話 (隨意)	同	〇	〇	一
合計	一八	一八	二〇	二〇

選科

一 中學校及甲種實業學校三學年以上ヲ修業セシ者ニシテ全學科ヲ修メ難キ事情アルモノハ特ニ志望學科ノ選修ヲ許スコトアルベシ

試験及卒業

一 各科平常點及試験點數ハ一百點ヲ以テ滿點トス
 一 平常點及試験點ノ合計平均六割以上ヲ得タルモノヲ進級若クハ卒業ノ合格者トス
 但シ三割以下ノモノ一科目以上アルトキハ落第トス

入學及退學

一 四級へ入學ヲ望ム者ハ高等小學卒業若クハ年齢十五歳以上ニシテ相當ノ學力アル者ニ限ル

但シ入學志願者定員ヲ超過スルトキハ選抜試験ヲ行フ

- 一 三級へ入學ヲ望ム者ハ英語筆記及筆算ノ試験ヲ課ス
- 一 入學ヲ望ムモノハ第一號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添へ差出スベシ
- 一 入學ノ許可ヲ得タルモノハ第二號書式ノ引請證ニ入學金及授業料ヲ添へ差出スベシ

(第一號書式)

入學志願書 (用紙ハ)

御校第 級へ入學志願ニ付御許可被成下度別紙履歷書相添へ此段相願候也

原籍

現住所

年 月 日

何 某

何年何月何日生

慶應義塾長鎌田榮吉殿

(第二號書式)

引 請 證 (用紙ハ本塾ヨリ交付ス)

右ノ者御校へ入學御許可相成候ニ付テハ御校則ヲ遵守セシムルハ勿論若シ本人ニ關シ事故アルトキハ何事ニ限ラズ拙者引受速ニ處理可致候也

年 月 日

慶應義塾長鎌田榮吉殿

一引請人ハ東京又ハ横濱市内ニ於テ一家計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ本校ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

一引請人轉居若クハ改名、改印スルコトアルトキハ速ニ其旨ヲ届出ヅベシ

一引請人東京又ハ横濱以外ニ轉居シ又ハ死去セシトキハ更ニ引請人ヲ定メ引請證ヲ差出スベシ

何府何市區何町何番地

族籍戶主又ハ何誰男、弟

父兄ノ職業

何

某

何年何月何日生

東京何區何町何番地族籍

保證人 何

誰 印

學 費

一退學スルトキハ引請人連署ノ上其旨届出ヅベシ

一入學試驗ヲ受クル者ハ試驗料金五拾錢ヲ納ムベシ

一新ニ入學スルモノハ入學金壹圓五拾錢ヲ納ムベシ

一授業料ハ一箇月金壹圓六拾錢トス

一一級及二級生ハ實地演習費用トシテ一箇月金拾錢ヲ納ムベシ

一授業料ハ當月十日迄ニ納入スベシ

一授業料ハ缺席全月ニ互ルト雖モ之ヲ納メシム

一授業料ハ退學又ハ除名ノ手續ヲナサザル間ハ登校ノ有無ニ拘ラズ之ヲ納メシム

一納入シタル入學金授業料ハ退學スルコトアルモ返戻セズ

專 修 科

一專修科ニ入學セントスル者ハ中學卒業若クハ之ト同等以上ノ學力アルコトヲ要ス

一專修科ハ之ヲ分テ乙科及甲科ノ二部トシ各科共毎半年ヲ以テ修了スルモノトス
但修了者ニハ修了證書ヲ授與ス

一學期ハ之ヲ分チテ二トシ一ハ三月五日ニ始マリ七月三十一日ニ終リ一ハ九月十一日ニ始マリ翌年二月二十四日ニ終ル

一學科及時間割

乙 科		甲 科	
月 商業簿記	(二時間)	銀 行簿記	(二時間)
火 珠 算	(同)	商 用 英 語	(同)
水 商 用 英 語	(同)	商 用 英 語	(同)
木 商 業 簿 記	(同)	銀 行 簿 記	(同)
金 商 用 英 語	(同)	英 文 簿 記	(同)
土 珠 算	(同)	商 用 英 語	(同)

右日割ハ都合ニ依リ變更スルコトアルベシ

學 費

一入學金ハ金壹圓トス

一授業料ハ左ノ通り相定ム

一科目ヲ修ムルモノハ

金 五 拾 錢

乙科 二科目ヲ兼修スルモノハ

金 壹 圓

三科目ヲ兼修スルモノハ

金 壹 圓 五 拾 錢

甲科 一科目ヲ修ムルモノハ

金 八 拾 錢

二科目ヲ兼修スルモノハ

金 壹 圓 五 拾 錢

本則ニ定メナキモノハ商業學校ノ規定ヲ準用ス

七 特 典

一大學部(大學院ヲ除ク)、普通部(補習科共)及商工學校在學生ハ、滿二十八歳迄徴兵猶豫ノ特典アリ又卒業後ハ無試験ニテ一年志願兵ト爲リ得ルノ特典アリ

- 一 大學部法律科卒業生ハ判檢事受験資格ノ特典アリ
- 一 大學部文學科（史學科ヲ除ク）卒業生（三十九年四月以後ノ普通部卒業生）ニシテ教育ニ從事セントスルトキハ無試験檢定ニ依リ師範學校中學校高等女學校ノ教師ト爲リ得ルノ特典アリ
- 一 普通部卒業生ハ無試験檢定ニ依リ專門學校ヘ入學シ得ルノ特典アリ

第五章 寄宿舍規則

第一節 寄宿舍

- 第一條 本寄宿舍ハ獨立自尊ノ主義ニ據リ舍生ヲシテ高尚ナル氣品ヲ涵養シ心身ノ發達ヲ健全ナラシメンコトヲ期ス
- 第二條 寄宿舍ニ舍監數名ヲ置キ舍生ヲ監督シ併セテ舍内一般ノ取締ニ任ズ
- 第三條 寄宿舍ノ定員ハ四百名トス
- 第四條 普通部及商工學校生徒ハ定員ニ超過セザル限リ凡テ寄宿舍ニ入舍セシムルモノトス但シ本塾職員ノ私宅ニ寄宿スルカ又ハ父兄ノ宅ヨリ通學スル者ハ此限ニアラズ

第二節 入舍、退舍

第五條 入舍セントスル者ハ舍監ノ許可ヲ得タル上左ノ書式ニ依リ寄宿證ヲ差出スベシ

寄 宿 證 (用紙ハ本塾ヨリ交付ス)

何府何市區何町何番地身分

何某子弟若クハ戶主

何 誰

何年何月何日生

右ノ者今般慶應義塾寄宿舍ヘ入舍御許可被下候ニ付テハ舍中ノ規則ヲ堅ク可爲相守萬一本人心得違アラバ此方ニテ引受始末可仕候也

年 月 日

住 所

何 誰 印

慶應義塾長 鎌田榮吉殿

第六條 寄宿舍ノ座席ハ舍監之ヲ定ム

第七條 退舎セントスル者ハ保證人連署ノ上退舎願ヲ舍監ニ差出シ其許可ヲ受クベシ

第三節 寄宿舎心得

第八條 寄宿舎ハ親睦ヲ旨トシ互ニ責任ヲ重ンジ舍生全體ノ名譽ヲ汚サザル様心掛クベシ

第九條 寄宿生ハ飲酒及喫煙ヲ禁ズ

第十條 起床、食事及門限等ハ時季ニ應ジテ舍監之ヲ定メ揭示スベシ

第十一條 外泊セントスル者ハ保證人又ハ父兄ノ證明書ヲ舍監ニ差出シ其許可ヲ受クベシ

第十二條 寄宿生疾病ニ罹ルトキハ速ニ舍監ニ届出ヅベシ

第十三條 食堂及賄方ハ舍監之ヲ監督スル者トス

第十四條 舍監ヨリノ揭示ハ之ヲ遵守スベシ

第十五條 舍内備付物品及建具、壁等ヲ毀損又ハ汚染スルトキハ相當ノ辨償ヲ爲サシム

第十六條 寄宿舎規則ニ違背シ又ハ風儀ヲ紊ル如キ所行アル者ハ其輕重ニ依リ譴責、禁足又ハ退舎セ

シメラル事アルベシ

但シ退舎ヲ命ゼラレタル者ハ事情ニ依リ退學ニ處セララルコトアルベシ

第四節 費用

第十七條 寄宿生ノ費用左ノ如シ

食料	七圓五拾錢 <small>(物價ノ高低ニ從ヒ増減スルコトアルベシ)</small>
舍費	參圓五拾錢

第十八條 前條ノ費用ハ毎月五日迄ニ前納スベシ

備考

- (一) 本寄宿舎ハ自修室ノ外別ニ寢室ヲ設ケ高机及寢臺ヲ各々備付ケアリ且夜間ハ凡テ電燈ヲ用ヒ冬季ハ蒸汽暖管ヲ以テ室内ヲ温ムルノ設備ナルニ因リ入舎ノ際ハ唯ダ左ノ物品ヲ用意スレバ足レリ
毛布(或ハ蒲團)枕、行李、椅子、本箱
- (二) 寄宿生ノ學資出納ハ凡テ本塾會計部ニ於テ之ヲ司ルヲ以テ父兄ハ一切ノ學資ヲ會計部宛ニ拂込アルベシ

- (三) 寄宿生ノ學資ハ右寄宿費ノ外授業料、體育會費、其他筆墨紙靴傘入湯洗濯等ノ雜費ヲ要スルガ故ニ一箇月凡ソ拾九圓餘ヲ要スベシ

第六章 圖書館規則

- 第一條 本館所藏ノ圖書ハ專ラ教員學生及塾員ノ參考用ニ供シ傍ラ一般公衆ノ閱覽ニ應ズルモノトス
- 第二條 本館ノ圖書ハ特別ノ許可ナクシテ閱覽室外ニ持出スコトヲ許サズ
但シ教職員ニ限リ參考用ノ圖書ヲ自宅ニ携帶スルコトヲ得
- 第三條 本塾學生ハ入館ノ際借覽券ヲ受付所ニ差出シ一般公衆ハ同所ニ於テ左記ノ閱覽料ヲ納ムベシ
 - 一 一回 金 五 錢
 - 一ケ月 金 壹 圓
- 第四條 閱覽ハ一時ニ三部六冊以上ヲ借覽スルコトヲ得ズ
但シ教職員ハ此限ニアラズ
- 第五條 借覽ノ書籍ヲ紛失シ又ハ之ヲ汚損シタルトキハ時價ニ依リ之ヲ償還セシム
- 第六條 閱覽室ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ音讀談話喫烟ヲ爲スベカラズ若シ不都合ノ所爲アリタルトキハ相當ノ處分ヲナスベシ
- 第七條 本館ノ開閉時間ハ左ノ如シ(開閉時間ハ時季ニ依リ臨時變更スルコトアルベシ)

一、平日

午前八時開館午後九時閉館

一、土曜日

午前八時開館午後四時閉館

一、日曜日

午前八時開館午後四時閉館

一、本塾臨時休業日

午前八時開館午後四時閉館

一、大祭祝日、福澤先生記念日(一月十日)、及開校記念日(四月二十三日)ハ終日閉館

一、本塾春期及冬期休業中ハ午前八時開館午後四時閉館(但十二月二十九日ヨリ翌年一月七日マデ終日閉館)

一、本塾夏期休業中ハ午前八時開館正午閉館(但日曜日ハ終日閉館)

第八條 寄贈ノ書籍ハ特ニ寄贈者ノ姓名ヲ記シテ館内ニ保存シ三田評論誌上ニ於テ之ヲ報告スベシ

第七章 體育會規則

第一節 目的

第一條 本會ヲ慶應義塾體育會ト名ケ本塾學生ニ完全ナル身體ノ發育ヲ得セシメ併セテ品性ノ陶冶ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二節 組織

- 第二條 本會ハ通常會員、特別會員及名譽會員ヲ以テ組織ス
- 第三條 通常會員ハ本塾大學部(本科、豫科)普通部、商工學校并ニ幼稚舎學生ヨリ成立ス
但シ商業夜學校生徒ニシテ同校主任ノ推薦ニ依ルモノニ限リ通常會員タラシムルコトヲ得
- 第四條 特別會員ハ本塾役員教職員并ニ有志ノ塾員ヨリ成立ス
- 第五條 名譽會員ハ會長ノ推薦ニヨリ之ヲ定ム
- 第六條 本會ハ運動ノ種類ニ從テ部屬ヲ分ツ

第三節 役員

- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一名
理事	一名
部長	各部一名

幹事 各部ニ五名以内トス

但端艇部ニ限リ六名トス

書記	一名
會計	一名

第八條 書記會計ヲ除ク外役員ハ總テ無給トス

第一款 會長

- 第九條 會長ハ本塾社頭并ニ塾長ノ推薦ニ依リ其任ニ當ル
- 第十條 會長ハ役員會ヲ召集ス
- 第十一條 會長ハ緊急ノ必要ニヨリ役員會ヲ召集スル便ナキ時ニ限リ命令ヲ發スルコトヲ得
會長ノ緊急命令ハ各部并ニ各會員ニ對シテ効力ヲ有ス
但シ此命令ハ必ズ次ノ役員會ニ提出スベシ若シ同會ニ於テ承諾セザルトキハ同命令ハ將來ニ向ツ
テ其効力ヲ失フ

第二款 理事

第十二條 理事ハ會長ノ推薦ニ依リ役員會ノ承認ヲ經テ其任ニ當ル
 第十三條 理事ハ會長不在又ハ其他ノ事故アル場合ニ限リ之ニ代テ役員會ヲ召集ス
 第十四條 理事ハ役員會ノ決議ヲ執行ス

第三款 部長

第十五條 部長ハ部員ノ推薦ニ依リ役員會ノ承認ヲ經テ其任ニ當ル
 第十六條 本塾教職員ノ外部長ニ推薦セラルルヲ得ズ
 第十七條 部長ハ部員ヲ統轄シ部則ヲ行ハシメ部ノ會計ヲ監督ス

第四款 幹事

第十八條 幹事ハ各部則ニ從ヒ選舉セラレ役員會ノ承認ヲ經テ其任ニ當リ部一切ノ事務ニ參ス

第五款 書記及會計

第十九條 書記ハ理事ノ推薦ニ依リ役員會ノ承認ヲ經テ其任ニ當リ理事ノ命令ニ從ツテ本會全部ノ記錄ヲ作り併セテ諸般ノ雜務ヲ掌理ス
 第二十條 會計ハ理事ノ推薦ニ依リ役員會ノ承認ヲ經テ其任ニ當リ會費ヲ受理シ理事并ニ各部長ノ傳票ヲ以テ金錢ノ出納ヲナス

第四節 役員會

第二十一條 役員會ハ本會全般ノ事務ヲ統轄シ運動ノ部類ヲ定メ諸部ノ規則ヲ施行セシメ及ビ金錢ノ出納ヲ監督ス
 第二十二條 役員會ハ會長理事部長并ニ各部幹事ヲ以テ組織ス
 第二十三條 役員會ハ慶應義塾々長ノ提出スル體育ニ關スル議案ヲ議決シ及ビ自ラ諸般ノ議案ヲ提出スルコトヲ得
 第二十四條 役員會ハ體育ニ關シ其意見ヲ慶應義塾々長ニ建議スルコトヲ得

第二十五條 役員會ハ每學期一回之ヲ召集ス

役員會ヲ召集セントスルトキハ議案ヲ附シテ五日内ニ通知スベシ

第二十六條 常會ノ外臨時必要ニ基キ臨時會ヲ召集スルコトヲ得

第二十七條 役員會ハ會員總數ノ三分ノ一以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ズ

但シ幹事ニシテ自己ト同部ノ幹事ニ本會ニ關シ委任狀ヲ交付シタルモノハ出席者ト看做ス

第二十八條 第二十九條并ニ第三十條ノ場合ノ外本會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナル時ハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十九條 本總則ヲ改正シ既存ノ部ヲ廢止シ又ハ新ニ部ヲ設ケントスル時ハ本會ハ現員三分ノ二以上ノ出席アルニアラザレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ

出席三分ノ一以上ノ多數ヲ得ルニアラザレバ改正廢止又ハ増部ノ決議ヲナスコトヲ得ズ

第三十條 新ニ推薦セラレタル幹事ニ對シテハ出席者三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニアラザレバ承諾ヲ與フルヲ得ズ

第三十一條 役員會ノ議事ハ秘密會トス

第三十二條 役員會ハ體育會々員ヨリ諸般ノ要求書ヲ受クルコトヲ得

第三十三條 會長ハ役員會ニ於テ議長ノ任ニ當ル

但シ會長缺席ナルトキハ理事、理事缺席ナルトキハ年長ノ部長之ニ代ル

第三十四條 凡テ諸案ヲ發議シ及ビ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三名以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第五節 會計

第三十五條 本會々計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第三十六條 本會通常會員ハ每學期金壹圓ヲ本會々計ニ納付スベキモノトス

但シ幼稚舍生徒ハ金六拾錢トス

第三十七條 各部幹事ハ毎年二月マデ該部經費ノ需要高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比較ヲ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ理事ニ送附スベシ

第三十八條 理事ハ毎年三月マデニ本會ノ收入ノ情況ヲ調査シ各部ノ豫定經費要求書ニ基キ茲ニ慣例

ニ依ル特別支出ヲ積算シテ收支總豫算ヲ調製スベシ

第三十九條 總豫算ハ理事之ヲ役員會ニ提出シテ其承諾ヲ經ルコトヲ要ス

第四十條 役員會ガ總豫算ニ對シ承認ヲ與ヘザルトキハ前年度ノ豫算ヲ施行スベシ

第四十一條 部長ハ豫定經費要求書ニ基キ時々ノ所要ニ應ジ傳票ヲ發シテ會計ニ金錢ノ支出ヲナサシム

第四十二條 理事ハ豫算ニ基キ慣例ニ依ル特別支出ニ對シ傳票ヲ發シテ會計ニ金錢ノ支出ヲナサシム

第八章 幹事及主任

一、幹事ハ塾長ヲ補佐シテ一般ノ塾務ヲ處理シ塾長不在ノ時ハ其代理ヲ爲ス

一、主任ハ塾長ノ命ヲ承ケ幹事ト協議シ擔任部内ニ於ケル教務ニ當ルモノトシ大學部本科各科、同豫科、普通部、商工學校、商業學校、幼稚舎ノ各部ニ一名宛ヲ置ク
一、前項主任ノ任期ハ二箇年トス

第九章 學事評議會規則

第一條 本會ハ左ノ各號ニ該當スル者ヲ以テ會員トス

一、幹事

二、大學部本科各科主任、大學部豫科主任、普通部主任、幼稚舎主任、商工學校主任及商業學校主任

三、圖書館監督

四、體育會理事

五、大學部各分科教員

六、大學部豫科教員

七、普通部教員

八、商工學校教員

九、幼稚舎教員

十、商業學校教員

十一、寄宿舎々監

各二名

二名

二名

二名

二名

二名

一名

第二條 前條第五號乃至第十一號ニ該當スル會員ハ各部ニ於テ之ヲ互選ス

第三條 第一條第五號乃至第十一號ニ該當スル會員ハ一學年ヲ以テ任期トス但シ滿期ノ後再選セララルコトヲ得

第四條 本會ノ議長ハ塾長之ニ當ル

第五條 本會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一、義塾ノ學事ニ關スル件

二、理事會ヨリ諮詢ノ件

本會ハ義塾ノ學事ニ關スル事項ニ付其意見ヲ理事會ニ建議スルコトヲ得

第六條 本會ハ隔月一回塾長之ヲ召集ス

會員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ臨時會ヲ召集スベシ

理事會ノ請求アリタルトキモ亦同ジ

第七條 本會ニ幹事一名ヲ置ク

幹事ハ塾長之ヲ選任ス

第十章 教員會議

第一條 本塾各學部ニ教員會議ヲ設ケ教員ヲ以テ議員トス

但シ必要アルトキハ役員ヲモ加フルコトアルベシ

第二條 教員會議ノ議長ハ塾長之ニ當ル塾長事故アルトキハ教頭之ニ代ルモノトス

第三條 教員會議ハ毎月一回之ヲ開ク

但シ塾長ノ見込ニヨリ臨時會ヲ開クコトアルベシ

第四條 教員會議ニ於テ協議スベキ事項左ノ如シ

一、學科課程及授業法ニ關スル件

二、學生々徒ノ管理ニ關スル件

三、學生々徒ノ處罰ニ關スル件

第十一章 學資保管及學資

學資保管

年少學生をして日常多額の金錢を所持せしむるときは、自ら濫費に流れ易く、從て種々の悪弊を醸すの原因ともなるべきが故に、父兄をして是等の懸念なからしめんが爲め、本塾會計部に學資保管掛を置き父兄より會計部へ直接に送金せしめて之を保管し、學生へは之に對する一定の通帳を交付し入用の都度、先づ舎監又は監督者に於て費途の當否を認めたる上この通帳に一々檢印を捺し、然る後に

之を引出さしむる仕組と爲せり。

學 資

身分及び資産の多少に因り、塾生の學資に自ら差異あるべきは勿論なれども、左に掲ぐる年費表は、蓋し其中庸を得たるものなるべし

年 費 表 (但し寄宿生を標準とす)

	大 學 部	普 通 部	商 工 學 校	幼 稚 舍
授業料	五、〇〇〇	三、九〇〇	三、九〇〇	三、六〇〇
體育會費	三、五〇〇	三、五〇〇	三、五〇〇	
舍 費	八、二、五〇〇	八、二、五〇〇	八、二、五〇〇	
賄 料	六〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	
雜 費	三三、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	
合 計				一六六、〇〇〇

右表中舍費賄料及雜費は八月を除きたる一箇年分なれば一箇月分平均舍費金參圓五拾錢賄料金七圓五

拾錢雜費(大學部)金五圓餘(普通部、商工學校)金四圓餘の計算となる、雜費を明細に記せば被服料を除き、書籍及び文具代、入湯、散髪、各種の會費、旅費、襯衣、股引、シャボン、手拭等にて普通部及商工學校學生は大學生より稍や少額にて充分ならん、又私家寄宿及び下宿に在りても寄宿生の費用と大差なかるべし。

商業夜學校生徒月費

商業夜學校生徒は月謝金壹圓六拾錢を要する外入學の際書籍及び文具等貳圓五拾錢程を要す

第十二章 三田演說會大講堂及諸學會俱樂部 附雜誌の刊行

正面本館の傍らに一棟の會堂あり建築左まで宏壯と云ふにはあらざれども、是れ即ち我邦に於ける演說館の嚆矢なり、三田演說會は明治八年開會以來繼續して、今日に至る迄殆ど四十年間曾て一たびも廢絶したることなし、初めは公衆に對して學術政治の講談を爲せしが、近年は學生増加して公衆を容るゝの餘地なきが故に毎月一、二回單に學生のみを集めて塾の先輩より重に修身上の講話を爲し、或は學生をして演說討論せしむ、是れ亦本塾教育機關の一要部と見て可なり、而して此演說館は日本演說術の歴史に於て甚だ大切なる記念の建築として、本塾がその保存に注意する所のものなり。

學生の増加年々著しく今や其數七千に達したれば各種の大會を催うすに當り毎度不便を感ずるは之を收容する大講堂なき一事なりしが大正二年森村豊明會及福澤桃介氏よりその建築費として七萬圓の寄附ありたるを以て直ちに之が起工に着手し大正四年四月功を竣めたり即ち構内の西端中央に位し幼稚舎の後庭を下瞰する崖上に屹立するゴシック式煉瓦石造の一館は是にして同年五月開館式を舉行せり堂内優に二千五百の聽衆を容るゝに足る。

構内西北隅に一の俱樂部あり、學生が茶を喫し菓子を食しながら隨意に談笑する所にして、社交の快樂を加へ友誼を厚ふするの利益少なからず、又正午前後には通學生の辨當を喫する所にも充用し居れり、附屬の浴室及理髮所その傍らにあり、市中の湯屋、床屋より病氣を傳染し來るの憂なからしめんが爲めなり。又教職員俱樂部は前大學教授ヱィッカス氏住宅を以て之に充て居れり。

大學部政治科に政治學會、法律科に法學會、理財科に理財學會、文學科に哲學會史學會等あり、教師學生相集まり各自専門に關する學理の應用と共に時事問題を研究する機關にして、毎月乃至隔月に例會を開催す、又時々大會を開き朝野の學者名士を聘して講演せしむることあり。

經濟を主とし法律政治等に關し本塾教員生徒が専門的に研鑽攻究したる最新の學說評論を發表する機關としては三田學會發行の『三田學會雜誌』あり又三田文學會よりは『三田文學』なる月刊雜誌を發

行し文藝上の創作翻譯批評等に關する機關と爲し居れり、此他『三田評論』を發行し居れるが這是第十四章維持會の部に説明あるを以て爰には之を略せり。

又學生の間には辯論會（大學本科、同豫科、普通部、商工學校、商業學校）英語會、三田佛教會、基督教青年會、バレット俱樂部、ワグネルンサイチー、謠曲會、普通部會、商工會、商業學校々友會等種々の會ありて同好のもの相集まり自ら知見を開き高尚の趣味を涵養すると共に氣品を進めんことを勉む。

第十三章 海外留學生

本塾に於ては適任の大學部教授を得んが爲め去る明治三十二年初めて五名の留學生を歐米の諸國へ派遣せり是ぞ即ち私立學校留學生派遣の嚆矢にして、我國に於ける學問の歴史に特書すべきものなり、其後も引續いて年々數名の留學生を歐米へ派遣し來れるが今後は益々多く派遣せんと希望なり、而して本塾の留學生は教師及卒業生中より選抜して時々派遣するものなれば自ら學問の獎勵法とも爲る可し。

今本塾留學生にして其業を終へて既に歸朝し且本塾に於て現に教鞭を執りつゝある者及び留學中にあ

る者の氏名及専攻學科を列擧すれば左の如し。

歸朝留學生 (イロハ順)

國際公法	板倉卓造	憲法、外交史	林毅陸
商法	西本辰之助	刑法	西村富三郎
經濟、殖民	堀切善兵衛	銀行、貨幣、財政	堀江歸一
民法	神戸寅次郎	英文學	(死亡)岡本謙三郎
社會學	田中一貞	教育學、心理學、哲學	川合貞一
經濟學史、經濟學原理	高橋誠一郎	歴史	田中萃一郎
經濟學 (目下東京電燈會社營業課長 兼本塾評議員)	名取和作	經濟學	小泉信三
商法 (目下辯護士兼 本塾評議員)	青木徹二	經濟史、經濟地理	阿部秀助
會社經營學	三邊金藏	審美學	澤木四方吉
經濟學、經濟政策、財政	氣賀勘重		
教育學、英語	現在留學中 小林澄兄		

(在英國)

第十四章 基本金募集及維持會 附義塾機關雜誌

基本金募集

創立以來、本塾は主として生徒の月謝を以て一切の經費を支へ來りたれども、學事の改良に金錢の最も必要なるは言ふまでもなく、月謝のみにては到底不足なるに依り、明治二十三年大學部新設と同時に資金募集の議を決し直に趣旨書を發布して有志者の贊助を求めたるに、忽ちにして約十四萬圓の寄附を得たり、此資金を以て諸般の設備を整へ且つ年々經費の不足を補充したりしが、更に明治三十年の末より基本金の募集に着手したるに、今日迄に既に約四十一萬圓の寄附を得たるは世間の同情いよいよ厚さを證するものにして本塾の感謝に堪へざる所なり。

維持會 附三田評論

基本金の募集に着手すると共に益々學事の改良、設備の完整を行ひ、其費用は基本金中より之を支辨し來れり、さればその儘にて押行かんには基本金充實期を晚くする憂あり且は引續き新設備に要する

費用も少なからざるを以て基本金の充實するまで年々の經費不足額を補充する目的にて明治三十四年三月慶應義塾維持會なるものを設立し有志の入會を求めたり、爾來今日迄に入會者の數八千四百餘名、釀金口數一萬四百八十餘口に達したるが去る四十三年は恰も本會創設後十年目に相當したるを以て完納者約六百名を出すに至れり、故に之が繼續を勸誘すると同時に新會員の募集に力めつゝあり、會員には毎月三田評論（舊慶應義塾學報、改題）を贈呈しこの評論を以て會員の動靜、釀金の收受、本塾の學事、會計報告等を通報す、三田評論は主として右の事項を基本金寄附者及維持會員に報告する機關なれども、一方には本塾學風の鼓吹、新知識の傳播を其の目的とし毎號社中先輩の意見、各専門に關する學說等を掲載す、又海外諸新聞雜誌の嶄新なる記事論說を譯載す故に單に學校の報告書として見るべきに非ず趣味と實益に富める好雜誌として汎く世間に購讀せらる。維持會規則左の如し。

慶應義塾維持會規則

- 第一條 本會ノ目的ハ慶應義塾基本金ノ充足スル迄年々塾ノ不足額ヲ補充スルニ在リ
- 第二條 男女老少ヲ問ハズ何人ニテモ本會ノ會員タルコトヲ得
- 第三條 會員タラント欲スル人ハ釀金ノ口數ト其拂込方トヲ記シテ便宜本局又ハ支部ヘ申込マルベシ
- 第四條 本會々員ハ十箇年間毎年金六圓ヲ釀出スルモノトス

- 第五條 前條ノ釀金ハ一人ニテ幾口ニテモ負擔スルコトアルベシ
- 第六條 本會ハ東京慶應義塾内ニ本局ヲ置キ各地方ニ支部ヲ置ク
- 第七條 各支部ニ一名若クハ數名ノ幹事ヲ置ク幹事ハ各地方會員ノ釀金ヲ取集メテ本局ニ送致シ且ツ同志ノ入會ヲ勸誘スルモノトス
- 第八條 幹事ハ名譽職トシ其下ニ有給事務員ヲ使用スルコトアルベシ
- 第九條 會員ニハ毎月三田評論ヲ贈呈シ其評論ニ於テ會員ノ動靜、釀金ノ收入、本塾ノ會計等ヲ報告スベシ

入會申込書（書式）

慶應義塾維持會ニ加入シ釀金 口負擔致候也
但シ其拂込方ハ

年 月 日

住 所

何 誰

慶應義塾維持會

御 中

第十五章 中上川獎學資金

大正二年は故中上川彦次郎氏が歿後十三回忌に相當したるを以て其紀念の爲め同氏の知友並に生前恩顧の人々相謀り各自應分の醜金をなし其金額金一萬一千五百卅六圓を中上川獎學資金として義塾に寄附したり是ぞ中上川獎學資金の由來にして義塾は遺族に謀り其利子を以て毎年度大學部本科三年生中より優良の學生を詮衡し一年限り之を交附することとし大正三年度より實施し本年度は第三回目に當り。

第十六章 慶應義塾出版局

出版局は義塾教職員及び關係者の著作翻譯を獎勵し出版するの主意を以て去る明治四十年六月設立したるものにしてその創設は大學部教授青木徹二氏の首唱に成り塾員及教職員有志より株式を募集し拂込金四千圓を得て事業に着手したりしが爾後大正元年十二月義塾の經營に移るまでに出版發行したる書籍十數部に上れり。株主に對しても年々相當の利益を配當するの好成績なりしが株式組織にては出版物を獎勵する點に於て幾分の窮屈を感じるの憾あり。茲に於て義塾に買收し極力經營する事となり

以て今日に至れり。

買收以來日尙淺しと雖も義塾學生用教科書を始とし義塾教授の研鑽攻究に成れる著作物若くは翻譯物にして既に上梓發賣したる其部數頗る多く今や義塾出版局の存在は普く世人より認めらるゝに至り世間の學校に教科書を供給する高も年々増加の趨勢なり。又其會計は義塾會計とは全然特別なるが故に義塾の支出せし資金に對しても相當の利子を支拂ひつゝあり殊に大正三年七月より大正四年六月に至る年度に於ては教科書以外の出版物の部數多きが爲め二千圓を増資し以て運轉資本に供したり。

第十七章 寄宿舍消費組合 沿革及現在の事業

本塾寄宿舍消費組合はその規模甚だ小なれどもその歴史に於ては實に我國に於ける購買組合の嚆矢たり、明治三十五年時の寄宿舍々監堀内輝美氏舍生中の上級生數輩に慫慂して泰西に於ける消費組合の制度を試験的に舍内に實行せんことを企圖し先づ資金として一株金五拾錢の株券二百五十口を舍生より募集し第一回到半金の拂込を爲し役員を選擧し定款を草し自習室一間を以て物品販賣所に充て事業を開始したり、當時商品の種類は筆紙墨と駄菓子の類のみにして種類も簡單に數量も至極少額なりしが其仕入には現金にあらざれば何れの問屋も應ぜざりしを以て資本の缺乏甚しく時には役員等の私資

迄も運轉して商品を補充したる程なり、然れども半期後の決算には相當の利潤を收め組合の前途稍や曙光を認むるに至り市内の商店等にも進んで取引を申込むもの續出しその商品は大概委託販賣として翌月五日に仕切勘定を爲すに至りたるを以て開始後二期にして既に販賣所の狹隘を告ぐる盛況を呈し従前より庭内に學生用品を販賣し居りたる佐藤某の販賣所を商品居抜きに儘に組合に買収し當局に乞ふて寄宿舎東側に表向きの販賣所を設け從來寄宿舎生のみに分配したる商品を塾生一般に頒つに至れり茲に於て其定款改正の必要生じ明治三十七年中株主に對し株金全部を償還し從來の株式組織を改めて寄宿舎全部の組合組織とし役員の選舉は舍生に於て行ふと雖も其利潤の處分の如きは成るべく全塾一般に及ぼすべき方針を執り來れり。

外國より直接輸入の書籍は從來本塾圖書館に於て取扱ひ來りしが明治三十九年に至り之を組合に委託されしより事業の範圍益々擴大し且つ教科書全部を組合に於て取扱ふに至りたるを以て一躍して商品取扱の數量従前に數倍するに至り利潤も從つて増加するに至れり、然れども飽迄基礎の鞏固を期せんが爲に利益金の處分は積立金商損準備金等に充つる事とせり、故に明治四十三年は寄宿舎南東隅に販賣所を新設せしを以て未だ目立ちたる處分を見るに至らざりしも翌四十四年は恰も開設十週年に當りたるを以て利益の一部を割きて寄宿舎自習室全部に花蓆を敷き次て同四十五年前半期決算の際得たる

利益金を以て寄宿舎自習室の窓全部にカーテンを設けたり、其の外舎内の閲覧室と圖書館地下室備付けの新聞とは組合の利益より之を寄附し居れり、又大正二年取換へたる寄宿舎蒸汽暖房工事費中へ六ヶ年に亘り年々五百圓づゝ寄附することに決定し現に實行中なり。

現在組合に於ての事業は米鹽薪炭等の如き日常生活用品を除きたるその他の學生用品は殆ど全部を取扱ひつゝありて定期預金一千圓を有し當座帳尻には常に三四千圓を剩し外に不動産五百圓と商品三千餘圓とあり前途益々發展すべき實況なり。

第十八章 同窓會規約

天下到る所に本塾同窓者の在らざるなく、同窓者ある所必ず同窓會或は同級會を組織しその多くは何三田會と名づく、茲に掲ぐるは京濱間同窓會の規約なり。

- 一 慶應義塾同窓者ハ毎年四月、十一月ノ二季ニ東京ニ於テ同窓會ヲ開ク其日時及ビ場處ハ幹事之ヲ定ム
- 一 慶應義塾同窓者ハ慶應義塾々員同窓者本塾ノ教員及ビ曾テ教職員タリシ者ヨリ成ル
- 一 慶應義塾維持ノ爲ニ金圓物品ヲ寄附シタル者ハ塾友トシテ同窓會ニ出席ヲ求ムルコトアルベシ

- 一 慶應義塾同窓者ハ幹事二十五名ヲ選舉シ會務ノ處理ヲ託ス幹事ノ任期ハ一箇年トス
- 一 幹事ハ同窓者ノ日時場所及ビ會費等ヲ定メテ豫メ會員ニ通知スベシ
- 一 幹事ハ同窓會員并ニ每會出席者ノ名簿ヲ調製シテ之ヲ保管スベシ
- 一 幹事ハ會計簿ヲ作り金錢ノ出納ヲ明ニシテ之ヲ保管スベシ
- 一 同窓會事務所ハ慶應義塾内ニ置ク

第十九章 修身要領

修身要領は吾黨の男女が服膺す可き修身處世の法なり、本塾は之を塾生に示すと同時に汎く世間に公表し先輩諸氏は幾度も各地に巡回して其趣旨を説明したり今後益々此主義を普及せしめ天下の萬衆を之に遵由せしむるは之れ亦本塾の一事業として期する所なり。

修身要領

文明日新の修身處世法は如何なる主義に依り如何なる方向に進む可きやとは今の青年學生の大に惑ふ所にして先輩に對して屢々質問を起すものあり福澤先生之に答ふ

る爲めにとて生等に囑して文案を草せしむ即ち先生平素の言行に基き其大要を述べて先生の閱覽を乞ひ之を修身要領と名け學生に示すこと左の如し

明治三十三年二月紀元節

慶應義塾社中某々誌

凡そ日本國に生々する臣民は男女老少を問はず萬世一系の帝室を奉戴して其恩徳を仰がざるものある可からず此一事は滿天下何人も疑を容れざる所なり而して今日の男女が今日の社會に處する道如何にすべきやと云ふに古來道徳の教一にして足らずと雖ども徳教は人文の進歩と共に變化するの約束にして日新文明の社會には自ら其社會に適するの教なきを得ず即ち修身處世の法を新にするの必要ある所以なり

- 一 人は人たるの品位を進め智徳を研きます、其光輝を發揚するを以て本分と爲さざる可らず吾黨の男女は獨立自尊の主義を以て修身處世の要領と爲し之を服膺して人たるの本分を全うす可きものなり
- 二 心身の獨立を全うし自から其身を尊重して人たるの品位を辱めざるもの之を獨立自尊の人と云ふ
- 三 自から勞して自ら食ふは人生獨立の本源なり獨立自尊の人は自勞自活の人たらざる可からず
- 四 身體を大切にし健康を保つは人間生々の道に缺く可からざるの要務なり常に心身を快活にして苟も健康を害するの不養生を戒む可し
- 五 天壽を全うするは人の本分を盡すものなり原因事情の如何を問はず自から生命を

- 六 敢爲活潑堅忍不屈の精神を以てするに非ざれば獨立自尊の主義を實にするを得ず人は進取確守の勇氣を缺く可からず
- 七 獨立自尊の人は一身の進退方向を他に依頼せずして自から思慮判断するの智力を備へざる可からず
- 八 男尊女卑は野蠻の陋習なり文明の男女は同等同位互に相敬愛して各其獨立自尊を全からしむ可し
- 九 結婚は人生の重大事なれば配偶の選擇は最も慎重ならざる可からず一夫一婦終身同室相敬愛して互に獨立自尊を犯さざるは人倫の始めなり
- 十 一夫一婦の間に生るる子女は其父母の外に父母なく其子女の他に子女なし親子の愛は眞純の親愛にして之を傷けざるは一家幸福の基なり
- 十一 子女も亦獨立自尊の人なれども其幼時に在ては父母これが教養の責に任ぜざる可からず子女たるものは父母の訓誨に従て孜々勉勵成長の後獨立自尊の男女として世に立つの素養を爲す可きものなり
- 十二 獨立自尊の人たるを期するには男女共に成人の後にも自から學問を勉め知識を開發して徳性を修養するの心掛を怠る可からず
- 十三 一家より數家次第に相集りて社會の組織を成す健全なる社會の基は一人一家の獨立自尊に在りと知る可し

- 十四 社會共存の道は人々自から權利を護り幸福を求むると同時に他人の權利幸福を尊重して苟も之を犯すことなく以て自他の獨立自尊を傷けざるに在り
- 十五 怨を構へ仇を報ずるは野蠻の陋習にして卑劣の行爲なり恥辱を雪ぎ名譽を全うするには須からく公明の手段を選むべし
- 十六 人は自から従事する所の業務に忠實ならざる可からず其大小輕重に論なく苟も責任を怠るものは獨立自尊の人に非ざるなり
- 十七 人に交るには信を以てす可し己れ人を信じて人も亦己れを信ず人々相信じて始めて自己の獨立自尊を實にするを得べし
- 十八 禮義作法は敬愛の意を表する人間交際上の要具なれば苟めにも之を忽にす可からず只その過不及なきを要するのみ
- 十九 己れを愛するの情を擴めて他人に及ぼし其疾苦を輕減し其福利を増進するに勉むるは博愛の行爲にして人間の美德なり
- 二十 博愛の情は同類の人間に對するに止まるべからず禽獸を虐待し又は無益の殺生を爲すが如き人の戒むべき所なり
- 二十一 文藝の嗜は人の品位を高くし精神を娛ましめ之を大にすれば社會の平和を助け人生の幸福を増すものなれば亦是れ人間要務の一なりと知る可し
- 二十二 國あらば必ず政府あり政府は政令を行ひ軍備を設け一國の男女を保護して其身體生命財産名譽自由を侵害せしめざるを任務と爲す是を以て國費を負擔するの義

務あり

- 二十三 軍事に服し國費を負担すれば國の立法に參與し國費の用途を監督するは國民の權利にして又その義務なり
- 二十四 日本國民は男女を問はず國の獨立自尊を維持するが爲めには生命財産を賭して敵國と戦ふの義務あるを忘る可からず
- 二十五 國法を遵奉するは國民たるものの義務なり單に之を遵奉するに止まらず進んで其執行を補助し社會の秩序安寧を維持するものとす
- 二十六 地球上立國の數少なからずして各その宗教言語習俗を異にすと雖も其國人は等しく之れ同類の人間なれば之と交るにも苟も輕重厚薄の別あるべからず獨り自ら尊大にして他國人を蔑視するは獨立自尊の旨に反するものなり
- 二十七 吾々今代の人民は先代前人より繼承したる社會の文明福利を増進して之を子孫後生に傳ふるの義務を盡さざる可からず
- 二十八 人の世に生るる智慧強弱の差なきを得ず智強の數を増し愚弱の數を減ずるは教育の力に在り教育は即ち人に獨立自尊の道を教へて之を躬行實踐するの工風を營くものなり
- 二十九 吾黨の男女は自ら其要領を服膺するのみならず廣く之を社會一般に及ぼし天下萬衆と共に相率ゐて最大幸福の域に進むを期するものなり

第二十章 塾長及職員

塾長	鎌田 榮吉	維持會、基本金募集部員	松本 惣市
幹事	慶應義塾文學士 石田 新太郎	同	慶應義塾法律學士 氷室 保
本部事務員			
庶務係主任	慶應義塾理財學士 板倉 順治	同編集係	慶應義塾文學士 中野 熙治
庶務係	今井 一郎	同發行係	濱野 飢三郎
同	慶應義塾文學士 西村 敢	書記	小川 金平
用度係主任	木坂 三五六	學生取締	有泉 義理作
用度係	慶應義塾理財學士 寺本 萬太郎	大學部本科教員	
會計部主任 (兼維持會基本金募集部主任)	倉井 忠	理財科	
會計部員	松田 甚三郎	法學博士 堀江 歸一	
同	仁木 武雄	教務主任	醫學士 伊藤 萬太郎
		保險論	

佛語	慶應義塾文學士	林 毅 陸	英語、日本作文	ドクトル、オブ、フィロソフイー、バチエラー、オプ、アーツ、マスター、オブ、アーツ	高城仙次郎
英語	バチエラー、オブ、レターズ マスター、オブ、アーツ	畑 功	英語	バチエラー、オブ、ロース	根 岸 信
商法	慶應義塾法律學士	西本辰之助	商工事情	バチエラー、オブ、ロース	生江惣太郎
研究會	法學博士 慶應義塾理財學士	堀 江 歸 一	研究會	バチエラー、オブ、ロース	栗林勝太郎
名著研究	慶應義塾理財學士	堀切善兵衛	名著研究	バチエラー、オブ、アーツ マスター、オブ、アーツ	松本 丞 治
名著研究	バチエラー、オブ、アーツ マスター、オブ、アーツ	アール、シリ、 ホイット、ナック	商業實習	バチエラー、オブ、アーツ ジョン、 ポピングドン	増井 幸 雄
英語	ドクトル、オブ、フィロソフイー	岡 田 市 治	英語	バチエラー、オブ、アーツ マスター、オブ、アーツ	アイー、エツチ ブカナン
商工事情	法學士	河 邊 治 六	統計學	バチエラー、オブ、アーツ マスター、オブ、アーツ	福 田 德 三
統計學	法學士	河 合 良 成	英語	バチエラー、オブ、アーツ マスター、オブ、アーツ	小 柴 三 郎
英語	バチエラー、オブ、ロース	高 橋 一 知	經濟學史、經濟原理、日本作文、獨語	バチエラー、オブ、アーツ、 マスター、オブ、アーツ、 フィロソフイー	小 泉 信 三
經濟學史、經濟原理	慶應義塾政治學士	高橋誠一郎			
英語	バチエラー、オブ、アグリカ ルチユラル、サイエンス	高 木 真 一			

法律科

日本作文	慶應義塾文學士	香 下 玄 人	教務主任	法學博士 ドクトル、ユリス	神 戶 寅 次 郎
商工事情	法學博士 慶應義塾法律學士	寺 島 成 信	日本作文	慶應義塾法律學士	板 倉 順 治
商法手形法	法學博士 慶應義塾法律學士	青 木 徹 二	破産法	法學士	岩 本 勇 次 郎
經濟學說研究、經濟史、獨語、研究會	文學士	阿 部 秀 助	佛語	慶應義塾文學士	林 毅 陸
日本作文	文學士	赤 羽 俊 良	獨語、刑法、刑事訴訟法	慶應義塾法律學士	西 村 富 三 郎
日本作文	文學士	佐 久 節	商法、獨語、研究會	慶應義塾法律學士	西 本 辰 之 助
經濟政策、獨語、研究會、會計學	慶應義塾理財學士	三 邊 金 藏	民法、獨語、研究會	法學博士 ドクトル、ユリス	神 戶 寅 次 郎
獨語、經濟政策、工業政策、研究會、經濟原論	法學博士 ドクトル、 慶應義塾文學士	氣 賀 勘 重	民法親族編	慶應義塾法律學士	河 村 讓 三 郎
民法	法學士	三 橋 久 美	民法相續編	法學博士	法 學 博 士 寬 克 彦
民法	法學士	三 淵 忠 彦	法理學	法學博士	法 學 博 士 橫 田 秀 雄
英文商業通信	法學士	宮 原 景 一	民法物權編	法學博士	法 學 博 士 橫 田 秀 雄
			經濟原論、財政學	法學博士	法 學 博 士 橫 田 秀 雄

國際公法	高城仙次郎	日本作文	慶應義塾理財學士 板倉順治
法學博士 高橋作衛		外交史、佛語、研究會、比較憲法	慶應義塾文學士 林毅陸
日本作文	竹内左馬次郎	刑法	慶應義塾法律學士 西村富三郎
國際私法	山口弘一	貨幣論、銀行論、財政學	法學博士 堀江歸一
民事訴訟法、強制執行法			慶應義塾理財學士 堀切善兵衛
英吉利法	法學博士 松岡義正	殖民政策	應慶義塾理財學士 堀山雅男
商法海商法	法學博士 松波仁一郎	統計學	パチエラー、オプ、アーツ マスタール、オプ、アーツ アール、シー、 ホイットナック
英語	法學博士 松本丞治	名著研究	パチエラー、オプ、アーツ マスタール、オプ、アーツ ジョン、 ボビンダド
商法手形法	法學博士 小柴三郎	列國政治史、獨語	慶應義塾文學士 田中萃一郎
憲法、行政法	法學博士 青木徹二	社會學	マスタール、オプ、アーツ 慶應義塾文學士 田中一貞
政治科	法學博士 美濃部達吉	國際公法	法學博士 高橋作衛
教務主任	慶應義塾文學士 林毅陸	日本作文	慶應義塾文學士 竹内左馬次郎

英憲法史	慶應義塾文學士 占部百太郎	藝術史	岩村透
國法学	法學博士 野村淳治	英文學	マチエラー、オプ、レタリス マスタール、オプ、アーツ 畑功
名著研究	パチエラー、オプ、アーツ マスタール、オプ、アーツ アイ、エッチ アカナン	英文學	文學士 馬場勝彌
經濟學史	慶應義塾政治學士 小泉信三	東洋史	文學士 橋本増吉
經濟史	文學士 阿部秀助	英文學	文學士 戸川明三
經濟政策	法學博士 氣賀勘重	英文學	文學士 小山内薫
民法	法學博士 三橋久美	心理學、獨逸文學、哲學	慶應義塾文學士 川合貞一
民法	法學博士 三淵忠彦	哲學、哲學史	パチエラー、オプ、アイフイニテイル、ドクトル、 フイロソフイエ、マスタール、オプ、アーツ 鹿子木員信
市政論	法學博士 水野鍊太郎	佛文	文學士 太宰施門
憲法、行政法	法學博士 美濃部達吉	史學研究	慶應義塾文學士 田中萃一郎
文學科		社會學	マスタール、オプ、アーツ 慶應義塾文學士 田中一貞
教務主任	慶應義塾文學士 川合貞一	獨逸文學	文學士 向軍治
國史、古文書	文學士 伊木壽一		
教育學、教授法	文學士 稻垣末松		

西洋史	慶應義塾文學士	占部百太郎	心理學、論理學	慶應義塾文學士	緒垣末松
漢文學、支那文學史		内田周平	漢文		石井重倫
英文學		野口米次郎	日本作文	慶應義塾文學士	井川滋
英文學	マスター、オブ、アーツ	エー、ダブリュ、エー、 ブレイク、エー、	日本語	マスター、オブ、レタース	今園國貞
國文學及國文學史	慶應義塾文學士	神戶彌作	英語	バチエラー、オブ、アーツ	畑功
獨逸文學		文學士 小宮豊隆	地理、歴史	文學士	橋本増吉
國史		文學士 幸田成友	法律原論	慶應義塾法律學士	西村富三郎
西洋史、演習		文學士 阿部秀助	法律原論	慶應義塾法律學士	西本辰之助
文學評論		文學士 阿部次郎	心理、英語	慶應義塾文學士	堀梅天
美術史	慶應義塾文學士	澤木四方吉	英語、英文學	慶應義塾文學士	戸川明三
東洋哲學		文學士 木村泰賢	日本語	慶應義塾文學士	小澤愛園
佛蘭西文學		文學士 廣瀬哲士	歴史	慶應義塾政治學士	及川恒忠
大學部豫科教員			英語		鷺見龜五郎
教務主任	慶應義塾文學士	田中萃一郎	數學		樺正董

心理學、論理學	ドクトル、フイロツファイエ、 バチエラー、オブ、 アイヴイニティ、マスター、オブ、アーツ	鹿子木員信	歴史	慶應義塾文學士	占部百太郎
英語、英文學	慶應義塾文學士	川畑篤恭	英語		テイルリン ウィード
英語	ドクトル、オブ、フイロツファイ	河邊治六	英文學		野口米次郎
佛語、英語	マスター、オブ、アーツ 慶應義塾文學士	田中一貞	日本語		栗林勝太郎
英語、歴史、日本作文			經濟原論	慶應義塾理財學士	増井幸雄
經濟原論	慶應義塾文學士	竹内左馬次郎	佛語		前田長太
英語	バチエラー、オブ、アーツ、 マスター、オブ、 アーツ、ドクトル、オブ、フイロツファイ	高城仙次郎	英語	バチエラー、オブ、アーツ マスター、オブ、アーツ	ウキリヤム、コール ター、ダニル
日本語		生江惣太郎	獨語、論理學	文學士	船田三郎
日本語	バチエラー、オブ、ロース	中野熙治	國文、日本作文	慶應義塾文學士	エー、ダブリュ、エー、 ブレイク、エー、
獨語	慶應義塾文學士	向軍治	英語	バチエラー、オブ、アーツ、 オプ、アーツ、マスター、オブ、 アーツ	バチエラー、 オプ、アーツ
日本語		向井鹿松	歴史		文學士 幸田成友
日本語	慶應義塾理財學士	宗像穆熙	漢文		國府種徳

赤羽俊良	英語	日本作文、漢文	慶應義塾理財學士
葦原雅亮	英語	日本作文	
安倍能成	數學	獨語	
新井無二郎	日本作文	日本作文	
佐久節	文學士	獨語	
澤木四方吉	慶應義塾理財學士	獨語	
鬼島熊之助	慶應義塾理財學士	英語	
金原三郎	慶應義塾理財學士	獨語	
宮森麻太郎	慶應義塾理財學士	英語	
柴田一能	慶應義塾理財學士	論理學、心理學	
清水靜文	慶應義塾理財學士	經濟原論、地理	
廣井辰太郎	慶應義塾理財學士	英語	
廣瀬哲士	慶應義塾理財學士	佛語	
平井保藏	慶應義塾理財學士	簿記	

大學部事務員

教務係主任

教務係

同

普通部教員

教務主任

物理、地文

英語

レオナード、スタン
レー、ヒュース
ウキリヤム、
ヒューエル

森 吉太郎
森 彌三郎

林 敏

今井 一郎

大田 黒 亨

慶應義塾理財學士 川合 貞一

慶應義塾理財學士 今井 猪太郎

慶應義塾理財學士 井 川 滋

黒木長太郎	理學士	英語	慶應義塾理財學士
山崎 宗直	慶應義塾理財學士	英語	
松見 得聞	慶應義塾理財學士	漢文、國語、習字	
増田 松之	慶應義塾理財學士	圖畫	
間崎 萬里	慶應義塾理財學士	英語、歷史	
深澤 伊三郎	慶應義塾理財學士	英語	
神戸 彌作	慶應義塾理財學士	國語、漢文	
幸田 成友	慶應義塾理財學士	歷史	
新井無二郎	慶應義塾理財學士	國語、漢文、習字	
尼寺源之助	慶應義塾理財學士	數學	
佐久 節	慶應義塾理財學士	國語、漢文	
佐々木義宣	慶應義塾理財學士	英語	
佐藤 正叟	慶應義塾理財學士	數學	

<p>數學 岸田隆之丞 レオナード、スタン レ、ヒュニス ウキリヤム ヒニール</p> <p>英語 末永藤彌</p> <p>英語 末永藤彌</p> <p>兵式體操 末永藤彌</p> <p>普通部事務員</p> <p>教務係 高橋 珍龍 末永藤彌</p> <p>同</p> <p>幼稚舎教員</p> <p>教務主任 森 常 樹</p> <p>東組一學年 相川 新 治</p> <p>西組一學年 柳 沼彌右衛門</p> <p>二學年 山村 材 美</p>	<p>三學年 酒井安忠</p> <p>四學年 大熊直橘</p> <p>五學年 野田千太郎</p> <p>東組六學年 根來義一</p> <p>西組六學年 長谷川 宥太郎</p> <p>理科 清水保之</p> <p>英語 メーリ、 キルビー</p> <p>圖畫 石 川 巖</p> <p>唱歌 江澤清太郎</p> <p>手工 下川兵次郎</p> <p>庶務兼監督 平尾富次郎</p> <p>監督 酒井安忠</p>
---	--

商工學校

<p>教務主任 雨 山 達 也</p> <p>國語、漢文 文學士 今 國 貞</p> <p>英語 マスター、オブ、アーツ ニム、エル ハンセー</p> <p>修身 慶應義塾政治學士 堀 内 輝 美</p> <p>國語、漢文 慶應義塾文學士 富 岡 甲 子 郎</p> <p>地理、歴史 大内 太 一 郎</p> <p>英語 パチエワー、オブ、アーツ、マスター、オブ、アーツ、 ドクトル、オブ、フィロソフィー</p> <p>玉 眞 岩 雄</p> <p>兵式體操 高 田 武 一</p> <p>英語 パチエラー、オブ、アグリカ ルチユラル、サイエンス 慶應義塾法律學士</p> <p>高 木 眞 一</p> <p>法規 坪 井 經 藏</p> <p>物理、化學、幾何 理學士 長岡菊三郎</p>	<p>漢文、習字 慶應義塾理財學士 宗 像 穆 熙</p> <p>經濟 文學士 向 井 鹿 松</p> <p>地理、歴史 山 口 浩 義</p> <p>簿記、商事要項 山 崎 繁 樹</p> <p>圖畫 增 田 松 之</p> <p>經濟 慶應義塾理財學士 增 井 幸 雄</p> <p>兵式體操 眞 島 儀 三</p> <p>英文簿記、簿記、實習 外 記 甚 之 丞</p> <p>國語、漢文、修身 慶應義塾文學士 香 下 玄 人</p> <p>算術 幸 野 省 三</p> <p>珠算 遠 藤 義 澄</p> <p>修身、代數 雨 山 達 也</p> <p>タイプライティング(科外)慶應義塾 文 學 士 安 食 高 吉</p> <p>數學 尼 寺 源 之 助</p>
--	--

英語 パチエラー、オブ、アーツ 佐藤 潔
 礦物、植物、生理、商品 清水 保之
 幾何畫法、發動機見取圖 鈴木 重義
 地理、歴史 慶應義塾文學士 鈴木 錠之助

珠算 原 大 誠
 英語 濱野 釵三郎
慶應義塾理財學士 林 敏
慶應義塾文學士 小澤 愛 園
 大熊 直 橘
 大内 太 一郎
 奥田 重 藏

商工學校事務員

教務係 大内 太 一郎
 同 眞 島 儀 三

讀方作文 笠原 嘉次郎
 實地演習、商事要項 高井 計之助
 地理 高島 千代 楠
 讀方作文、英語 慶應義塾文學士 竹内 左馬次郎
 英語 土屋 金之丞
 珠算 直木 松太郎
 簿記 中村 太 郎
 商法 法學士

商業學校教員

教務主任 慶應義塾政治學士 堀内 輝 美
 經濟 慶應義塾理財學士 伊藤 正 徳
 算術 井 狩 新 助
 英語 今井 一 郎

英語 慶應義塾文學士 堀内 輝 美
 英語 慶應義塾文學士 高井 計之助
 珠算 高島 千代 楠
 簿記 慶應義塾理財學士 直木 松太郎
 簿記 慶應義塾理財學士 中村 太 郎

讀方作文、習字

英語

慶應義塾文學士

中山 友 藏

教務係

井 狩 新 助

理科

理學士

長岡 菊三郎

庶務兼會計係

岩井 恭太郎

算術

慶應義塾理財學士

高野 大 輔

舍監

慶應義塾政治學士

堀内 輝 美

英語

室 順五郎

同

慶應義塾政治學士

堀内 輝 美

英語

野原 茂 六

同

慶應義塾文學士

香 下 玄 人

實地演習、簿記

慶應義塾理財學士

山 本 沆

同

慶應義塾政治學士

及川 恒 忠

簿記

外記 甚之丞

同

慶應義塾政治學士

及川 恒 忠

算術

尼寺源之助

同

慶應義塾政治學士

及川 恒 忠

讀方作文

近藤 久 吉

監督

マスター、オブ、アーツ

田 中 一 貞

簿記、要項

商學士 平井 保 藏

館員

慶應義塾文學士

岡崎 義 元

商業學校事務員

同 同 同
慶應義塾文學士 笠原 嘉次郎
慶應義塾文學士 竹内 忠 一

圖書館事務員

マスター、オブ、アーツ 田 中 一 貞
慶應義塾文學士 岡崎 義 元
慶應義塾文學士 笠原 嘉次郎
慶應義塾文學士 竹内 忠 一

寄宿舎事務員

慶應義塾政治學士

堀内 輝 美

慶應義塾文學士

香 下 玄 人

慶應義塾政治學士

及川 恒 忠

慶應義塾政治學士

及川 恒 忠

慶應義塾政治學士

及川 恒 忠

マスター、オブ、アーツ

田 中 一 貞

慶應義塾文學士

岡崎 義 元

慶應義塾文學士

笠原 嘉次郎

慶應義塾文學士

竹内 忠 一

館員

山木德三郎 館員
同 慶應義塾文學士 安食高吉 同

佐々木良太郎
東野利孝

第二十一章 體育會役員及職員

會長
理事
柔道部長
劍道部長
端艇部長
弓術部長
野球部長
庭球部長

福澤捨次郎 フットボール部長
高橋誠一郎 器械體操部長
堀切善兵衛 水泳部長
神戸寅次郎 弓術部教員
堀江歸一 柔道部教員
雨山達也 劍道部教員
田中一貞 書記
林毅陸

畑功
氣賀勘重
香下玄人
北村明太郎
飯塚國三郎
佐藤義遵
兒玉琢朗

第二十二章 慶應義塾役員及維持會相談役

社頭
理事
顧問
評議員

福澤一太郎 評議員
福澤捨次郎 同
池田成彬 同
門野幾之進 同
伊藤欽亮 同
鎌田榮吉 同
朝吹英二 同
福澤捨次郎 同
門野幾之進 同
犬養毅 同
尾崎行雄 同
山本達雄 同
和田豐治 同
豊川良平 同

朝吹英二
波多野承五郎
青木徹二
池田成彬
伊藤欽亮
莊田平五郎
福澤桃介
阿部泰藏
門野重九郎
竹越與三郎
名取和作
北川禮弼
鈴木梅四郎
石河幹明

評議員

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

維持會相談役

藤山 雷太
磯村 豊太郎
成瀬 正恭
小山 完吾
井上角五郎
久原房之助
西野惠之助
高橋義雄
平沼亮三
伊澤良立
磯部保次
石河幹明
石川彦太
堀井卯之助

維持會相談役

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

和田 豊治
門野 幾之進
門野 鍊八郎
高橋 光威
高橋 正信
村上 定
野崎 廣太
對馬 健之助
對馬 機
永井 好信
内田 直三
倉知 誠夫
松原 重榮
松尾 久男

維持會相談役

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

福澤 捨次郎
福澤 桃介
藤田 讓
小山 完吾
足立 莊
坂田 實
北川 禮弼
木村清四郎
菊本直次郎
志立鐵次郎
日比翁助
平沼亮三
森村開作
森下岩楠

維持會相談役

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

(以上東京)

鈴木 梅四郎
井上 周
濱崎 健吉
西松 喬
金塚仙四郎
高木利太
土屋元作
武藤山治
梅田芳松
谷井保
山口吉郎兵衛
山口八左右
鴻池新十郎
小林林之助

維持會相談役

同 同 同

小林 一三

阿部 房次郎

清水 榮次郎

島 定治郎

維持會相談役

同

囑託

平賀 敏
本山 彦一
山名 次郎

(以上大阪)

第二十三章 卒業生

(イロハ順)

卒業生

(△死亡者、○ハ大學部ヲモ卒業セシ正科卒業生)

安政五年本塾創立ヨリ明治六年ニ至ルマデ未ダ卒業ノ制ナシト雖モ其在學年限學力其他ノ廉ニヨリ卒業生ト同視スベキ者
今永 洪造 大分
飯田 平作 大分
石坂 專之助 富山
△岩 田 蕃 千葉
△岩 永 春 一 長崎

△稻 垣 銀治 新潟
△稻 垣 徹之進 三重
△稻 毛 每次郎 大分
△生 田 隆次郎 大分
△猪 飼 麻次郎 大分
伊 藤 祐之 大分
伊 藤 大有 大分
石 川 義一郎 三重
△濱 野 定四郎 大分
橋 口 宗儀 宮崎

△早 矢 仕有的 東京
△馬 場 辰猪 高知
△萩 友五郎 大分
△林 正明 熊本
伴 小四郎 福島
西 尾 和一 東京
錦 織 朔郎 東京
△豐 住 秀堅 東京
△富 森 篤三郎 滋賀
土 居 康一 滋賀

△小 橋 篤次郎 東京
△小 橋 仁三郎 大分
小 川 駒 和歌山
△小 野 恒剛 山梨
△岡 本 貞然 東京
△岡 田 攝藏 熊本
△大 橋 淡 和歌山
△大 橋 章 和歌山
△和 田 義郎 和歌山
△和 久 正辰 愛媛

△渡 邊 恒吉 和歌山	△渡 部 久馬八 新潟	門 野 幾之進 三重	甲 斐 織 衛 東京	甲 斐 鐵 三郎 廣島	甲 賀 信 郎 千葉	片 山 淳 吉 京都	片 山 長 藏 長崎	△吉 川 泰次郎 和歌山	△吉 田 省 三 埼玉	吉 村 寅 太郎 東京	吉 田 政 之丞 和歌山	△四 屋 純三郎 宮崎	△高 嶺 秀 夫 東京	△高 木 喜 一 大阪	高 橋 利 亭 和歌山	田 尻 稻 次郎 東京	田 村 邦 榮 和歌山	多 田 直 繩 和歌山	谷 田 敏 三 三重	竹 田 達 三 和歌山	△丹 文 次郎 愛媛
草 郷 清 四郎 和歌山	津 田 雄 象 大分	津 田 純 一 大分	△土 屋 寛 信 東京	坪 井 仙 次郎 東京	塚 原 周 造 千葉	△中 上 川 彦次郎 東京	中 島 武 藤 太 新潟	中 野 謙 三郎 新潟	中 野 松 三郎 大分	△中 村 清 一 愛知	△中 村 英 吉 大分	△中 村 田 吉 京都	△永 田 健 助 東京	△永 田 一 二 大阪	名 兒 耶 六 都 新潟	成 田 五 十 穂 北海道	長 沼 熊 太郎 和歌山	村 井 信 晴 和歌山	△村 上 辰 二 郎 熊本	△村 尾 眞 一 兵 庫	△内 田 嘉 一 千葉
野 田 鷹 雄 京都	△野 田 久 六 郎 和歌山	△野 木 貞 次郎 大分	九 鬼 隆 一 京都	△栗 田 胤 顯 千葉	△工 藤 精 一 東京	熊 谷 辰 太郎 大阪	久 米 弘 行 高知	國 井 弘 記 静岡	△國 澤 能 長 東京	矢 野 文 雄 東京	安 岡 雄 吉 高知	山 内 達 太郎 鳥取	△山 岡 謙 介 廣島	山 口 克 己 大分	△八 木 澤 直 澄 栃木	柳 本 直 太郎 福井	松 山 棟 庵 東京	△松 島 良 藏 兵庫	△松 井 哲 雄 鳥取	△松 田 晋 齋 愛媛	△町 田 陽 藏 鹿兒島
△福 澤 英 之 助 東京	△藤 野 善 藏 新潟	△藤 本 壽 吉 大分	深 間 内 基 福島	△小 泉 信 吉 和歌山	△小 泉 芳 五 郎 和歌山	△小 杉 恒 太郎 和歌山	△小 杉 俊 次郎 和歌山	△小 杉 雄 七 郎 新潟	△小 林 小 太郎 愛媛	△小 林 小 太郎 千葉	△小 出 辰 太郎 三重	△小 谷 忍 京都	後 藤 牧 太 愛知	△近 藤 良 齋 神奈川	△近 藤 浩 平 愛知	△海 老 名 晉 宮崎	寺 井 純 司 青森	朝 吹 英 二 大分	阿 部 泰 藏 東京	△秋 山 恒 太郎 東京	△麻 生 武 平 東京

安藤 正胤 東京
 △蘆野 卷藏 新潟
 △板倉 金次郎 東京
 △佐久間 英二郎 熊本
 △佐竹 士太郎 大分
 △櫻井 恆次郎 大分
 △木村 一步 東京
 △木部 第美 山形
 △菊池 財藏 宮崎
 △菊池 九郎 青森
 △湯川 頼二郎 長崎
 △箕作 佳吉 東京
 △三島 德藏 新潟
 △三浦 謙三郎 静岡
 △三輪 光五郎 東京
 △宮地 欣吉 千葉
 △莊田 平五郎 大分
 △城 泉太郎 新潟
 △新宮 涼園 東京
 △島津 萬次郎 大分
 △日原 昌造 山口

肥田 昭作 東京
 久雄五郎 大分
 森下 岩楠 和歌山
 △森島 修太郎 東京
 森 春吉 高知
 △物集 女清久 東京
 △瀨谷 小次郎 栃木
 △瀨谷 誠三郎 千葉
 △關藤 成緒 廣島
 △道田 彦十郎 鹿兒島
 △杉田 進 福島
 △鈴木 東一郎 愛知
 △須田 辰次郎 大分
 楠 正己 愛知
 牛場 卓藏 三重
 △矢部 善藏 静岡
 小山 雄 神奈川
 手島 春司 和歌山
 安藤 源五郎 東京
 齋藤 峯雄 東京

△仁田 勉吉 静岡
 △本多 孫四郎 長崎
 大橋 久雄 和歌山
 △小浦 鍊三郎 和歌山
 田中 精一 新潟
 △那珂 通世 東京
 △山本 讓輔 山口
 山成 哲造 東京
 前田 興福 井
 松浦 謙吉 大分
 江口 高邦 熊本
 △秋葉 靜樹 木
 △坂口 佐吉 新潟
 △庄原 虎之進 山口
 波多野 承五郎 静岡
 小杉 敏三郎 和歌山
 加藤 常七郎 千葉
 △藤田 茂吉 大分
 雨山 達也 大分
 箕浦 勝人 東京

△森村 豐吉 東京
 磯崎 道二 神奈川
 伴 誠藏 新潟
 豐川 良平 高知
 大久原 次郎 山形
 録田 榮吉 東京
 △吉川 義幹 岐阜
 △吉田 立卓 山形
 △田中 寛愛 媛
 △竹内 正志 岡山
 △都築 經二郎 愛媛
 △中井 芳楠 和歌山
 △上田 嘉十郎 和歌山
 △葛親 順巖 手
 谷井 保和 和歌山
 △松永 亮福 井
 松本 邁兵 庫
 江口 正人 熊本
 朝比奈 成裕 山形
 △秋松 茂山 形
 △吉良 享愛 媛

鈴木 充美 三重
 菅野 信二郎 和歌山

△島山 治信 山口
 △岡健 一大 分
 △岡本 經朝 静岡
 △大崎 鄂八郎 新潟
 △片岡 順三 兵庫
 △長岡 謙次郎 京都
 △永田 一茂 千葉
 △朽木 綱一 京都
 △山口 大造 廣島
 △山田 修亨 大分
 △坂部 祐吉 大分
 △弓場 才三郎 兵庫
 志賀 直温 東京
 明治九年七月
 本科卒業(一五)
 石黒 磐愛 知
 △岩野 忠誠 埼玉
 △岩越 重暢 神奈川

岡田 省三 徳島
 △岡村 宗太郎 和歌山
 △永井 丹治 千葉
 長島 芳次郎 大分
 上野 丑太郎 福岡
 △山口 松五郎 島根
 △藤田 萬造 岡山
 小坂 駒三郎 和歌山
 酒井 良明 東京
 坂田 實岡 山
 △岸田 正和 山
 △平井 存青 森
 明治九年十二月
 本科卒業(九)
 △岩永 勝巳 福岡
 △岡健 太夫 分
 甲藤 大器 高知
 鹿島 秀磨 兵庫
 △柏田 盛文 鹿兒島
 △津田 茂理 長野
 △辻 九一 岐阜
 北小路 俊茂 東京

△森川 順一 兵庫
 明治十年七月
 本科卒業(一〇)
 △石津 英治 山口
 岩井 誦宮 城
 西村 熊太郎 福岡
 小倉 實三 山口
 △國府 寺則 愛媛
 △佐竹 靜枝 大分
 △三浦 元太郎 和歌山
 美澤 進 神奈川
 △溝越 爲吉 長崎
 △秀島 孜郎 長崎
 明治十一年四月
 本科卒業(七)
 市川 勝太郎 和歌山
 小栗 栖香平 東京
 神津 國助 長野
 田中 米作 新潟
 △津田 政協 愛媛
 栗林 勝太郎 千葉
 茂木 吉次 長野

△大河内 輝剛 東京
 高柳 敬男 静岡
 松浦 正重 三重
 三輪 信一郎 三重
 明治十一年十二月
 本科卒業(一一)
 石澤 命世 奈良
 村井 保固 愛媛
 △矢野 忠輔 山口
 眞中 直道 埼玉
 △松本 福昌 神奈川
 △福島 通富 崎
 福田 耕太 山口
 小島 又藏 山口
 赤坂 龜次郎 福島
 島田 壯介 山口
 △廣瀬 植藏 大分
 明治十二年四月
 本科卒業(一四)
 池邊 作郎 長崎

<p>△岩井 友輔 千葉</p> <p>△菅 友輔 千葉</p> <p>△岩橋 謹次郎 北海道</p> <p>△高島 小治 東京</p> <p>△田中 泰太郎 東京</p> <p>△多田 彌三郎 東京</p> <p>△野村 才二 兵庫</p>	<p>△久留島 通簡 東京</p> <p>△山崎 程者 愛媛</p> <p>△丸毛 豊太郎 大分</p> <p>△木下 利政 長崎</p> <p>△世木 公亮 山口</p> <p>△吉田 祥三郎 大分</p> <p>△黒川 正静 岡山</p> <p>△齋藤 恒太郎 三重</p> <p>△水谷 幸太郎 大分</p> <p>△波多野 一 山口</p> <p>△松岡 直忠 富山</p> <p>△眞野 觀我 東京</p> <p>△枝元 長辰 鹿兒島</p> <p>△盛 與三郎 高知</p>	<p>△池内 源太郎 宮崎</p> <p>△飯田 善彦 山口</p> <p>△戸張 志智之助 埼玉</p> <p>△神尾 金彌 青森</p> <p>△高橋 正信 東京</p> <p>△野田 精一 京都</p> <p>△矢田 績 兵庫</p> <p>△前田 斗機二郎 山口</p> <p>△松尾 亮 和歌山</p> <p>△坂井 次永 青森</p> <p>△澁江 保静 岡山</p> <p>△大島 景次 山形</p> <p>△渡邊 修 愛媛</p> <p>△高橋 周治 東京</p> <p>△山田 要藏 静岡</p> <p>△矢野 可宗 愛媛</p> <p>△小出 儀一郎 徳島</p> <p>△岸 幹太郎 和歌山</p>	<p>△奥田 直之助 鹿兒島</p> <p>△覺前 政藏 兵庫</p> <p>△梅木 忠朴 愛媛</p> <p>△小林 楠之丞 和歌山</p> <p>△長谷川 久次郎 兵庫</p> <p>△大竹 直一 東京</p> <p>△川端 久輔 東京</p> <p>△川野 明倫 山形</p> <p>△久野 英吉 三重</p> <p>△山崎 新太郎 山形</p> <p>△福澤 捨次郎 東京</p> <p>△北川 禮彌 福井</p> <p>△平賀 敏 東京</p> <p>△森 常樹 熊本</p> <p>△千田 鈞 岡山</p> <p>△井上 角五郎 廣島</p> <p>△岩橋 三郎 東京</p> <p>△岩井 順吉 高知</p>
---	---	--	---

<p>△渡邊 治 茨城</p> <p>△和田 基太郎 大分</p> <p>△米井 成章 千葉</p> <p>△高橋 義雄 茨城</p> <p>△宇佐美 祐次 三重</p> <p>△野澤 元次郎 東京</p> <p>△來島 正時 福島</p> <p>△栗原 半八郎 埼玉</p> <p>△牧田 龜吉 大分</p> <p>△福澤 一太郎 東京</p> <p>△小林 恆雄 山口</p> <p>△東 三之助 宮城</p> <p>△青山 理三 東京</p> <p>△佐武 保太郎 和歌山</p> <p>△木村 勇次郎 青森</p> <p>△村田 彬 茨城</p> <p>△石井 安之助 廣島</p> <p>△金井 又二 兵庫</p> <p>△加茂 東作 岡山</p> <p>△横山 耕一郎 群馬</p>	<p>△坪井 松太郎 東京</p> <p>△村田 祐信 東京</p> <p>△山口 邦三郎 茨城</p> <p>△小寺 芳次郎 岐阜</p> <p>△小林 福之助 静岡</p> <p>△新井 由三郎 埼玉</p> <p>△森 二 三 和歌山</p> <p>△長谷川 丈太郎 新潟</p> <p>△早川 政太郎 宮城</p> <p>△堀 三 事 東京</p> <p>△細井 房重 愛媛</p> <p>△小野 岩太郎 千葉</p> <p>△永井 要一郎 千葉</p> <p>△宇佐美 駿太郎 山形</p> <p>△山岸 毅一郎 和歌山</p> <p>△山田 良作 富山</p> <p>△安藤 達二 新潟</p> <p>△齋藤 芳 群馬</p> <p>△木村 良平 新潟</p>	<p>△井坂 直幹 茨城</p> <p>△石川 謙二 山形</p> <p>△飯塚 善作 新潟</p> <p>△原山 彌吉 新潟</p> <p>△林 房太郎 愛知</p> <p>△金子 静一 静岡</p> <p>△金井 茂太郎 北海道</p> <p>△川村 惇 茨城</p> <p>△高力 久也 新潟</p> <p>△田島 浩造 群馬</p> <p>△中島 正舎 大分</p> <p>△松井 雄次 愛知</p> <p>△後藤 熊男 大分</p> <p>△木村 清四郎 岡山</p> <p>△今泉 秀太郎 東京</p> <p>△加藤 道三 新潟</p> <p>△加勢 春吉 山形</p> <p>△谷本 誠太郎 香川</p>	<p>△久保田 正英 長野</p> <p>△佐藤 光作 愛媛</p> <p>△神保 速次郎 香川</p> <p>△神 貞雄 岐阜</p> <p>△伊藤 藤次郎 新潟</p> <p>△林 夙藏 滋賀</p> <p>△奥山 森次郎 山形</p> <p>△大塚 新太郎 新潟</p> <p>△和田 豊治 大分</p> <p>△門野 重九郎 三重</p> <p>△高野 禮太郎 長野</p> <p>△谷尾 範吾 鳥取</p> <p>△高津 次盛 青森</p> <p>△梅田 芳松 滋賀</p> <p>△野田 佐三郎 福岡</p> <p>△野田 清種 佐賀</p> <p>△桑原 虎治 大分</p> <p>△矢野 恒太郎 愛媛</p> <p>△松尾 侃次郎 三重</p> <p>△前田 安太郎 東京</p>
---	--	---	--

△福田保次郎 滋賀	△山下鉛太郎 三重	宮崎三郎 静岡	△鍋島直柔 東京
△近藤彌三郎 福岡	深井萬吉 三重	重信吉十郎 鹿兒島	△增田教貴 宮城
安積彌六郎 宮城	水谷六郎 奈良	△平野牛治 兵庫	△藤田一松 宮崎
淺野徳藏 滋賀	杉浦光三郎 山形	△飯岡彦助 鹿兒島	△藤山左市 山口
佐久間山治 岐阜	明治十八年十二月	杉山 喬 千葉	寺崎常五郎 新潟
貴虎武俊 和歌山	正科卒業(二二)	明治十八年十二月	△木村庄之助 和歌山
△吉良極吉 愛媛	井田清三 兵庫	別科卒業(一)	△杉浦壽太郎 静岡
棟葉元三郎 静岡	濱野執三郎 東京	明治十九年七月	明治十九年七月
日比翁助 福岡	奥村惣作 北海道	別科卒業(一九)	別科卒業(三)
平田金巳 千葉	奥山猪三郎 東京	△井上昇次 愛媛	長橋政太郎 新潟
明治十八年四月	△加藤誠 石川	岩本述太郎 島根	島村淺夫 福岡
本科卒業(一四)	川上英一郎 新潟	△津雅通 福岡	住助頼之進 島根
石河幹明 茨城	影山益吉 千葉	△濱田榮次郎 徳島	明治二十年四月
△石井重吉 新潟	横山幹呂久 岐阜	△尾崎幸三郎 静岡	正科卒業(二七)
原田敬吾 秋田	根來貞次郎 福島	小野友次郎 大分	△板垣仁輔 島根
△有賀久次郎 福島	山名次郎 鹿兒島	渡邊節造 山口	伊吹雷太 滋賀
△林彌三郎 大阪	横山辰吉郎 千葉	△神部豊三郎 静岡	石毛辰五郎 千葉
△中山武次郎 石川	△古川岩吉 東京	田中勉松 静岡	市川元太郎 埼玉
△中野稽吉 東京	坂井郁太郎 東京	瀧口吉良 山口	△筑紫三郎 福岡
△野野秀登 山形	笹沼光太郎 福井	曾我捨次郎 岐阜	△小澤市三郎 栃木
			△渡邊賀秀 富山

甲賀菊太郎 静岡	尼本國太郎 千葉	△藤田造爾 廣島	△市川高策 山梨
加藤十四郎 佐賀	南部助之丞 富山	寺尾治三郎 三重	大島雅太郎 宮崎
吉堀敬助 千葉	△中村太郎 福島	三本武重 高知	△小野敬吉 高知
△中吉藏 静岡	藤波鐵太郎 岡山	△柴田伴作 静岡	金塚源四郎 茨城
△内海倍太 廣島	阿蘇谷 侃 鹿兒島	△藤原多一郎 熊本	高田市五郎 埼玉
△内田彌八 徳島	菊池武徳 東京	△正田倍吉 三重	久保義三郎 香川
熊丸壽三郎 山口	森茂枝 高知	△平田兵吉 長崎	△久家仙太郎 香川
山田梅藏 大分	明治二十年十二月	別科卒業(二二)	山口八左右 兵庫
山田島治郎 和歌山	正科卒業(一九)	△石川彌三藏 青森	△山村辨之助 高知
△松下忠行 東京	井上純三郎 愛媛	伊澤良立 北海道	坂本易徳 神奈川
△佐藤熊藏 福岡	外崎直之助 神奈川	原口信太郎 埼玉	岸本賀昌 沖繩
△佐藤三郎 福岡	△和田定一 新潟	岡部盛輝 東京	木村時之進 廣島
澤木吉三郎 福岡	神谷舜策 静岡	米井源治 岡山	△門馬豊次 宮崎
菊池三九郎 東京	高橋多作 石川	中駒次郎 大阪	○門馬伊賀彦 高知
△柴平六 鹿兒島	△賀教磨 和歌山	△上野勘助 和歌山	明治二十一年七月
△鈴木幸二郎 茨城	○中村丈太郎 東京	△野崎公胤 埼玉	別科卒業(二四)
△鈴木幸二郎 茨城	中村兼四郎 茨城	前田俊彦 熊本	池田愷平 山形
△土生青福 岡	牛場徹郎 三重	近藤尙造 静岡	△石橋久吉 和歌山
	紅林寛策 静岡	三浦賢之助 青森	岩城隆直 富山
	福地文次郎 神奈川	森彌三郎 廣島	△西原牛次郎 鹿兒島

<p>△高橋 二郎 新潟 △田中 鏡太郎 東京 ○總崎 貞夫 山口 中尾 辰介 山口 野口 寅次郎 群馬 久原 房之助 大阪 倉井 忠廣 島 △山田 恭寛 山形 藤原 銀次郎 長野 江藤 林太郎 静岡 下山 格三 神奈川 下田 武高 高知 ○弘瀬 伊左馬 高知 △茂木 知慎 秋田 ○千住 義一郎 滋賀 鈴木 島吉 静岡 明治二十二年十二月 別科卒業(三〇)</p>	<p>△高橋 二郎 新潟 △田中 鏡太郎 東京 ○總崎 貞夫 山口 中尾 辰介 山口 野口 寅次郎 群馬 久原 房之助 大阪 倉井 忠廣 島 △山田 恭寛 山形 藤原 銀次郎 長野 江藤 林太郎 静岡 下山 格三 神奈川 下田 武高 高知 ○弘瀬 伊左馬 高知 △茂木 知慎 秋田 ○千住 義一郎 滋賀 鈴木 島吉 静岡 明治二十二年十二月 別科卒業(三〇)</p>
<p>△片岡 喜三郎 香川 △田端 重辰 埼玉 武田 政二郎 和歌山 △鶴田 正太郎 静岡 對馬 健之助 青森 中田 辰三郎 北海道 中川 良策 東京 △長島 源三郎 埼玉 上田 保高 高知 野田 正太郎 青森 藤田 百次郎 埼玉 近藤 常忠 茨城 木下 立安 和歌山 宮永 熊吉 大分 鹽谷 五十足 群馬 鹽田 駒吉 徳島 白石 邦三 東京 平田 力之助 三重 明治二十二年四月 正科卒業(二五)</p>	<p>△片岡 喜三郎 香川 △田端 重辰 埼玉 武田 政二郎 和歌山 △鶴田 正太郎 静岡 對馬 健之助 青森 中田 辰三郎 北海道 中川 良策 東京 △長島 源三郎 埼玉 上田 保高 高知 野田 正太郎 青森 藤田 百次郎 埼玉 近藤 常忠 茨城 木下 立安 和歌山 宮永 熊吉 大分 鹽谷 五十足 群馬 鹽田 駒吉 徳島 白石 邦三 東京 平田 力之助 三重 明治二十二年四月 正科卒業(二五)</p>
<p>磯村 豊太郎 大分 ○磯野 敬千 千葉 △富田 康三 熊本 △富山 毅一 大分 東條 貞一 兵庫 △緒方 都一 兵庫 蒲生 定吉 静岡 河野 文一 山口 門野 鍊八郎 三重 武田 佐之助 新潟 中矢 四郎 三重 中尾 鹿次郎 熊本 ○長江 重三郎 熊本 ○長島 欽三 千葉 柳 莊太郎 長野 山口 次郎 静岡 小出 收 静岡 古賀 文一郎 福岡 寺島 成信 福岡 青木 耕一郎 茨城 麻生 義一 茨城</p>	<p>△澤田 善太郎 静岡 木村 恆三郎 長崎 ○鈴木 治郎 新潟 明治二十二年四月 別科卒業(二一)</p>
<p>△佐藤 順治 千葉 宮森 麻太郎 廣島 宮崎 萬一 大分 △下村 總策 熊本 明治二十二年十二月 正科卒業(三一)</p>	<p>△佐藤 順治 千葉 宮森 麻太郎 廣島 宮崎 萬一 大分 △下村 總策 熊本 明治二十二年十二月 正科卒業(三一)</p>

<p>△高橋 二郎 新潟 △田中 鏡太郎 東京 ○總崎 貞夫 山口 中尾 辰介 山口 野口 寅次郎 群馬 久原 房之助 大阪 倉井 忠廣 島 △山田 恭寛 山形 藤原 銀次郎 長野 江藤 林太郎 静岡 下山 格三 神奈川 下田 武高 高知 ○弘瀬 伊左馬 高知 △茂木 知慎 秋田 ○千住 義一郎 滋賀 鈴木 島吉 静岡 明治二十二年十二月 別科卒業(三〇)</p>	<p>△高橋 二郎 新潟 △田中 鏡太郎 東京 ○總崎 貞夫 山口 中尾 辰介 山口 野口 寅次郎 群馬 久原 房之助 大阪 倉井 忠廣 島 △山田 恭寛 山形 藤原 銀次郎 長野 江藤 林太郎 静岡 下山 格三 神奈川 下田 武高 高知 ○弘瀬 伊左馬 高知 △茂木 知慎 秋田 ○千住 義一郎 滋賀 鈴木 島吉 静岡 明治二十二年十二月 別科卒業(三〇)</p>
<p>渡邊 浦吉 神奈川 △加藤 齊三郎 三重 △川崎 治三郎 福岡 吉形 吉松 岡山 武田 勇二郎 岡山 △多田 省吾 新潟 中村 利器太郎 東京 南 摩綱夫 東京 夏井 潔 北海道 △上野 竹二郎 佐賀 内山 守倫 静岡 △野中 復太郎 大分 山崎 知遠 佐賀 △山崎 知遠 佐賀 山ノ口 佐次郎 鹿兒島 △松隈 哲郎 佐賀 藤田 順造 東京 △荒木 源五郎 鹿兒島 有本 貞義 和歌山 △佐伯 敬一 兵庫 △佐々木 太郎 東京 菊地 忠太郎 鹿兒島 木村 丑三郎 和歌山</p>	<p>三嘴 舜太郎 神奈川 百武 兼景 佐賀 住田 演次郎 愛媛 杉原 銳三郎 京都 明治二十三年七月 正科卒業(二〇)</p>
<p>伊藤 英次郎 千葉 飯原 佐次郎 福岡 池田 寅次郎 岡山 岩下 庄藏 栃木 石井 健太郎 群馬 △堀田 元親 神奈川 別府 藤馬 山口 ○尾崎 晴次 静岡 △加藤 忠七郎 東京 吉田 忠弘 高知 中西 繁松 兵庫 上田 富輔 山口 山口 幾三郎 兵庫 山田 要作 静岡 △松本 廉四郎 東京 兒島 雅次郎 愛知</p>	<p>△佐藤 弘 新潟 △坂田 英作 岡山 女鹿 左織 青森 三屋 健次郎 石川 明治二十三年七月 別科卒業(四六)</p>
<p>伊藤 宜七 山形 △岩澤 伸通 茨城 △石毛 太一郎 千葉 石濱 鐵郎 兵庫 池澤 德三郎 千葉 林 純一 山口 西村 淳藏 兵庫 奥村 五十八 和歌山 渡邊 一郎 岐阜 可兒 長一 熊本 神代 村次郎 福岡 片倉 幹丸 静岡 吉田 晴太郎 愛媛 吉田 三郎 奈良 吉井 恆太郎 兵庫 四本 奎之助 鹿兒島</p>	<p>△佐藤 弘 新潟 △坂田 英作 岡山 女鹿 左織 青森 三屋 健次郎 石川 明治二十三年七月 別科卒業(四六)</p>

△田中雄福岡
田島久太郎愛知
高橋波郎岐阜
△高橋梅太郎群馬
永島今四郎群馬
長澤甲子次郎群馬
向坂潤太郎群馬
△牛山才次郎長野
梅通菅野
△野村貞吉東京
長勝衛高知
△松崎市千葉
△增田五郎埼玉
子安善義岐阜
△小林孫一山形
手塚貞次郎長野
荒卷恆三郎福岡
齋藤誠之丞埼玉
佐藤虎太郎岐阜
△佐久間喜十郎千葉
坂本邦三郎栃木

雀部猪太郎岡山
△水島耕太郎大分
水澤專吉神奈川
△白山俊三東京
△島尾岩太郎徳島
△樋口丑之輔大阪
土方頼毅愛知
鈴木峰吉北海道
明治二十三年十二月
正科卒業(二二)
石原擴愛媛
井村傳群馬
△今西恆太郎愛媛
伊東彌千代宮崎
芳賀彌吉三重
秋原松藏兵庫
西尾彦太郎岐阜
大島月一群馬
岡藤太郎島根
岡村政太郎和歌山
△吉田六三郎岐阜
植村金吾東京

野田初太郎福島
熊谷鐵太郎岐阜
藤井市三郎三重
△深津磯七群馬
△小松敏太郎福岡
小室副茨城
△鯉淵登喜男神奈川
△坂口周助北海道
菊田行三山形
△清水英太郎新潟
明治二十四年四月
正科卒業(二七)
伊東溫愛知
市川泰之助東京
戸塚藤太郎群馬
△川上忠平群馬
大野幸之助茨城
田澤昌孝東京
田中敏郎東京
段清吉徳島
△高橋力三埼玉
○園部保栃木

曾野源太郎和歌山
○中山和吉神奈川
柳下豐次郎神奈川
權田虎城栃木
木下俊志雄長野
柴林宗太郎滋賀
平良洋一郎岡山
明治二十四年四月
別科卒業(五二)
石川藤太郎愛知
石川遠次郎静岡
△早川最勝愛知
馬場能職大阪
富永忠平新潟
富樫萬知雄新潟
戸破長三郎富山
△緒方準太郎富山
奥崎嘉作青森
岡崎固城新潟
加藤定吉静岡
加來市之助福岡
川崎秀五郎佐賀

神崎嘉藏大阪
△勝門治千葉
△横山茂吉福岡
吉田亮一福岡
△田雜恆六佐賀
高田源次郎東京
高木義答愛知
館野雄虎岐阜
土谷象藏福岡
山田孝道島根
谷中樹千葉
前間恭作長崎
△松田東之助鹿児島
△松野謙一郎長崎
藤田賢次郎大分
古賀巳之吉福岡
△江間金太郎福岡
江見慶觀新潟
江原爲三郎栃木
秋山一裕静岡
赤羽俊良東京
新井甲子造大阪

浅野覺之助茨城
齋藤教關東京
木坂三五六青森
君塚長一千葉
湯淺凡平青森
△箕輪德恆千葉
光吉元次郎佐賀
清水榮次郎大阪
△白尾軍次郎鹿児島
芝嘉久太徳島
△推尾朝磨愛知
柴生田彦三郎埼玉
平田健太郎群馬
百島萬記熊本
森慶造東京
△杉山鎌之助愛知
△鈴木捨喜知和歌山
明治二十四年七月
正科卒業(二七)
石原操愛媛
石原正埼玉
石田吟造島根

△石田宗太郎京都
石井佐五郎群馬
伊澤毅一郎栃木
○井澤安次郎東京
△岡本勇吉郎高知
△堀原安吉大阪
吉田鐵三郎新潟
田島擔和歌山
高木利太大分
△高木勤福岡
△高山準太郎石川
○玉山誠二郎新潟
○相馬佳一郎新潟
津島丈平岡山
上田敬太郎東京
△野崎信廣島
桑原寛高知
安富暢熊山口
佐竹義雄秋田
嵯峨浦次郎群馬
△弓館榊介長崎
○新宮虎之助長崎

榎葉格二静岡
遮谷季五郎熊本
明治二十四年十二月
正科卒業(三一)
池田謙次郎茨城
伊澤平太郎宮城
岩田徳太郎大分
石塚房次郎栃木
磯部保次茨城
馬場千代太郎宮城
橋元石松青森
長谷川隆平新潟
大鶴利三郎長崎
○鬼塚友規静岡
吉川米次郎神奈川
米津武三郎東京
△辻信之助東京
辻武雄熊本
根岸由太郎群馬
中山友藏千葉
中田一作福島

中村助千代 長崎	安岡秀夫 高知	△柳元靜馬 東京	△福井準造 神奈川	△新井田三六 北海道	△新井田三六 北海道	△木本國英 北海道	△木村鋼太郎 愛知	△宮永萬吉 廣島	△箕浦恭五郎 三重	△水島節次郎 大分	△杉田藤太郎 栃木	△今井實三郎 香川	△今井善次郎 群馬	△飯淵龜吉 宮城	△濱田時丸 和歌山	△橋本太吉 廣島	△西山虎次郎 福岡	△鳥居大路建平 東京			
大木文藏 静岡	△大野靜千葉	△小笹伸三郎 長崎	△和田駿八 大分	△上遠野栗秋 田	△吉田東洋和歌山	△多々羅健吉 愛媛	△玉置角之助 三重	△田野豐 鹿児島	△津田兼太郎 滋賀	△津田録太郎 滋賀	△根木幾太郎 岡山	△中島脩吉 岐阜	△長野武熊 鹿児島	△村上辰五郎 福岡	△梅原融 岐阜	△上原類策 大分	△黒田敷江 愛知	△薬師寺政次郎 愛媛	△山崎賢吉 新潟	△曲山鎗太郎 群馬	△松野茂静 岡
丸島俊藏 千葉	△舟田準之助 秋田	△小西雄藏 香川	△兒島彦四郎 岡山	△近藤辰次郎 愛知	△遠藤義太郎 埼玉	△會田長三郎 新潟	△佐野時芳 和歌山	△木村八十太郎 大阪	△宮島熊八郎 群馬	△守田開多 大分	△鈴木傳吾 群馬	△鈴木卓爾 千葉	△菅學應 香川	△住谷彌作 群馬	△今井利喜三郎 埼玉	△石川澤吉 神奈川	△石村馬雄 熊本	△池田保平 静岡	△濱田機香 川		
二宮百松 愛媛	△二宮精一 愛媛	△小田島昌次郎 岩手	△小澤猪太郎 福島	△大野植三郎 京都	△渡邊寅藏 兵庫	△加藤三郎 岐阜	△神崎貞吉 千葉	△對馬良之助 青森	△中村眞 石川	△上山良吉 兵庫	△栗山九長 長野	△山本伸之進 山口	△藤平達吉 栃木	△雨宮準平 埼玉	△坂井品治 東京	△北六一郎 富山	△三上泰助 大阪	△右田古隣 島根	△水谷誠造 廣島	△水井瀨男 長野	

△島 德群馬	神保芳郎 富山	森村開作 東京	杉下正命 愛知	石川良道 宮崎	石川梯次郎 栃木	○林 陸香川	林 十五郎 大阪	橋本雄太郎 岡山	西村敏郎 兵庫	西原民丸 長崎	△小山禎三 長野	△大橋辨太郎 長野	△渡邊千太郎 千葉	△高橋茂澄 大分	△橋正雄 三重	△棚橋新策 岐阜	△永島米吉 東京	△村田房次郎 滋賀	△久保榮吉 神奈川	
山根政吉 廣島	△山本純次郎 宮崎	△松崎時勉 鹿児島	△松田義政 高知	△佐藤密藏 青森	△衣川豐藏 兵庫	△宮崎大三郎 北海道	△水木常太郎 青森	△三宅郷太 岡山	△廣瀬漸 静岡	△森村明六 東京	△伊藤作左衛門 長崎	△伊藤道暉 長崎	△入澤京太郎 岡山	△半田舖磨 東京	△細谷勝茨 茨城	△星谷秀次 熊本	△千坂親通 山形	△奥田榮吉 鹿児島	△大原義剛 福岡	
△渡邊鐵男 岐阜	△和田潔 茨城	△川瀬良丸 三重	△河本頁二郎 岡山	△精谷貞吉 三重	△加納桂藏 大阪	△津藤平長 長野	△影山由太郎 栃木	△金森鶴吉 北海道	△田口彌平 廣島	△田中房太郎 東京	△龍澤哲富 山	△津田喜太郎 福岡	△永田捨若 長崎	△上原勇太 香川	△野依三治 大分	△久保田安之助 山口	△山岩寛平 東京	△藤島長和 福岡	△遠藤十郎 佐賀	△有馬強太郎 鹿児島
△赤井淑三重	△安宅安吉 北海道	△大木宗次郎 山梨	△淺見貞之進 和歌山	△坂口壯介 鹿児島	△佐藤龍藏 福井	△齋藤松次郎 千葉	△三善政太郎 福岡	△篠川又次郎 佐賀	△平山虎次郎 長崎	△七里順之 福岡	△森道本 石川	△接待平太郎 青森	△鈴木徳 東京	△大學部文學科卒業(一)	△川合貞一 岐阜	△川加篤 鹿児島	△片岡新太郎 和歌山	△田中萃一郎 静岡	△中村丈太郎 東京	△村上丈太郎 愛媛

<p>村上方太郎 島根 ^{改姓今井}△紅林 辰馬 東京 久須美 五一郎 新潟 神戶 彌作 長野 足立 莊鳥 取 門馬 豐次 宮崎 明治二十五年十二月 大學部理財學科卒業(一七) 石井重三郎 佐賀 石丸龍太郎 東京 磯野 敬千葉 林 和太郎 福岡 東 郷 誠 福岡 小澤市三郎 栃木 總崎 貞夫 山形 中村友太郎 群馬 ^{改姓柴田}△中島 彌平 群馬 山田 鶴藏 鳥取 小塚正一郎 愛知 小南英策 山形 △櫻井政太郎 大阪 △佐々木六太 新潟</p>	<p>菊本直次郎 三重 ^{改姓櫻井}弘瀬伊左馬 高知 百瀬榮喜彌 長野 明治二十五年十二月 大學部法律學科卒業(五) △市川 高策 山梨 神戶 寅次郎 静岡 長島 金夫 千葉 安田 勝京 都 鈴木治郎 新潟 明治二十五年十二月 正科卒業(四〇) ○伊藤 德太郎 熊本 井上芳次郎 兵庫 △石井 勇 滋賀 ^{改姓高橋}磯野 留藏 兵庫 半谷 高晴 福島 堀江 忠也 長野 △細貝 七郎 福島 星野 惠助 北海道 戸田 芳助 愛媛</p>	<p>小山田 壽吉 福岡 ^{改姓野田}岡 嘉太郎 佐賀 波邊 薰 廣島 葛城 貞祺 石川 横田 政次郎 山口 横田 三之助 東京 多和田 督太郎 岐阜 武内 豐太郎 富山 △塚越 重三郎 群馬 村尾 次郎 東京 △黒田 八郎 神奈川 山口 嘉三治 岡山 山本 又治 愛知 柳井 道治郎 山口 山崎 重雄 東京 藤 鶴 市 大分 小西 源次郎 東京 小林 一三 山梨 安藤 誠 千葉 有馬 純輝 鹿兒島 △秋山 千之助 千葉 坂口 周作 山形</p>	<p>佐野 直四郎 愛知 ^{改姓三浦}紀内 五郎 長崎 氣賀 健三郎 静岡 宮澤 弘孝 埼玉 下 哲太郎 山口 白石 房次郎 愛知 樋口 茂三郎 福岡 △鈴木 辰太郎 宮崎 明治二十六年四月 正科卒業(四二) 石川 愛一郎 千葉 五十嵐 三郎 福岡 原 田 梁 作 東京 春名 榮 作 岡山 堀 程一郎 廣島 小城 德太郎 東京 △長 田 竹次 福岡 萩原 清一郎 山梨 渡邊 竹四郎 福井 △渡邊 雄一 愛媛 △渡瀬 彌太郎 東京 △金平 豐太郎 東京</p>
---	---	--	---

<p>金井平八郎 東京 加賀田 留造 鳥取 甲谷長三郎 大阪 吉岡 常松 廣島 吉村 吉造 東京 武内 莊三 千葉 辰馬 利一 兵庫 竹尾 郁三郎 愛知 高木 清治郎 福島 ○村井 行藏 岩手 ○古部 百太郎 福岡 △梅田 清愛 媛 紅林 峯雄 東京 山口 作次郎 北海道 松本 茂晚 翠高知 松見 得聞 滋賀 ○海老原 介太郎 茨城 △遠藤 猶三郎 静岡 ^{改姓山口}寺師 良介 鹿兒島 ^{改姓藤川}淺見 喜代藏 群馬 佐野 治夫 愛知 佐々木 正造 新潟</p>	<p>佐藤 恒松 福島 岸本 恒太郎 兵庫 ^{改姓中本}三澤 幸三郎 兵庫 ^{改姓藤波}三輪 鶴松 東京 南 德四郎 廣島 △宮 成勝一 山口 鈴木 久藏 新潟 相崎 音太郎 神奈川 明治二十六年四月 別科卒業(四二) 石堂 文英 香川 井上 定次 京都 飯尾 岑三郎 愛媛 △磯貝 德太郎 愛知 早川 賢讓 愛知 新田 定五郎 新潟 △富澤 慶次郎 宮城 ○富吉 豐吉 東京 大西 太郎 香川 ^{改姓岡田}岡本 鏡吉 静岡 ○龜井 隆郎 大分 神川 長久 鹿兒島</p>	<p>加藤 常吉 東京 金井 作太郎 富山 鎌田 米吉 千葉 横井 佐太郎 鳥取 横山 境忍 新潟 芳川 鑑次郎 島根 多田 次郎 石川 續 常太郎 千葉 坪内 卓次郎 東京 鶴田 昌三郎 福井 △中川 彌一郎 滋賀 成富 千八 佐賀 南波 禮吉 愛知 植松 良三 山形 △八木 橋喜一郎 埼玉 △町田 富一 栃木 △松田 潔 富山 松本 染次郎 廣島 兒玉 成夫 大分 小平 彌一 長野 小藤 又市 千葉 有松 尙龍 群馬</p>	<p>有川 貞憲 東京 △北島 重太郎 和歌山 弓削 俊澄 岡山 清水 金六 岐阜 守谷 吾平 岡山 望月 彰 滋賀 △森川 潔夫 岐阜 須永 元 栃木 明治二十六年七月 正科卒業(四四) 幾島 匡太郎 福岡 池田 喜藏 山形 石岡 孝太郎 山形 今福 銀次郎 栃木 羽原 卯三郎 岡山 濱野 門三郎 東京 花房 幸之丞 鹿兒島 △仁賀 保五郎 秋田 西澤 喜四郎 長野 戸田 春三 岐阜 奥山 春枝 山形 △和田 竹次郎 東京</p>
--	--	---	---

川上鐵三郎 北海山形	笠原平次郎 北海山形	笠原英三 茨城	吉田虎太郎 福岡	吉弘素郎 福岡	南莊隆成 福岡	中川猪吉郎 北海道	中川安次郎 北海山形	中西寅之助 三重	中村仲愛 山形	中桐和平 山形	村豐秀 山形	野村祐義 山形	國枝謹 山形	△榑部正介 山口	△山田太郎 山口	山田一 山口	松井誠一郎 東京	松村操 東京	小山光利 新潟	△後藤陽二郎 新潟
新井育藏 長野	有岡直治 岡山	赤堀三男 東京	青山男一郎 新潟	佐藤園次郎 岡山	密山孝吉 岡山	平田萬次郎 群馬	平尾貫一 東京	森金次郎 東京	杉浦彝作 静岡	明治二十六年十二月 大學部文學科卒業(六)	今村猛 山形	石田新太郎 山形	忽滑谷快夫 山形	竹内左馬次郎 岡山	佐藤要吉 東京	宮澤順定 長野	板倉順治 愛知	濱田長策 兵庫	板倉順治 愛知	濱田長策 兵庫
△仁科徳三郎 岡山	岡崎由次郎 大阪	大津寄直平 岡山	田畑晴次郎 岡山	中西秀雄 群馬	中川仁右衛門 滋賀	長沼恒治 岐阜	上田安次郎 奈良	松尾久男 三重	△益子金太郎 栃木	小谷欣次郎 兵庫	△醍醐登喜男 神奈川	△佐野長太郎 静岡	水野次郎 山形	平井安兵衛 滋賀	△森山豊丸 大分	明治二十六年十二月 大學部法律學科卒業(五)	神崎平二 福岡	河井芳太郎 愛媛	高橋光成 新潟	長井於菟四郎 東京
△小林長太郎 埼玉	岩瀬庄助 千葉	池田孝太郎 千葉	△原可也 東京	馬場道太郎 山梨	西山是端 山梨	本庄偉太郎 京都	△堀江吉十郎 香川	兵藤莞爾 愛媛	△頓宮竹太郎 岡山	豐島徳太郎 東京	景平源四郎 愛媛	△川添武文 鹿兒島	△川原春雄 佐賀	寛喜十郎 福岡	△吉見正 東京	田村六郎 山口	田中市三郎 山梨	田部熊之助 山梨	高木庄二郎 石川	

○瀧澤勝彦 大分	○武内祐治 富山	○塚本貞次郎 宮崎	○根岸眞三郎 埼玉	○中井時次郎 大阪	村上宗太郎 東京	野田新熊 鹿兒島	國重政亮 山口	山中高之助 茨城	山本宰之助 三重	山田定一郎 静岡	山田定一郎 静岡	増澤幾太郎 長野	古田良實 栃木	深江彦二 鹿兒島	寺澤準四郎 長野	△秋元修治 千葉	朝吹常吉 大分	佐原篤介 鹿兒島	宮之助 鹿兒島	盛田喜祖八 東京	○岸澤秀二郎 山梨
世古辰磨 三重	△末松忠吾 福岡	明治二十六年十二月 別科卒業(三四)	井口植太郎 和歌山	△石川八百藏 愛知	濱野堅海 東京	濱谷外吉 富山	星野藤太郎 愛知	富塚良司 千葉	小野貫一郎 宮城	△小川雅一 栃木	大津仁次郎 宮城	大久保良俊 埼玉	神尾文次郎 大分	鎌田孝熊 鹿兒島	茅根清十郎 東京	田沼隈五郎 秋田	△高橋喜十郎 神奈川	中田萬太郎 愛媛	△氏家茂一 香川	楠賢殊 秋田	
山本昌一 山口	△益田福徳 山梨	牧野忠篤 東京	△福原佐十郎 岡山	古川又三郎 佐賀	古谷八郎 神奈川	紺野直一 福岡	小林喜代松 鳥取	△阿部喜一郎 新潟	△阿部喜一郎 新潟	佐藤浦次郎 千葉	△菊池西之助 栃木	金周次郎 岐阜	鹿田虎一郎 長野	鈴木新之助 秋田	鈴木博堯 愛知	明治二十七年四月 正科卒業(五三)	岩田正蔵 北海道	今川祐次郎 東京	石沼博 栃木	石沼博 栃木	
石田篤三郎 新潟	池田三郎 東京	五十嵐直彦 新潟	早川萬之助 愛知	橋本勳 東京	△西牧金之助 福岡	○堀江一 東京	○堀田宗一 岐阜	○奥村信太郎 東京	大友春治 秋田	大倉和親 東京	小浦榮太郎 和歌山	及川武次郎 岐阜	△奥洞弘重 東京	△和田秋一郎 北海道	鹿子木彦三郎 東京	加藤泰一 静岡	河村寛裕 愛知	川瀬九二三 滋賀	吉田琢磨 群馬	米田又一郎 兵庫	高林泰虎 静岡

高木利平 高田泰輔 ○玉木泰次郎 ○長尾泰昌 中尾村 永澤定行 △浦田義雄 薄井時彌 熊谷少間 柳本傳造 山本助一 小貫要 △小林彰夫 △朝倉景光 阿部慧水 淺見竹之助 佐藤英太郎 △佐々木正雄 齋藤雄一 北爪牧場 北村明太郎 ○三神敬長	島本徳三郎 △下村佐市 ○末繁字三郎 △鈴木鶴吉 鈴木康造 明治二十七年七月 正科卒業(四七) 井上林太郎 井上良平 五十嵐成滿 岩崎源太郎 長谷川幸次郎 林信一郎 本田三郎 細田久一郎 堀四郎 豊永七郎 尾崎郁次郎 △和氣寛男 △河原田三郎 △柏木樟三郎 △川村爲三郎	△吉田敬藏 館野勝二 田中鐵一郎 永田華之輔 △永見男吉 ○中島鐵哉 ○中島多嘉吉 中谷整次 中山了運 植村悦三 野口孝治 野村吟之助 山口鶴太郎 △山口鶴太郎 福島伊平 △藤井榮四郎 兒玉好熊 小高根純三 寺原源太郎 安達泰睦 秋山源兵衛 △佐藤幸次郎 坂田厚民	征川隆次郎 菊地柳次郎 ○水上久太郎 水野邁郎 △篠崎吉次 城川善藏 最上直吉 森川松之助 末益敬介 須子亥三郎 明治二十七年七月 別科卒業(三五) 井本爲太郎 市野林之助 石田孝吉 今小路富吉 今永幸生 △池田傳吉 林恭次郎 大村保太郎 △大井政治郎 △尾崎泰雄
--	--	--	---

藤順太 河邊稔 片桐秀治 ○武安恒亮 竹道禎 玉木孫藏 高崎能武 高井龜吉 中島靜逸 内山武甫 上田權治 正木権次郎 松本庄之助 △松井康義 船津清五郎 福井白麟 小寺豐次郎 小谷維奈良 朝倉正順 澤井恒夫 佐藤軍治郎 齋藤彌平太	湯川朝隆 篠田直吉 瀨尾等香川 明治二十七年十二月 大學部文學科卒業(八) 井原斗作 奥田竹松 笠原嘉次郎 △高木勤福島 相馬佳一郎 梅原融 齋藤徹五郎 菅學應香川 明治二十七年十二月 大學部理財學科卒業(一四) 井澤安次郎 鬼塚友規 川瀬鏡長 玉木誠二郎 園部保樹 中山和吉 内田榮	丸田治太郎 澤田虎藏 △佐久間鋼三郎 佐藤曆次郎 菊池綾五郎 新宮虎之助 平川長一大 堀口米次郎 明治二十七年十二月 大學部法律學科卒業(一) 正科卒業(三六) 林直太 堀内長雄 本多一太郎 大月十七郎 小畑大太郎 岡本貞三郎 渡邊岩太郎 △桂木喜代造 加藤好太郎 ○香川義諦	△田部邦次郎 瀧澤喜一郎 相馬武新 中川金三 成瀬正行 △野田廣三郎 山田克治 松島保太郎 松島國十郎 牧之瀬祐保 江澤増次郎 足立季一 ○青木徹二 ○佐藤又一熊 △酒井良雄 菊池重雄 岸誠一 喜多誠逸郎 ○清岡龍 △光山圭一
--	---	--	--

△下津 貞美 熊本 本山 隆治 新潟 水津 直太郎 島根 鈴江 竹次郎 島根	△針夕谷 俣吉 愛知 濱崎 和門 太熊 本 原 親家 群馬 馬 西原 澤吉 廣島 島 △本郷 益雄 東京 京 堀越 恭太郎 東京 京 戸塚 長太郎 群馬 馬 大見 米藏 福島 島 若松 忠太郎 北海道 △渡邊 修 岡山 山 吉田 代次郎 神奈川 △谷河 梅人 巖手 △高杉 次郎 岡山 山 △田村 義太郎 奈良 良 永田 成美 福岡 岡	○南部 利克 東京 中 瑩 良吉 愛知 中 井 昌雄 兵庫 庫 内 田 乾吉 三重 △久留 島豊彦 大分 栗田 清宗 群馬 馬 △山田 甚一 群馬 馬 間 中 毅 埼玉 玉 松本 廣次 群馬 馬 小林 巳吉 山形 形 遠藤 孝吉 埼玉 玉 ○阿部 文一郎 巖手 ○堀 美徳 平福 岡 ○櫻井 信四郎 福岡 岡 北岡 幸吉 福岡 岡 宮崎 哲一 長崎 崎 三好 哲介 福岡 岡 三浦 慶三郎 東京 京 源川 英太郎 新潟 潟 源川 賢資 新潟 潟 廣岡 政造 宮城 城	森 精一 岐阜 鈴木 太郎 宮崎 明治二十八年四月 別科卒業(一一) 石間 近之助 静岡 岡 △稻垣 徳兵衛 兵庫 庫 △山内 貞雄 東京 京 渡邊 元榮 新潟 潟 川島 興之作 静岡 岡 山田 敏行 青森 森 △前小屋 泰吉 秋田 田 ○麻生 恆雄 千葉 葉 福田 喜一 山口 口 安生 順一 栃木 木 坂田 母道 愛知 知 箕輪 五助 長野 野 明治二十八年七月 正科卒業(三二) 岩崎 寛巖 巖手 飯田 文男 東京 京 濱田 早苗 高知 知 △島山 繁治 秋田 田	△沼田 忠治 秋田 田 津 順光 愛知 知 上川 英一 山口 口 十河 龍澄 香川 川 中出 久藏 神奈川 △倉田 竹次郎 三重 重 山崎 善治 千葉 葉 藤崎 善治 千葉 葉 赤松 仙太郎 東京 京 坂田 繁太郎 熊本 本 岸 忠佐 久岡 山 三崎 安次 兵庫 庫 △東 堪也 三重 重 △平山 幹次 滋賀 賀 森 一次郎 東京 京 明治二十九年四月 正科卒業(一一) 伊藤 毅一 熊本 本 △岩泉 榮次郎 巖手 大島 重作 北海道 加藤 直法 埼玉 玉 川島 伊三郎 神奈川
---	--	---	--	--

柴田 美穂 福岡 岡 人見 嘉一 熊本 本 守田 喜太郎 栃木 木 ○須田 澤次郎 東京 京 △鈴木 羊太郎 愛媛 媛 △住岡 啓三郎 静岡 岡 明治二十八年十二月 大學部文學科卒業(六)	伊澤 道暉 長崎 崎 林 毅 陸 香川 川 △中 信四郎 福岡 岡 占部 百太郎 福岡 岡 柳田 確治 長野 野 三輪 勘重 静岡 岡 明治二十八年十二月 大學部理財學科卒業(五)	石川 澤吉 神奈川 川 大八木 義雄 京都 都 野田 寛治 東京 京 海老原 介太郎 茨城 城 村木 謙吉 鹿兒島 島 明治二十八年十二月	大學部法律學科卒業(二) 伊藤 徳太郎 熊本 本 松本 間蕭 鳥取 取 明治二十八年十二月 大學部日本法律學科卒業(三)	青木 長之助 福井 井 橋 賴文 富山 山 龜井 陸郎 大分 分 市川 純一 千葉 葉 井東 悅造 愛知 知 ○石田 廣治 新潟 潟 飯田 茂勝 新潟 潟 服部 重三 神奈川 川 林 政一 佐賀 賀 ○西村 右一郎 山口 口 岡本 利市郎 兵庫 庫 岡本 廉 東京 京 △大竹 幹一 神奈川 川 △若井 種次郎 新潟 潟 △蒲池 友廣 福岡 岡	笠岡 宜輔 埼玉 玉 △田中 幾之助 福岡 岡 ○高田 正一 東京 京 中村 麗市 愛知 知 中村 四郎 新潟 潟 永見 一兵衛 兵庫 庫 上野 義太郎 東京 京 黒澤 彌太郎 長野 野 △山下 英熊 熊本 本 眞弓 吉雄 三重 重 △増田 一郎 埼玉 玉 ○藤田 敏夫 東京 京 藤枝 恆造 北海道 道 海老原 郁太郎 茨城 城 △佐久間 研造 廣島 島 △佐久 寛壽 茨城 城 齋藤 志郎 埼玉 玉 水原 建人 岡山 山 關 惠二郎 神奈川 川 明治二十八年十二月 別科卒業(一六) 伊藤 富士磨 愛知 知	△沼田 忠治 秋田 田 津 順光 愛知 知 上川 英一 山口 口 十河 龍澄 香川 川 中出 久藏 神奈川 △倉田 竹次郎 三重 重 山崎 善治 千葉 葉 藤崎 善治 千葉 葉 赤松 仙太郎 東京 京 坂田 繁太郎 熊本 本 岸 忠佐 久岡 山 三崎 安次 兵庫 庫 △東 堪也 三重 重 △平山 幹次 滋賀 賀 森 一次郎 東京 京 明治二十九年四月 正科卒業(一一) 伊藤 毅一 熊本 本 △岩泉 榮次郎 巖手 大島 重作 北海道 加藤 直法 埼玉 玉 川島 伊三郎 神奈川
---	---	--	--	--	--	--

高島太郎 神奈川	中島圓吉 山梨	中島五郎 山梨	鶴澤玄治 東京	栗田宗治 群馬	△柳澤庄太郎 群馬	網藏齋 山梨	赤尾廉 岐阜	足立橋二 大分	△三浦善二 東京	志方勢吉 大阪	新庄潤次郎 岡山	森悦太郎 大分	最上謙吉 秋田	關澤藏 千葉	△鈴木三郎 栃木	明治二十九年七月 正科卒業(三〇)	今井壽 岡山	岩本重四郎 東京	△濱貞男 北海道	△橋本勤 大阪	
西村清 東京	仁王藤八 静岡	富坂和太郎 岡山	太田富治 新潟	渡邊省三 茨城	門田久俊 東京	河野虎尾 愛媛	兼子良孝 福岡	○神谷八郎 愛知	△柏島孝禮 神奈川	笠原徳一 北海道	川村松次郎 東京	田村茂登馬 群馬	永田雄五郎 大阪	中込伊八 山梨	内田興六 岡山	上原茂十郎 兵庫	山道梅太郎 東京	山本淳吉 大阪	松田甚三郎 長野	松永輔群 群馬	牧口孝明 新潟
△増田正輔 東京	小松周助 秋田	森慶一 兵庫	鈴木意介 宮城	明治廿九年七月 別科卒業(九)	岩井鐵太郎 愛知	△土岐尙雄 鹿児島	○折戸静夫 愛知	○香取健之助 茨城	田平義三郎 島根	不破芳太郎 岐阜	秋山義枝 福島	△溝口治三郎 京都	鈴木均平 愛知	明治二十九年十二月 大學部文學科卒業(五)	奥村信太郎 東京	△川原春雄 佐賀	田中一貞 山形	△英比豐次郎 愛知	△宮島巖群 馬		
明治二十九年十二月 大學部理財學科卒業(一五)	市川詔崎 埼玉	伊木行正 廣島	堀江歸一 東京	奥田秀次 福島	△原嘉平 北海道	玉木泰次郎 新潟	瀧澤勝彦 大分	伊達安熊 廣島	探本貞次郎 宮崎	名取和作 長野	長尾泰昌 東京	江口彰藏 新潟	△廣瀬榮次郎 東京	盛田喜祖八 青森	鈴木恆三郎 大分	明治二十九年十二月 高等科卒業(二二)	今井一郎 愛知	今岡義一郎 島根	△西澤正敏 北海道		

二宮貞太郎 新潟	△若林喜千郎 廣島	谷尾鐵四郎 鳥取	○田中武櫻 北海道	塚原嘉一郎 佐賀	鶴澤清治 東京	野口内藏 福岡	山口政夫 岡山	山室政夫 岡山	山村秀雄 長野	山澤清次郎 長野	山口興一 新潟	古川哲三 岐阜	阿部佐市 福島	北川治作 岡山	平澤茂雄 長野	廣田直民 兵庫	△森永秀四郎 東京	鈴木重臣 静岡	鈴木順吉 東京	明治三十年四月 高等科卒業(一八)	今井仙三郎 神奈川
井上充 東京	岩澤由美雄 東京	岩本清三郎 栃木	石渡迪 静岡	知茂長 長野	岡本徳三郎 長野	渡邊篤太郎 新潟	渡邊篤太郎 新潟	△山本道太郎 東京	松橋鐵太郎 長野	傳田由太郎 長野	有村武彦 東京	阿部泰二 東京	○佐野正二 東京	佐藤運十郎 岐阜	明治三十年四月 別科卒業(九)	芳賀宗太郎 三重	加藤岩吉 山形	金行二郎 廣島			
栗原登平 埼玉	古谷定五郎 神奈川	華原雅亮 熊本	△岸川涉 岡山	細川太郎 愛知	柴生田攝三 埼玉	明治三十年七月 高等科卒業(二四)	緒方正亮 東京	加藤龜藏 東京	神林光正 長野	吉田熊太郎 新潟	高木正彦 東京	高橋珍龍 福島	田邊貞助 神奈川	△夏目彌助 長野	植田捨吉 三重	藏田宣彦 山口	△松岡忠兵衛 大阪	松本宗吾 三重	松本伸太郎 埼玉		
△後藤陽太郎 宮崎	木暮播一 群馬	小松恒太郎 廣島	高羅殿満山 山口	上月光忠 東京	佐野朝治郎 茨城	宮武吉平 香川	○鹽田勉之助 香川	○柴田一能 東京	△篠原源藏 鹿児島	明治三十年十二月 大學部文學科卒業(三)	香川義諦 岐阜	谷河梅人 岐阜	武安恆亮 山口	明治三十年十二月 大學部理財學科卒業(一〇)	木間資知 茨城	鷺尾慶輔 北海道	△多賀武次郎 福岡	野村龜太郎 青森	窪田文三 鹿児島		

山崎吉次郎 鹿兒島 三神敬長 山梨 水上久太郎 京都 日向豐作 山形 森本泉 高知	△戸室清太郎 岡山 △太田和文之助 千葉 岡本廉太郎 東京 渡邊長 東京 ○川上義雄 大阪 吉田長三郎 東京 横山貞吉 新潟 横山貞五郎 千葉 竹内勝藏 群馬 谷道耕太郎 東京 △中島喜一 秋田 能美春喜 島根 ○間野春治 岡山 益田福造 神奈川 松本建夫 東京 △小林禎三 東京 小松榮三郎 兵庫 縣豐太郎 静岡 赤坂毅一 福島 ○佐藤勇 宮城 關川常雄 北海道	明治三十年十二月 大學部法律學科卒業(四) 中島多嘉吉 高知 青木徹二 岐阜 阿部文一郎 巖手 佐藤又一 熊本 明治三十年十二月 大學部日本法律學科卒業(二) 南部利克 東京 麻生恆雄 千葉 明治三十年十二月 高等科卒業(二七) ○五十嵐忠彦 新潟 △五十嵐正彦 新潟 ○今城定政 東京 ○今井雄七 北海道 石井佐次郎 群馬	明治三十年十二月 別科卒業(九) 入江治一郎 埼玉 △西山義一 佐賀 星野登造 島根 堤牛治 福岡 永山良三 山口 △秋山宗藏 山梨 三浦治 北海道 ○新宮宗治 北海道 日暮俊 千葉 明治三十一年四月 高等科卒業A組(三三) 井染六三郎 東京 △今井謙七 北海道 ○伊東貞次郎 東京 ○萩原純一 愛知 西村吉次郎 大阪 保柳祖兵衛 長野 岡田實 廣島 奧元清 鹿兒島 大町一二 長野	若宮退藏 東京 △可兒清一郎 大分 鳳間英太郎 山梨 多田寧一 岡山 田中省一郎 群馬 高柳尚吉 山梨 △中村右左吉 東京 ○上田又一郎 滋賀 △黒田壑 廣島 桑名彦三 大分 山本良多 東京 △山脇恒三 大阪 小林完一 山梨 安西傳次 香川 坂田貢 岡山 佐々木良太郎 宮崎 坂本慶吉 東京 坂井寛美 長野 宮崎正一 北海道 平野勝次郎 北海道 △平野勝次郎 東京 肥田玄次郎 東京
---	--	--	--	--

鈴木宗夫 静岡 杉本善次郎 栃木 明治三十一年四月 高等科卒業B組(三一) ○岩澤祥一 秋田 ○岩城一 徳島 池澤正一 千葉 西郡宗三郎 群馬 △西崎可盈 岡山 △新津文一 山梨 △新島定吉 東京 大島光四郎 栃木 ○岡松兵衛三 三重 加藤功 福井 川崎重 東京 唐澤爲一郎 群馬 米津富之助 東京 田中廣健 北海道 久保勝之進 福岡 藏本俊次郎 徳島 前島武市 岡山 松田満富 山	松永安左衛門 長崎 牧水隆 東京 ○小山完吾 長野 阿部貞助 福島 荒木誠之 埼玉 荒木彈藏 熊本 ○齋藤悦治 埼玉 櫻井三治 兵庫 木谷源治 山口 水嶋峻一郎 北海道 平沼亮三 神奈川 ○森永助 神奈川 ○木村清 鹿兒島 鈴木忠平 静岡 明治三十一年四月 別科卒業(一一) 豊田哲輔 愛媛 小澤賢次 静岡 小島正太郎 廣島 川勝良吉 京都 曾木晋大 分	△村松虎雄 北海道 ○山崎元次郎 静岡 佐々木政二郎 大分 守田尚記 熊本 杉村繁次郎 岐阜 明治三十一年十二月 大學部文學科卒業(一一) 竹内忠一 愛知 秋葉盛次郎 東京 明治三十一年十二月 大學部理財學科卒業(一四) 岡本徳次郎 愛媛 渡邊俊治 新潟 △吉田敬藏 熊本 高橋徳衛 廣島 山口力磨 長崎 △山下英熊 熊本 前島光之助 岐阜 藤田敏夫 東京 △淺沼渡平 東京 櫻井信四郎 福岡 佐々木駒之助 秋田	廣海幾太郎 石川 廣瀬春吉 岐阜 須田澤次郎 東京 明治三十一年十二月 大學部法律學科卒業(三三) 奥田榮次 鹿兒島 浦和八郎 愛媛 末繁宇三郎 山口 明治三十一年十二月 大學部日本法律學科卒業(一一) 西村右一郎 山口 明治三十二年四月 高等科卒業A組(三六) 岩城基規 巖手 飯塚愛吉 東京 服部貞郎 三重 橋口純介 鹿兒島 原愛之助 鹿兒島 △西内孚一 東京 鳥養仁一 神奈川 ○鳥井龍雄 熊本 歳田金作 熊本
--	---	---	---

富田治郎助 埼玉 ○岡田益雄 長崎 ○大塚千代造 東京 小笠原安太郎 和歌山 若松英太 北海道 辛島涉 大分 ○横山長次郎 巖手 玉田廣愛 媛 ○田村彰一 徳島 田中寅六 新潟 黒崎登 茨城 △山崎快英 新潟 山田純一 東京 ○丸山豊太郎 富山 ○松城忠敏 静岡 松本光三 愛知 ○深見牧太郎 長崎 小池彰吉 山形 江角泰助 島根 ○里見純吉 千葉 △坂井誠一 長野 島田三郎 大阪	鹽田正太郎 香川 ○諸遊慎吉 島根 須藤久藏 千葉 鈴木秀實 島根 調所彦丸 東京 明治三十二年四月 高等科卒業B組(三六) 伊藤量坪 新潟 服部省三郎 大阪 △西内久吉 高知 ○別府景真 鹿兒島 ○常盤龍藏 神奈川 △小山野昌健 静岡 ○小野吉郎 山口 若麻績順 長野 ○田所貢次郎 三重 ○谷合周 東京 武井重平 群馬 辻甲造 栃木 ○中村泰藏 福井 ○中村茂兵衛 新潟 中村茂兵衛 北海道	中田忠藏 北海道 ○黒田英吉 和歌山 ○山崎喜八 北海道 ○松本知三 千葉 松本義一郎 静岡 △松木要熊 鹿兒島 ○前島繁太 長野 福澤三八 東京 ○藤山九一 佐賀 後藤助太郎 東京 小久保準作 栃木 ○朝比奈正一 鹿兒島 △安藤重三 山梨 ○佐藤隆一郎 静岡 ○齋藤謙三 埼玉 ○瀧田潔 福島 三田慶太郎 東京 ○宮本殿太郎 茨城 宮城茂熊 熊本 ○城後信吉 長崎 鈴木芳太郎 石川 明治三十二年十二月	大學部文學科卒業(一) 佐藤忠七 新潟 明治三十二年十二月 大學部理財學科卒業(一五) △伊原廣司 長野 林敏 茨城 西尾勝藏 鳥取 和田健次郎 大阪 ○櫻尾繁治 福井 田中新太郎 東京 田中武櫻 北海道 中島鐵哉 宮城 内山之成 新潟 町田健群 馬 町尾謙造 長崎 後藤周藏 大分 江口百太郎 佐賀 清水静文 佐賀 廣居精一郎 山形 明治三十二年十二月 大學部法律學科卒業(一) 今井宣二 神奈川
--	--	---	--

明治三十二年十二月 大學部日本法律學科卒業(三) 實藤盛久 愛媛 宮崎大三郎 北海道 篠原仙市 長野 明治三十四年四月 大學部文學科卒業(三) 長濱之興 神奈川 清岡龍 東京 柴田一能 東京 明治三十四年四月 大學部理財學科卒業(二四) △岩佐祥一 秋田 五十嵐忠彦 新潟 △今井謙七 北海道 伊東貞次郎 東京 萩原純一 愛知 富吉豊吉 東京 岡泰郎 三重 川上義雄 群馬 加藤武男 栃木 吉村仁三郎 東京	高田正一 東京 上田又一郎 滋賀 △山脇恒三 大阪 △山本道太郎 東京 山崎元次郎 静岡 間野春治 岡山 小林清一郎 栃木 網藏齋 山梨 △雨宮文一 山梨 佐野正二 東京 佐藤勇 宮城 鹽田勉之助 香川 森永助 神奈川 本村清 鹿兒島 明治三十四年四月 大學部法律學科卒業(五) 香取健之助 茨城 高石眞五郎 千葉 小山完吾 長野 △齋藤悦治 埼玉 佐藤信夫 秋田 明治三十四年四月	大學部政治學科卒業(四) 今城定政 東京 堀内輝美 高知 △中井松太郎 京都 久田宗作 長崎 明治三十五年四月 大學部理財學科卒業(二三) 伊藤量坪 新潟 石田廣治 新潟 鳥井龍雄 熊本 常盤龍藏 神奈川 大塚千代造 東京 △岡田益雄 長崎 金井謙三 埼玉 横山長次郎 巖手 田所貢次郎 三重 田村彰一 東京 谷合周 東京 津山英吉 和歌山 中村泰藏 福井 丸山豊太郎 富山 松本知三 千葉 明治三十五年四月 大學部政治學科卒業(二) 岩城一徳 鳥 松城忠敏 静岡 新宮宗治 北海道 明治三十五年四月 大學部法律學科卒業(三) 諸遊慎吉 鳥取 城後信吉 長崎 △宮本殿太郎 茨城 前島繁太 長野 藤山九一 佐賀 朝比奈正一 鹿兒島 △佐藤隆一郎 静岡 滿田潔 福島 宮本鐵太郎 茨城 城後信吉 長崎 諸遊慎吉 鳥取 明治三十五年四月 大學部政治學科卒業(二) 岩城基規 巖手 小川正夫 静岡 明治三十六年四月 大學部理財學科卒業(三五) 猪熊隆三 神奈川 祝保一 大阪 長谷川萬兵衛 愛知	第二十三章 卒業生
--	--	--	-----------

西川長一愛知	天野鋼一長崎	金澤冬三郎埼玉	深澤喜六東京
星野勉三栃木	里見純吉千葉	明治三十七年四月 大學部理財學科卒業(二九)	藤谷禮重郎愛媛
細切善兵衛福島	宮崎良榮神奈川	石神雄七郎静岡	江波利三郎東京
小川吉慶愛知	三木健輔香川	伊賀不二男愛知	江口貞次佐賀
川口儀一郎山口	鹽田賢二郎香川	伊井熊次郎長野	安達次郎北海道
横山六輔宮城	島田誠雄東京	石口一茨城	赤羽要長野
田村貫一東京	△平本雄一神奈川	服部良太郎千葉	鹽谷良吉秋田
高石義郎福岡	△千住新太郎福岡	原部良太郎群馬	廣瀬市太郎岐阜
角田正喬東京	鈴木幹一郎静岡	乳井龍雄青森	森八郎助滋賀
上島純東京	鈴木市之助東京	千葉晉一東京	仙田大一大阪
△内山田朴福岡	明治三十六年四月 大學部法律學科卒業(七)	川瀬俊繼熊本	明治三十七年四月 大學部法律學科卒業(二)
野村五兵衛東京	長谷川寅八新潟	△川口光三重	遠藤信久東京
菅正意愛媛	△西環島根	神谷八郎愛知	箕輪益雄長崎
久保彦二郎石川	別府景貞鹿児島	田中彌八郎山梨	明治三十七年四月 大學部政治學科卒業(四)
安田安次郎岐阜	荻野萬之助東京	高久敏男群馬	伊藤重郎東京
△山崎慎太郎栃木	山崎喜八北海道	中村治郎吉愛知	松岡正男青森
八木重三郎京都	改姓 松野圓太郎長崎	永田久次郎北海道	福澤大四郎東京
小寺源吾岐阜	改姓 油井幸助福島	内田蕭作東京	深見牧太郎長崎
古宮新吾岡山	明治三十六年四月 大學部政治學科卒業(二)	松永直次長崎	明治三十七年六月 大學部理財學科卒業
古宇田唯吉大分	板倉卓造廣島	眞能清吉愛知	
安部保平埼玉		見城重平群馬	

(特別試験)(六)

今村藤市宮崎	川島光之助東京	松尾武夫東京	濱田精藏鹿児島
根津英一山梨	吉澤利次長野	藤田明三東京	高橋信二郎東京
内山米藏群馬	善根隆三徳島	小西收太郎兵庫	中村愛作東京
△山内季吉佐賀	立田義文高知	安藤復藏東京	佐野甚之助北海道
岸川太郎長崎	田村貞一大阪	佐野三郎東京	明治三十八年十月 大學部理財學科卒業
△城子英一郎長野	田宮貫一東京	由良將平東京	(特別試験)(四)
明治三十七年六月 大學部法律學科卒業	△田宮弘太郎京都	宮本熊三郎大阪	大中圭介東京
大學部法律學科卒業	武田孝之千葉	柴山佳四郎岐阜	山本五郎新潟
(特別試験)(一)	成瀬正忠香川	仁杉寅東京	松野良樹廣島
西内才三東京	中島芳太郎神奈川	勢山松菊宮崎	淺田養藏兵庫
明治三十八年四月 大學部理財學科卒業(四三)	中野益太郎福岡	菅篤三山口	明治三十九年四月 大學部理財學科卒業(四八)
萩原方隆東京	久家長三長崎	明治三十八年四月 大學部法律學科卒業(六)	伊藤保平兵庫
東條吉之助北海道	安川八三郎千葉	小倉誠介鹿児島	石丸忠雄佐賀
千野米作東京	山田新次鹿児島	小川榮一兵庫	今井榮次郎東京
小倉清男東京	山下吉三郎東京	吉堀誠一千葉	池上誠造京都
岡本勇喜熊本	山下親純鹿児島	阿部豊治山形	筏井壽夫富山
小原喜三郎石川	山崎不二雄東京	相川俊二群馬	針生利喜多東京
渡邊次郎東京	山田愛作愛知	宮原清長野	花岡敏隆徳島
鹿島正助大阪	正村六之助富山		星井貢治東京
片山政庸山形			堀内虎友三重

戸川末三 巖手
小原梯彌 鳥取
大島彌三郎 熊本
和田秀治 大分
川本吾一 奈良
河原弘 東京
米田奎太郎 福岡
吉田善太郎 東京
横山隆 福岡
吉川慎一郎 東京
竹村照治 福岡
田原吉郎 長崎
田村賢一 群馬
高木友雄 福島
對馬二郎 青森
都留昭大 分
中島昇大 分
△永島卯兵衛 埼玉
中川彌次 和歌山
村上淺吉 静岡
村瀬寛一 愛知
△村山正作 東京

山縣繁三 東京
山田鏡造 東京
矢野興一 岐阜
矢橋友一 岐阜
山崎毅次郎 兵庫
開瀨富喜三郎 愛知
古渡資義 東京
小島忠熙 東京
遠藤宗六 大分
阿部坤三 滋賀
青木平八 埼玉
澤口虎五郎 徳島
游龍隆吉 長崎
嶺田嘉藏 山形
△柴田藤兵衛 東京
△杉浦壽作 静岡
△吉原睦一 長野
△塚本和平 栃木

長井實三 三重
△内田榮太郎 福岡
黒澤竹三郎 茨城
明石徳一郎 秋田
△關谷賢象 新潟
明治三十九年四月
大學部法律學科卒業(一九)
泉泰三 北海道
和田收藏 長野
紙屋傳一 長崎
海江田平八郎 鹿兒島
吉原茂藏 福岡
田中福太郎 埼玉
田中福太郎 東京
△村井敬七 山形
△宇田川清治 東京
桑原徳三郎 東京
丸山英彌 山形
藤本二郎 大阪
越文彌 秋田
青野宇之助 兵庫
麻生邦郎 福岡

北田内蔵司 千葉
木塚保二 佐賀
南榮太郎 兵庫
芝原豊三 京都
明治三十九年十月
大學部理財學科卒業
(特別試験)(二)
川田正作 神奈川
神山七三郎 群馬
明治三十九年十月
大學部法律學科卒業
(特別試験)(一)
△佐伯六郎 福岡
明治三十九年十月
大學部政治學科卒業
(特別試験)(三)
△小川立太郎 北海道
中山忠顯 東京
近權内 秋田
明治四十年三月
大學部理財學科卒業
(特別試験)(二)

服部奈良吉 奈良
守屋壽三郎 岡山
明治四十年三月
大學部法律學科卒業
(特別試験)(一)
片田貞治 新潟
明治四十年三月
大學部政治學科卒業
(特別試験)(一)
鈴木四郎 大分
明治四十年三月
大學部理財學科卒業(六七)
岩山直介 鹿兒島
石原璋男 長崎
石原政雄 静岡
市岡正亮 岐阜
井川孝平 愛媛
伊藤文治 栃木
伊藤四郎 東京
伊藤早苗 大阪
石原瑞男 東京
伊東祐次 長崎

橋本今三郎 東京
林榮助 大阪
播摩佐太郎 兵庫
△西澤吉次郎 長野
西内志良 東京
細谷保次郎 東京
戸山秀雄 東京
小澤福三郎 東京
大澤平太郎 神奈川
△大塚三之助 北海道
渡邊寧祐 茨城
渡邊登美治 福岡
金子信三 栃木
金子貞三 北海道
鹿島省三 東京
横江芳男 愛知
田中一郎 東京
高屋登福 岡崎
角田保尾 宮崎
中村泰一 東京
内藤克己 愛知

長尾胤一郎 京都
内山茂三郎 北海道
植木靖夫 兵庫
打田讓一 東京
梅原進一 石川
黒田吉次 長野
黒田敬 静岡
久保田門太郎 東京
山本東三 東京
山根全二 大阪
矢野威美 大分
松本芳輔 山口
松浦省三 愛知
益城良造 青森
松本銳治 静岡
藤川信次郎 廣島
△小林慶正 三重
小林笑一 青森
小池正治 新潟
兒玉豐紀 鹿兒島
小久保融 栃木
手塚雄一 東京

明智瀧朗 東京
秋葉純一郎 兵庫
笹田五郎 廣島
木村徳太郎 茨城
喜早睦 山形
宮下利一郎 長野
三輪一三 東京
柴田芳司 静岡
平野睦則 静岡
平富榮一 山口
森貞次 茨城
菅井白生 東京
杉山金之助 東京
明治四十年三月
大學部政治學科卒業(七)
原静長 野
太田貞己 埼玉
大石喜一 静岡
春日正直 長野
津田信吾 愛知
藤崎達磨 福岡
秋野光民 山形

山田 又司 新潟	太田 貫一 静岡	中富 久吉 徳島	山崎 四郎 福岡
明治四十二年三月	内藤 政明 島根	中山 武一 愛知	山本 義路 東京
大學部理財學科卒業(一〇〇)	島根 誠兵 兵庫	村瀬 小太郎 愛知	矢島 茂右衛門 岐阜
猪熊 正雄 島根	金子 壽雄 東京	村上 芳三郎 京都	丸山 調造 茨城
今道 三郎 京都	柿木 利一 東京	上田 芳三郎 京都	牧野 吉次郎 北海道
今村 一雄 熊本	河原 直武 東京	植村 傳 東京	松岡 幸三 三重
伊藤 文平 島根	勝田 孟矩 東京	打田 録郎 東京	△京 須 幸 千葉
磯部 直次 茨城	吉澤 愛三 長野	浦川 篤次郎 福岡	福岡 福平 東京
林 宗一 千葉	米田 善治 兵庫	△内田 賢喜 長崎	小泉 芳五郎 廣島
林 崎伊七 山形	田中 敏一 徳島	倉成 福太郎 福岡	駒井 慶太郎 大阪
服部 信三郎 東京	△高橋 興一 大阪	栗山 剛一 兵庫	足立 健 鳥取
西谷 益雄 静岡	△高島 義次 三重	△久保 秀造 東京	阿部 求己 大分
細谷 資満 東京	竹内 顯太郎 神奈川	山田 甚一 兵庫	荒井 伊平 埼玉
友野 皓 東京	竹内 顯太郎 神奈川	山口 源次郎 静岡	△愛宕 三己 和歌山
富川 光次 東京	長坂 省吾 静岡	山口 義治 静岡	荒井 武衛 福岡
富海 平一 山口	中村 萬次郎 東京	山口 雄太郎 東京	秋山 重次郎 山形
千葉 強三 奈良	中島 勉 東京	保田 松五郎 和歌山	新井 健三 埼玉
大高 洪一郎 神奈川	名倉 力之助 東京	谷地 浩一郎 岐阜	坂口 重登 群馬
大西 卓爾 廣島			櫻井 潜 鳥取
小畑 啓造 廣島			佐久間 顯 千葉
大島 孝三郎 神奈川			五月女 耕造 東京

北川 春造 佐賀	大學部法律學科卒業(一六)	石橋 興市 福岡	清水 長之助 長野
岸 周平 茨城	豐泉 久一 東京	石山 誠泰 東京	隅田 惟基 福岡
木下 剛 岡山	小野 秀一 長野	石田 大助 兵庫	明治四十二年九月
三宅 文徳 大分	小野 田元良 東京	△尾崎 行衛 三重	大學部政治學科卒業
島野 元太郎 東京	河村 茂徳 高知	葛西 慶太郎 群馬	(特別試験)(一)
鹽川 濟吉 埼玉	伊達 良春 東京	加藤 良太郎 群馬	大塚 莊亮 栃木
白井 六郎 東京	津田 久吉 東京	△土屋 鏡藏 東京	明治四十二年九月
平井 眞太郎 京都	成瀬 鳳吉 福岡	高橋 三郎 東京	大學部理財學科卒業(一四八)
廣岡 助次郎 東京	上田 高尙 兵庫	△土屋 鏡藏 東京	明治四十三年三月
平床 岩吉 東京	松田 三徳 香川	熊谷 董次郎 廣島	大學部理財學科卒業(一四八)
平松 茂治 和歌山	小島 常次 埼玉	松田 順造 兵庫	色川 俊次郎 茨城
森 忠雄 三重	小佐 貫一 福岡	手島 精一 熊本	市岡 勲介 岐阜
關口 貞三 茨城	北川 島太郎 大阪	寺門 誠 茨城	井石 直一 山口
須藤 綏治 福島	三輪 茂 東京	坂本 喜三郎 京都	△石田 安太郎 京都
杉道 助 山口	清水 喜三郎 長野	澤山 喜多路 長崎	石橋 周也 茨城
明治四十二年三月	關澤 清之左衛門 新潟	佐々木 精一 東京	今津 芳郎 東京
大學部政治學科卒業(四)		佐々木 堅吉 長野	岩本 湧一 鳥取
伊庭 琢磨 滋賀		木村 利吉 京都	伊藤 謙造 大阪
成瀬 義春 東京		湯淺 鏡三郎 山口	家成 住 福岡
村林 專太郎 東京			
△佐藤 俊輔 東京			
明治四十二年三月			

鳥谷三郎	富森修二	富田一造	富本限二	戸田積美	月田由美	土井正司	堀文彦	堀貞次	堀平重	星野新吉	西川喜代三	△西村庄太郎	仁木正之助	萩原常隆	早川章次郎	花田準策	原清茂	長谷川小録	橋本精吾	橋本直正	林屋友次郎
岩手	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡	盛岡
高濱一兵	高木雄一	吉岡英吉	横山榮枝	加藤正夫	加藤正人	金井盛治	金子新次郎	河村四郎	△金子新次郎	川路利彦	渡邊彌藏	帶谷休五郎	小橋德三郎	小川節助	岡田双助	△大村銳二	大河内勝易	大河内勝易	大庭榮藏	大庭榮藏	千葉七郎
高濱一兵	高木雄一	吉岡英吉	横山榮枝	加藤正夫	加藤正人	金井盛治	金子新次郎	河村四郎	△金子新次郎	川路利彦	渡邊彌藏	帶谷休五郎	小橋德三郎	小川節助	岡田双助	△大村銳二	大河内勝易	大河内勝易	大庭榮藏	大庭榮藏	千葉七郎
中島英藏	中川義隆	中野百世	中野亮直	名取延幸	塚本浩亮	土屋繁男	津川熊彦	岡川重延	谷口茂策	谷口茂策	田中靖次	田中敬三	田中敬三	武島良次	竹中幸輔	竹中幸輔	高津秀吉	高橋忠松	高橋忠松	高橋義三郎	
前田一郎	前野三郎	前川忠藏	松村正太郎	松田暢作	柳田耕一	矢野新一	山田金雄	山田金雄	山田金雄	山田金雄	山田金雄	山田金雄	山田金雄	久留島通彦	久留島通彦	野口勝文	内海八十治	植村直木	村田大吉	長尾虎雄	

坂本琴二	楠原金繼	齋藤功島	齋藤善根	齋藤英造	崎山省吾	秋田九三	青木敏雄	秋元直長	阿部喜十郎	赤澤博文	江崎重三	遠藤兼三	駒井初太郎	小池藤次郎	小池末守	小島謙太郎	小山捨三郎	二見修磨	福田忍	増村彌三郎	眞島鷹之助
久山寅一郎	東谷國太郎	平田眞澄	平岩猪三郎	平井孟雄	肥後信吉	藤谷誠一	島谷米丸	島田清三	清水謙三	清水謙三	下村猛太郎	南谷浩太郎	宮崎美彦	宮城東太郎	宮澤恒治	三村稱平	由比要	清水公行	木下齊	征山二郎	眞島鷹之助
大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治
大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治	大澤政治
岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎	岩崎重次郎

大學部理財學科卒業

(特別試驗)(二五)

石塚勝之助 埼玉
飯塚龍藏 神奈川
岩井俊藏 福島
伊澤正吉 栃木
笹井常三 富山
小畑義行 島根
和田貞造 京都
渡邊銀 東京
田中脩 東京
田中幸治 東京
竹野敬司 長野
△中島登 新潟
中野薫 大分
内々崎豐一郎 宮城
矢福賞次郎 岩手
山形茂夫 福島
山田眞 東京
福長永太郎 東京
小森興吉 東京
永納良雄 三重

榎部二郎 北海道

阿久澤義郎 東京

三部均一 東京

木村孝太郎 東京

富崎清次 東京

明治四十三年五月

大學部政治學科卒業

(特別試驗)(二)

梶原可吉 兵庫

秋山修 茨城

明治四十三年五月

大學部法律學科卒業

(特別試驗)(一)

望月陸平 靜岡

明治四十四年三月

大學部理財學科卒業(二〇九)

井倉和雄 三重

五十嵐市郎 福島

飯沼織之助 大分

市橋次雄 三重

大塚永太郎 東京

岩野勇治 千葉

岩淵英治 東京

岩本小六 島根

板谷松太郎 石川

和泉正二 青森

泉竹次郎 靜岡

稻葉信吉 東京

石井典右衛門 東京

石澤玄 東京

原田政尾 宮崎

原田保一 山口

原口貞 埼玉

早川圭太郎 東京

橋本辰彌 東京

橋元正輝 東京

仁科福太郎 東京

丹羽實 福島

丹羽俊彦 廣島

二瓶慶福 島根

西脇修太郎 新潟

西半田元三郎 佐賀

西村幸治 秋田

△堀俊雄 山口

土井左門 三重

土井清 京都

殿岡廉平 靜岡

德田廣志 新潟

富岡通長 長野

富岡忠造 岡山

富永榮之 長崎

小曾根藏太 東京

小澤善躬 東京

小澤光義 山口

緒方國綱 東京

尾崎信太郎 兵庫

尾島正太郎 大阪

大西邦彦 京都

大矢知基 三重

大藪保夫 東京

△大河原眞太郎 北海道

大鹽貞治 東京

大島菊之助 群馬

大森長四郎 京都

岡田茂樹 東京

和田實 東京

渡邊旭 山口
加藤義治 鳥取
加藤勝三郎 愛媛
加集和三郎 兵庫
上村準一 埼玉
門岡紀一 長崎
川村利吉 栃木
川島清三郎 群馬
河合清太郎 愛知
片山新太郎 東京
金矢民雄 石川
唐牛彦一 青森
鎌田竹夫 東京
龜山龜松 大阪
柏村堅吉 山口
神吉英三 宮崎
余田哲之助 熊本
米津政之 大阪
横山巖 大分
横溝林三郎 東京
吉岡修治 新潟
吉田幸次郎 山形

吉田直彦 東京
吉村良造 東京
吉崎良造 東京
田中稻藏 廣島
田村豐之輔 東京
田島謙三 和歌山
榎本多吉 兵庫
高橋種治 東京
高橋彌次右衛門 栃木
高橋正彦 愛知
高橋武雄 福島
高柳武男 靜岡
高木貞一 愛知
高木允治 東京
種田富生 東京
武部末三 東京
武富龍次郎 佐賀
土屋哲司 新潟
鶴野海藏 長崎
筒井有藏 大阪
根來行藏 山口
直木松太郎 京都

△中村徹雄 東京
中村金輔 宮崎
中村千之助 廣島
中山吉哉 東京
中澤晋 東京
中澤喜三郎 宮城
永井眞輔 岐阜
永田眞輔 熊本
永田豐策 山口
宇田口俊夫 東京
村橋順一 和歌山
村上善雄 島根
村上義一 長崎
村山義太郎 東京
鶴岡廣太郎 東京
内田眞香 香川
浦山一朗 青森
上田猛 東京
野村新作 群馬
久留島徹一 東京
久野乙熊 三重
黑川芳彦 長崎
草野順平 福島

矢島繁敏 岐阜
八木道三 愛知
柳沼平三 福島
山田謙一郎 神奈川
山口得吉 栃木
山崎源二郎 岩手
山岸市三郎 大阪
山本友三郎 新潟
安田進平 鳥取
眞島理一 德島
眞島善貞 和歌山
丸山幸藏 福島
松井誠親 大阪
松原傳八郎 長野
松尾元茂 兵庫
松尾直次郎 長崎
松田光祐 三重
松野和夫 東京
牧野晉長 東京
下條小四郎 東京

石田 實大 阪
長谷川 忠三 大阪
濱中 正一 青森
大塚 政展 愛媛
吉瀬 米作 福岡
村田 岩次郎 東京
黒澤 利重 長野
熊谷 菊麿 東京
谷井 一作 和歌山
山下 重喜 高知
古川 甚一 佐賀
佐藤 謙一 北海道

明治四十四年三月
大學部文學科卒業(七)

井川 滋 東京
堀 梅 天形
小澤 愛園 靜岡
△高崎 堅三郎 東京
中野 照治 靜岡
内海 純雄 東京
安食 高吉 山形

明治四十四年五月

新井 和臣 東京
朝比奈 正信 鹿兒島
秋山 秀雄 山梨
佐藤 督藏 山形
佐藤 三郎 三重
五月女 光三 栃木
坂本 信吉 長野
神原 英雄 福島
神原 準平 愛知
改姓 澤本
改姓 澤本
作川 信次郎 和歌山
篠部 勇藏 東京
木内 正雄 靜岡
木下 季治 鳥取
北岡 香平 東京
北川 日出次郎 福井
北澤 重義 東京
北島 昇 茨城
岸本 良二 山形
湯村 藤助 東京
湯淺 莊吉 靜岡

三井 誠一 山口
三鍋 才次郎 東京
三浦 六郎 東京
三宅 延英 滋賀
瀧畑 忠三郎 和歌山
水野 保治 愛知
水島 左造 長野
岸 鐵治 東京
南 壽三郎 和歌山
宮川 孫一 長野
宮坂 作衛 長野
志村 伊助 神奈川
小代 亦三郎 千葉
新城 貞一 福島
廣川 喜一 東京
平野 藤太郎 神奈川
改姓 藤本
平山 五郎 宮城
望月 次丸 滋賀
望月 友次郎 和歌山
盛田 文造 青森
關谷 力 東京
杉山 龍之助 神奈川

明治四十四年三月
大學部法律學科卒業(二二)

石渡 泰三郎 靜岡
西村 愷吉 滋賀
小原 善次郎 千葉
鎌田 政明 宮城
田中 孝 東京
塚本 太作 茨城
永瀧 松之輔 北海道
深田 政太郎 京都
△藤井 武守 福島
櫻木 彌太郎 高知
柴山 松樹 東京
△鹽田 幸次郎 石川

明治四十四年三月
大學部政治學科卒業(二三)

岩崎 橋金 大阪

舊姓留中

石田 實大 阪
長谷川 忠三 大阪
濱中 正一 青森
大塚 政展 愛媛
吉瀬 米作 福岡
村田 岩次郎 東京
黒澤 利重 長野
熊谷 菊麿 東京
谷井 一作 和歌山
山下 重喜 高知
古川 甚一 佐賀
佐藤 謙一 北海道

明治四十四年三月
大學部文學科卒業(七)

井川 滋 東京
堀 梅 天形
小澤 愛園 靜岡
△高崎 堅三郎 東京
中野 照治 靜岡
内海 純雄 東京
安食 高吉 山形

明治四十四年五月

大學部理財學科卒業
(特別試驗)(一)

明治四十五年三月
大學部理財學科卒業(七)

井上 鏡 東京
伊東 堅治 愛知
伊能 貞三郎 茨城
石原 豪雄 東京
石丸 正雄 佐賀
石岡 致誠 青森
石井 忠次 神奈川
井上 信太郎 大阪
井内 善次郎 兵庫
井口 俊彦 靜岡
井上 甚良 東京
今泉 昇 福島
今井 兼吉 千葉
△稻田 伴郎 三重
△稻田 稔 廣島
板倉 基介 東京
一力 松吉 宮城

飯島 助信 山梨
飯田 四郎 愛知
市川 一郎 東京
林 重助 山口
林 藤之輔 大阪
萩尾 達夫 福岡
早房 寅雄 靜岡
橋爪 修吉 和歌山
服部 信造 愛知
畑 亮英 兵庫
花井 孝三 埼玉
原田 左一郎 靜岡
春田 良三 東京
改姓 伴
改姓 伴
伴 幸之丞 鹿兒島
西垣 圭輝 兵庫
西村 種之助 奈良
西村 種之助 福岡
西澤 隆次郎 兵庫
西能 他次郎 富山
西内 昌良 富山
新野 惣治 宮城

新田 義雄 石川
丹羽 寛 愛知
堀井 欣四郎 三重
堀 季七郎 山形
細瀨 修三 神奈川
細谷 助太郎 新潟
本多 建太郎 富山
富永 鐵男 長崎
外村 富造 滋賀
殿村 亮太郎 東京
小川 理太郎 香川
小河 定雄 兵庫
小野 好郎 福岡
小田 憲次郎 兵庫
小倉 鋼一 東京
小田 梯正 滋賀
尾崎 正文 東京
大西 重治 兵庫
大塚 敬次郎 東京
大泉 彌三郎 東京
大澤 貞一郎 東京